元総社蒼海遺跡群（16）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２００８．２

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

元総社蒼海遺跡群（16）全景（南西から赤城）

元総社蒼海遺跡群（16）全景（南東から榛名）

1号畠跡全景（北西から）

A－1号道路状遺構検出状況

元総社蒼海遺跡群（16）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２００８．２

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

は　じ　め　に

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感ぜられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上野毛の国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に作られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され、日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群（16）は古代上野国の中枢地域の調査であります。上野国府推定区域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出はかないませんでしたが、古墳時代から平安時代にいたる多くの竪穴式住居跡を検出しました。今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果と言えます。また、寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申し上げます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成20年2月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　　砂　川　次　郎

例　　言

1．本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群発掘調査報告書である。

2．調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。

3．発掘調査の要項は次のとおりである。

調　査　場　所	群馬県前橋市元総社町1718、1719番
遺　跡　コ　ー　ド	19A130-16
発 掘 調 査 期 間	平成19年９月21日～平成20年１月18日
整理・報告書作成期間	平成19年11月26日～平成20年２月28日
発 掘 ・ 整 理 担 当 者	櫻井和哉（技研測量設計株式会社）

4．本書の編集は櫻井が行った。原稿執筆はＩを梅沢克典（前橋市教育委員会）、他を櫻井が担当した。

5．発掘調査・整理作業に関わった方々は次のとおりである。

【発掘調査】青木好男・岩倉　保・梅山節子・遠藤好則・大久保征太郎・加賀美紀子・神沢昭三・小和瀬深夏・佐藤和子・白石真知江・関口弘子・関根清子・高野義孝・田島秀光・戸張泰義・西潟　登・丸山文江・森田恵子・矢内ヒロ子・吉野智貴

【整理作業】大友徳恵・桜井美佳・須田公恵・堀越晴子・山下雅江・山本洋子

6．発掘調査で出土した遺物および、図面等の資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

7．以下の諸氏・機関に有益なご指導、御協力を頂いた。記して感謝の意を表したい。（順不同、敬称略）

元総社町自治会、須賀工業株式会社、パリノサーヴェイ株式会社

凡　　例

1．挿図中に使用した北は、座標北である。

2．挿図に建設省国土地理院発行の１：200.000、１：25.000地形図を使用した。

3．遺構、及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

Ｈ…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡　　Ｗ…溝跡　　Ｉ…井戸跡　　Ｄ…土坑　　Ｐ…ピット

Ｏ…落ち込み、風倒木痕　　Ａ…道路状遺構

4．遺構・遺物実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。

遺構　　住居跡・溝跡・井戸跡・土坑…1：60、１：80　竈…１：30　全体図…１：200

遺物　　土器・石製品…１／３　瓦…１／５

5．計測値については、（　）は現存値、［　］は復元値を表す。

6．セクション注記の記号は、締り・粘性の順で示し、それぞれ以下のように表現する。

◎非常に締まり・粘性あり　○締まり・粘性あり　△締まり・粘性ややあり　×締まり、粘性なし

7．遺構・遺物実測図の記号・網掛けは、次のとおりである。

―・―床硬化範囲（遺構）・施釉範囲（遺物）　：遺構炭・焼土・灰範囲　：遺構石断面

：還元焔焼成の須恵器断面　：灰釉陶器の断面・黒色処理・付着物

8．主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-Ｂ　（浅間Ｂ軽石：供給火山・浅間山、1108年）

Hr-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、６世紀中葉）

Hr-FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、６世紀初頭）

As-Ｃ　（浅間Ｃ軽石：供給火山・浅間山、４世紀前半～中葉）

目　　次

口絵１
口絵２
序……i
例言・凡例……ii

Ⅰ　調査に至る経緯……1
Ⅱ　遺跡の位置と環境……1
Ⅲ　調査の方針と経過……4
Ⅳ　基　本　層　序……5
Ⅴ　遺　構　と　遺　物……8
Ⅵ　ま　と　め……16
付　編……17

表　目　次

Tab. 1　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表……3
Tab. 2　竪穴住居跡一覧表……21
Tab. 3　竈一覧表……21
Tab. 4　溝跡計測表……21
Tab. 5　土坑・井戸跡・風倒木痕計測表（1）……22
Tab. 6　土坑・井戸跡・風倒木痕計測表（2）……22
Tab. 7　畠跡計測表……22
Tab. 8　道路状遺構計測表……22
Tab. 9　出土土器観察表（1）……23
Tab.10　出土土器観察表（2）……24
Tab.11　出土土器観察表（3）……25
Tab.12　出土瓦観察表……26
Tab.13　出土石器・石製品察表……26

挿図目次

Fig. 1　元総社蒼海遺跡群位置図……iv
Fig. 2　周辺遺跡図……2
Fig. 3　グリッド設定図……5
Fig. 4　基本層序……5
Fig. 5　元総社蒼海遺跡群（16）全体図……6・7
Fig. 6　竪穴住居跡時期別分布図……16
Fig. 7　H－１・４・８号住居跡……27
Fig. 8　H－２号住居跡……28
Fig. 9　H－３号住居跡……29
Fig. 10　H－５号住居跡・D－33号土坑……30
Fig. 11　H－６号住居跡……31
Fig. 12　H－７・９号住居跡……32
Fig. 13　H－10号住居跡……33
Fig. 14　H－11号住居跡……34
Fig. 15　H－12号住居跡……35
Fig. 16　H－14号住居跡……36
Fig. 17　H－13・15・16号住居跡……37
Fig. 18　W－１・２号溝跡……38
Fig. 19　W－３～５号溝跡……39
Fig. 20　土坑（1）……40
Fig. 21　土坑（2）……41
Fig. 22　土坑（3）……42
Fig. 23　土坑（4）、I－１号井戸跡、O－１号風倒木痕…43
Fig. 24　１号畠跡……44
Fig. 25　A－１号道路状遺構……45・46
Fig. 26　H－１・２号住居跡出土遺物……47
Fig. 27　H－２・３号住居跡出土遺物……48
Fig. 28　H－３号住居跡出土遺物……49
Fig. 29　H－３・４号住居跡出土遺物……50
Fig. 30　H－５号住居跡出土遺物……51
Fig. 31　H－５・６号住居跡出土遺物……52
Fig. 32　H－７・８・10号住居跡出土遺物……53
Fig. 33　H－10号住居跡出土遺物……54
Fig. 34　H－10・11号住居跡出土遺物……55
Fig. 35　H－11・12号住居跡出土遺物……56
Fig. 36　H－12号住居跡出土遺物……57
Fig. 37　H－12・14・15・16号住居跡出土遺物……58
Fig. 38　H－16号住居跡、土坑出土遺物……59
Fig. 39　溝跡、ピット、O－１号風倒木痕出土遺物……60

図版目次

PL. 1　調査区全景、H－１～４・８号住居跡
PL. 2　H－５～７・９号住居跡
PL. 3　H－10・11・13・14号住居跡
PL. 4　H－12・15・16号住居跡、W－１～３
PL. 5　D－４・24、１号畠跡、A－１号道路状遺構
PL. 6　出土遺物
PL. 7　出土遺物
PL. 8　出土遺物

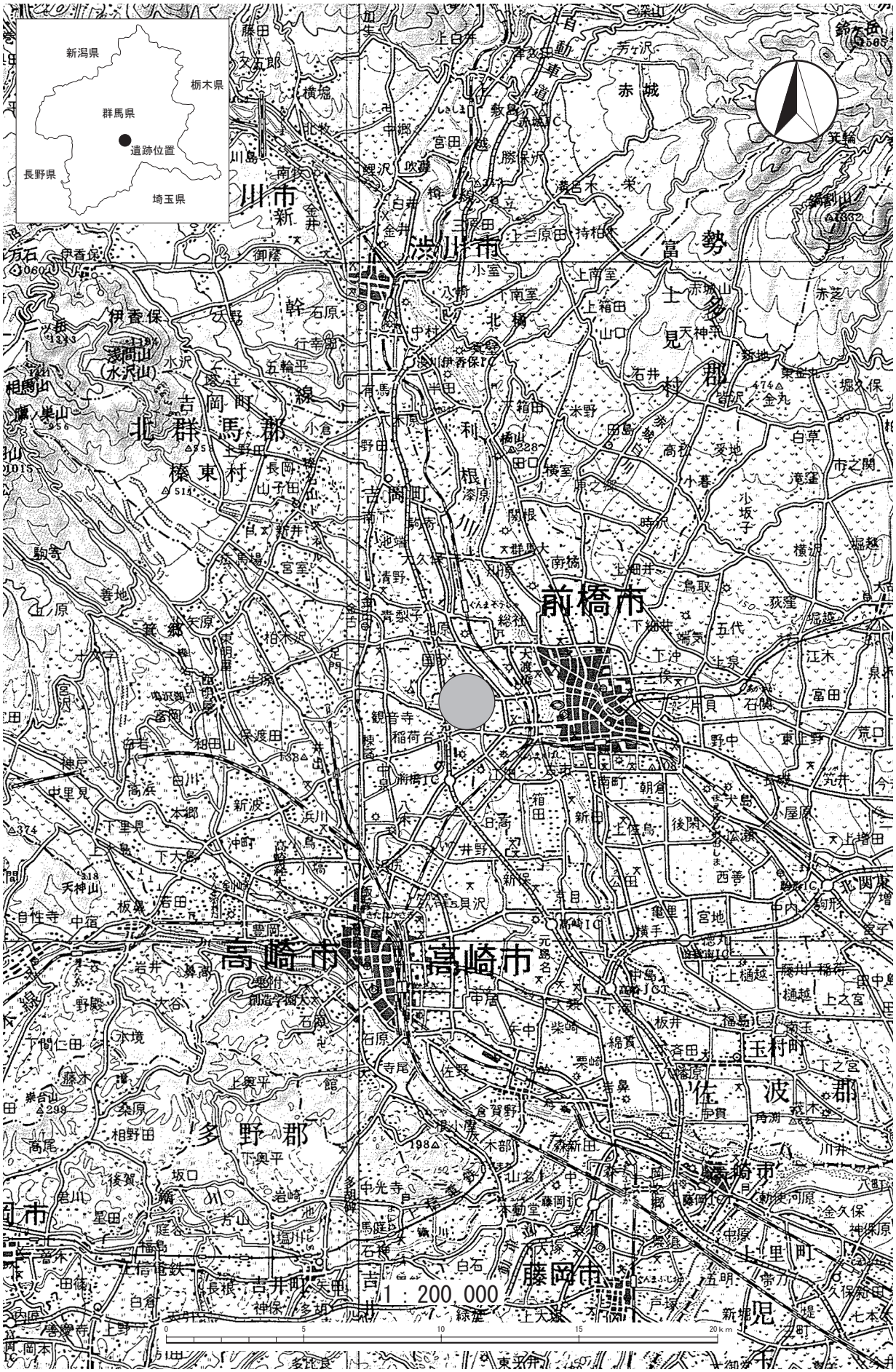


Fig. 1　元総社蒼海遺跡群位置図

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、８年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に亘って行われていることから遺跡地であることが確認されている。

平成19年５月18日付けで、前橋市長　高木政夫（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団へ調査実施の協議を行った。調査団では直営による本発掘調査の実施が困難であるとして、民間調査機関に調査業務を委託したいと解答した。民間調査機関の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、平成19年８月30日付けで前橋市埋蔵文化財発掘調査団と前橋市との間で、埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結した。調査団は民間調査機関である技研測量設計株式会社と、９月３日付けで業務委託契約を締結し、９月21日より現地での発掘調査を開始した。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（16）」（遺跡コード：19Ａ130-16）の「元総社蒼海遺跡群」は区画整理事業名を採用し、数字の「(16)」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

１　遺跡の位置（Fig.１）

本調査地は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3.6㎞の地点、前橋市元総社町地内に所在し、西約0.4㎞には関越自動車道が南北に、南には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に、また東約0.5㎞には市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走っている。本調査地の立地する地形は、前橋台地上、榛名山麓を源にする牛池川、染谷川が開析し形成した細長い微高地上で、標高に標高は122～123ｍの位置にある。また、総社・元総社地区で染谷川や牛池川は、微高地との比高３ｍ～５ｍを測る。遺跡が立地する台地上は主として桑畑などの畠地として利用されているが、本遺跡地の所在する位置は南東に開く緩やかな谷地形を呈しており、水田として利用されていた。

２　歴史的環境（Fig.２）　遺跡名の後の（　）付数字は、Fig.２及びTab.１の遺跡番号と対応する。

本遺跡地は縄文時代以降の多くの遺跡が立地している。縄文時代の遺跡では、八幡川右岸の微高地上に産業道路東（15）・産業道路西遺跡（16）、本遺跡の立地する牛池川右岸台地上に上野国分僧寺・尼寺中間地域（20）・元総社小見Ⅲ遺跡（65）などが挙げられる。弥生時代の遺跡としては日高遺跡（18）、上野国分僧寺・尼寺中間地域（20）や桜ヶ丘遺跡（33）、下東西遺跡（23）等があるがその分布は散漫である。

古墳時代、本遺跡地周辺の区域は県内でも中心的な地域であったことが窺わる。それを示すものとして総社古墳群が挙げられ、古墳時代後期・終末期に至り、王山古墳（７）、二子山古墳（11）、愛宕山古墳（10）、宝塔山古墳（13）、蛇穴山古墳（８）等の首長墓が多数築造された。

奈良・平安時代に至ると、本遺跡周辺は上野国府、国分寺（２）、国分尼寺（３）の建設に示されるように、律令期における上野国の地方行政の中枢として再編成される。上野国府は本遺跡の南東の区域におよそ900ｍ四方に推定され、これに関連する遺跡として、元総社小学校校庭遺跡（14）や、元総社寺田遺跡（48）、元総社宅地遺跡（55）がある。また閑泉樋遺跡（30）では東西方向の大溝、元総社明神遺跡（27）では南北方向の溝跡が検出され、国府域の東外郭線が想定された。国分寺（２）は昭和55年以降の調査により、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。国分尼寺（３）は昭和44・45年のトレンチ調査により伽藍配置が推定され、その後平成12年の前橋市埋蔵文化財発掘調査団の確認調査により、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。なお今回の調査対象区域である元総社蒼海遺跡群（16）は国分尼寺南方150ｍの位置に所在する。ま

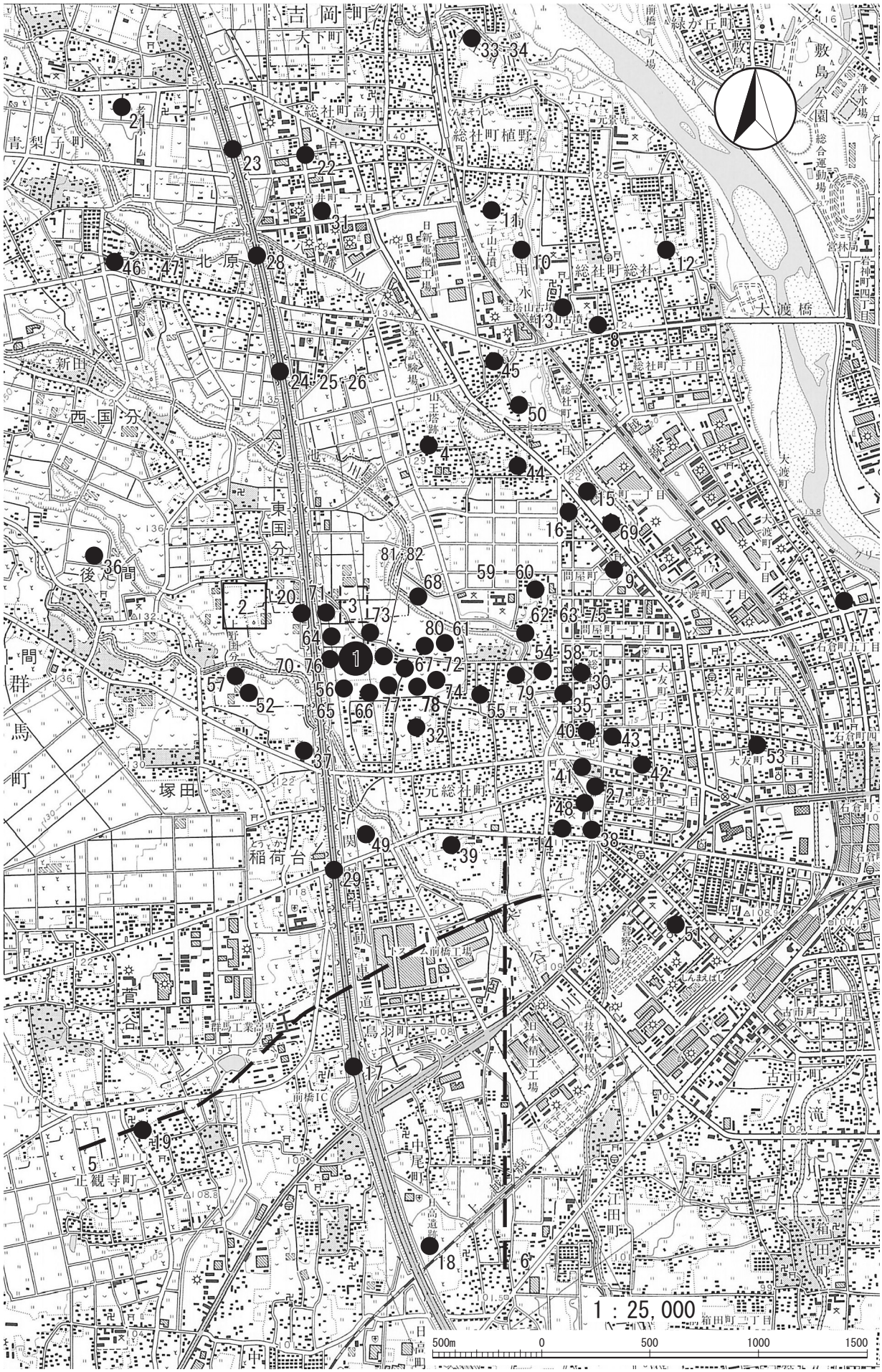

吉岡町
大下町
総社町高井
総社町植野
総社町総社
大渡橋
敷島公園
総合運動場
青梨子町
北原
新田
西国分
東国分
後閑
群馬町
塚田
稲荷台
元総社町
総社町二丁目
大渡町
問屋町一丁目
問屋町二丁目
大友町
大友町二丁目
石倉町五丁目
石倉町四丁目
古市町一丁目
古市町
滝
箱田町
箱田町二丁目
正観寺町
中尾町
鳥羽町
前橋工場
群馬工業高専
日本精工工場
1 : 25,000
500m
0
500
1000
1500

Fig. 2　周辺遺跡図

Tab. 1　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺　跡　名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1	元総社蒼海遺跡群（16）	2007	本遺跡
2	上野国分寺跡（県教委）	1980～88	奈良：金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	（1999）	奈良：西南隅・東南隅築垣
4	山王廃寺跡	（1974）	古墳：塔心礎・根巻石
5	東山道（推定）		
6	日高道（推定）		
7	王山古墳	1972	古墳：前方後円墳（６Ｃ中）
8	蛇穴古墳	1975	古墳：方墳（８Ｃ初）
9	稲荷山古墳	1988	古墳：円墳（６Ｃ後半）
10	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳（７Ｃ初）
11	総社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（６Ｃ末～７Ｃ初）
12	遠見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（５Ｃ後半）
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳（７Ｃ末）
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周濠跡
15	産業道路東遺跡	1966	縄文：住居跡
16	産業道路西遺跡		縄文：住居跡
17	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良・平安：住居跡
18	日高遺跡（事業団）	1977	弥生：水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農具、平安：条里制水田跡
19	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ（高崎市）	1979～81	弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
20	上野国分僧寺・尼寺中間地域（事業団）	1980～83	縄文：住居跡・配石遺構、弥生：住居跡・方形周溝墓、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
21	清里南部遺跡群Ⅲ	1980	縄文：ピット、奈良・平安：住居跡・溝跡
22	中島遺跡	1980	奈良・平安：住居跡
23	下東西遺跡（事業団）	1980～84	縄文：屋外埋甕、弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・柵列、中世：溝跡
24	国分境遺跡（事業団）	1990	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
25	国分境Ⅱ遺跡	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
26	国分境Ⅲ遺跡（群馬町）	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中世：土壙墓
27	元総社明神遺跡Ⅰ～Ⅻ	1982～96	古墳：住居跡・水田跡・堀跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・大形人形、中世：住居跡・溝跡・天目茶碗
28	北原遺跡（群馬町）	1982	縄文：土坑・集石遺構、古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
29	鳥羽遺跡（事業団）	1978～83	古墳：住居跡・鍛冶場跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡（神殿跡）
30	閑泉樋遺跡	1983	奈良・平安：溝跡（上幅6.5～７ｍ、下幅3.24ｍ、深さ２ｍ）
31	柿木遺跡・Ⅱ遺跡	1983、1988	奈良・平安：住居跡・溝跡
32	草作遺跡	1984	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：井戸跡
33	桜ヶ丘遺跡		弥生：住居跡
34	総社桜ヶ丘遺跡・Ⅱ遺跡	1985、87	奈良・平安：住居跡
35	閑泉樋南遺跡	1985	古墳：住居跡、奈良・平安：溝跡
36	後疋間遺跡Ⅰ～Ⅲ（群馬町）	1985～87	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：道路状遺構
37	塚田村東遺跡（群馬町）	1985	平安：住居跡
38	寺田遺跡	1986	平安：溝跡・木製品
39	天神遺跡・Ⅱ遺跡	1986、88	奈良・平安：住居跡
40	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡	1986、95	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：堀跡・石敷遺構
41	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古墳：住居跡、平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
42	堰越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡
43	堰越Ⅱ遺跡	1988	平安：住居跡
44	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
45	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：堀跡
46	熊野谷遺跡	1988	縄文：住居跡、平安：住居跡・溝跡
47	熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1989	平安：住居跡
48	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ（事業団）	1988～91	古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・人形・斎串・墨書土器、中世：溝跡
49	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡	1989、95	古墳：住居跡、平安：住居跡
50	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ	1992～2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
51	元総社稲葉遺跡	1993	縄文：土坑、平安：住居跡・瓦塔
52	上野国分寺参道遺跡	1996	古墳：住居跡、平安：住居跡
53	大友宅地添遺跡	1998	平安：水田
54	総社閑泉明神北遺跡	1999	古墳：畠跡・水田跡・溝跡、中世：溝跡
55	元総社宅地遺跡１～23トレンチ	2000	古墳：住居跡、平安：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状遺構、中世：溝跡、近世：住居跡・五輪塔・椀類
56	元総社小見遺跡	2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良 ・ 平安：住居跡 ・ 掘立柱建物跡 ・ 溝跡 ・ 道路状遺構
57	元総社西川遺跡（事業団）	2000	古墳：住居跡・畠跡、奈良・平安：住居跡・溝跡
58	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、平安：住居跡・溝跡
59	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：畠跡、近世：溝跡
60	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、近世：溝跡
61	元総社小見内Ⅲ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：掘立柱建物跡・溝跡
62	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡・溝跡
63	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
64	元総社小見Ⅱ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡・道路状遺構
65	元総社小見Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・道路状遺構
66	元総社草作Ⅴ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
67	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：土壙墓・掘立柱建物跡・溝跡
68	元総社北川遺跡（事業団）	2002～04	古墳：水田跡、奈良 ・ 平安：住居跡 ・ 畠跡、中 ・ 近世：掘立柱建物跡・水田跡 ・ 火葬墓
69	稲荷塚道東遺跡（事業団）	2003	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・竈構築材採掘痕・井戸跡
70	元総社小見Ⅳ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
71	元総社小見Ⅴ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡
72	元総社小見内Ⅵ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：井戸跡
73	元総社小見内Ⅶ遺跡	2003	縄文：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：畠跡、溝跡
74	元総社小見内Ⅷ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：竪穴状遺構
75	総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	古墳：畠跡、中世：畠跡
76	元総社小見Ⅶ遺跡	2004	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
77	元総社小見内Ⅸ遺跡	2004	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
78	元総社小見内Ⅹ遺跡	2004	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・粘土採掘坑・金片・金粒、中世：溝跡、土壙墓
79	総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	2004	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡
80	元総社蒼海遺跡群（５）	2005	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：周溝状遺構、土壙墓
81	元総社蒼海遺跡群（15）	2007	報告書作成中
82	元総社蒼海遺跡群（18）	2007	報告書作成中

た、国府・国分寺に関連する主要な遺跡として、中尾遺跡（17）や工房址や神社遺構が検出された鳥羽遺跡（29）、掘立柱建物群を検出した国分僧寺・尼寺中間地域（20）などが挙げられる。

中世に至り、古代国府跡に上野国守護代長尾氏によって蒼海城が築かれ、蒼海城の縄張りは国府の地割を祖型としていると推測されている。

Ⅲ　調査の方針と経過

1　調査方針（Fig. 3）

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地で、調査面積は約1,794㎡である。グリッド座標については、2000年の上野国国分尼寺寺域確認調査から用いている４ｍピッチのものを継続して使用した。グリッドは北西杭の名称を使い、西から東へＸ―59、Ｘ―60、Ｘ―61…、北から南へＹ―115、Ｙ―116、Ｙ―117…と表記した。公共座標については、以下のとおりである。

・元総社蒼海遺跡群（16）　　測点　Ｘ60・Ｙ120

旧日本測地系	Ｘ＝＋43520.000	Ｙ＝－71960.000
世界測地系	Ｘ＝＋43874.907	Ｙ＝－72251.754

調査は①表土掘削（バックフォー0.7㎥使用）、②遺構確認（主に鋤簾）、③方眼杭等設置、④遺構掘り下げ、⑤遺構精査、⑥測量、⑦全景写真撮影の手順で行った。図面作成は、トータルステーションによる測量を主に使用し、平板・遣り方測量を併用した。遺構図は原則として１／20、住居跡竈は１／10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録しながら収納した。

2　調査経過

本遺跡の発掘調査は、平成19年９月３日付けで業務委託契約を締結し、９月21日より現地での調査を開始した。調査区の東側２/３に相当する区域はは水稲の栽培が行われていたため、着手可能な西側１/３の部分から着手した。重機による表土掘削は９月21日～９月26日、Ｃ軽石・Hr-FP 混黒色土であるＸ層を指標に掘り下げた。遺構確認は９月26日～９月28日、BM 杭・グリッド杭の打設は９月27日に行い、９月27日から遺構の掘り下げを開始した。10月26日に至り、未着手であった区域の稲の刈取りに伴い再度重機を搬入、表土掘削を再開し、11月２日までに終了した。10月26日～11月１日の間に遺構確認を行い、11月６日にグリッド杭を延長・打設した。また11月２日よりこの拡張した区域の遺構の掘り下げを開始した。

検出遺構は古墳時代後期・奈良・平安時代の竪穴住居跡16軒、古代・中世の溝跡５条・井戸跡１基・土坑36基・ピット260基、風倒木痕１基、畠跡１箇所、道路状遺構１条である。出土遺物は縄文時代の土器・石器、奈良・平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器・瓦・金属製品・石製品、中世の陶器等で、コンテナ約15箱である。

12月７日にラジコンヘリコプターによる調査区全景の航空写真撮影を行い、その後、竪穴住居跡の掘りかた調査を実施した。調査区埋め戻し作業は12月18日～12月27日の間に行い、本調査区に隣接する元総社蒼海遺跡群(18)Ｂ区の埋め戻しに合わせ平成20年１月15日にブルドーザーによる整地作業を行った。また１月18日までに調査区域の現況復帰と機材撤収を行い、調査を完了した。

なお本遺跡では、調査区南西部で As-Ｃを含む黒色土層の堆積の厚い箇所で畠跡を検出し、栽培植物特定のための植物珪酸体分析をパリノサーヴェイ株式会社に委託、その成果を付編として掲載した（14～17頁）。

整理・報告書作成作業は11月26日より開始した。遺物の水洗い・注記・接合・復元・実測・写真撮影・収納、図面の修正・整理・収納、写真の整理・収納、報告書の図版作成・原稿執筆・編集作業を行い、平成20年２月28日までにすべての作業を終了した。

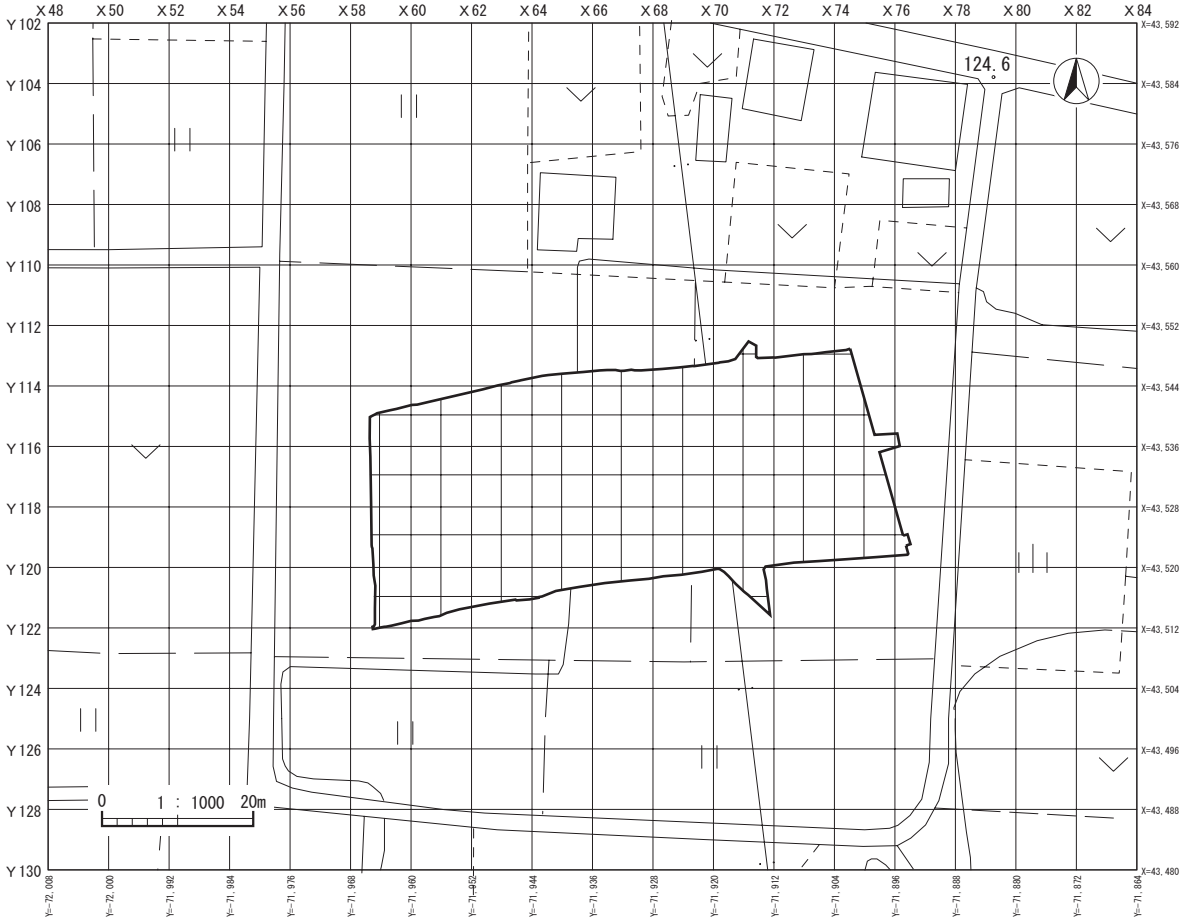
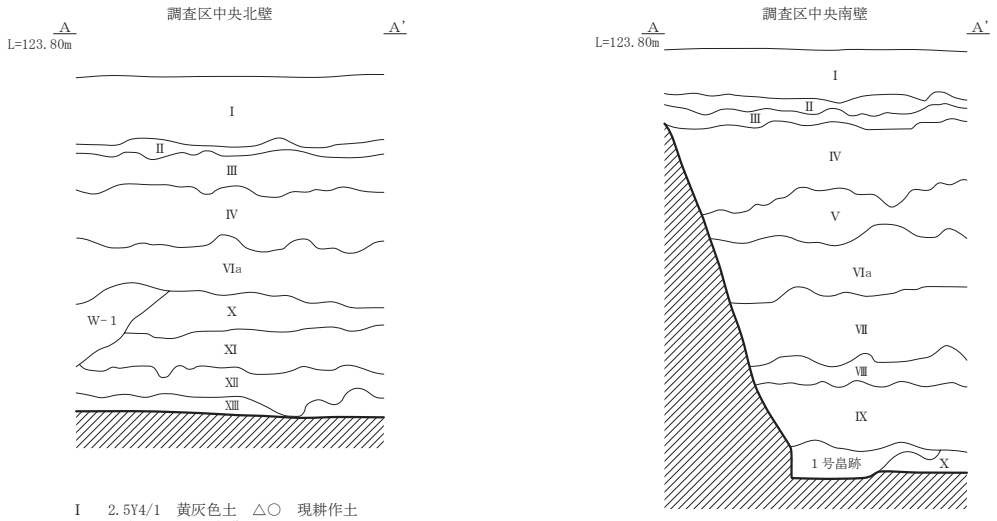


Fig. 3　グリッド設定図

Ⅳ　基本層序



Ⅰ　2.5Y4/1　黄灰色土　△○　現耕作土
Ⅱ　田床、鉄斑粒の凝集が認められる。
Ⅲ　田床、マンガン粒の凝集が認められる。
Ⅳ　10YR3/2　黒褐色土　△○　As-B20%、As-C１%
Ⅴ　10YR3/2　黒褐色土　△○　ややボソボソ。As-B20%、As-C・炭化物１%
Ⅵa　10YR3/3　暗褐色土　○○　やや締まる。As-B20%、炭化物・焼土粒１%
Ⅵb　Ⅵa層とⅦ層の漸移層。
Ⅶ　10YR3/1　黒褐色土　△△　B混土。As-C１%
Ⅷ　10YR3/3　暗褐色土　○○　As-C7%、炭化物１%
Ⅸ　10YR3/2　黒褐色土　○○　As-C10%、Hr-FP１%
Ⅹ　10YR2/1　黒色土　○○　As-C15%、Hr-FP１%
Ⅺ　10YR2/1　黒色土　◎◎　白色微粒子１%
Ⅻ　10YR4/2　暗灰黄褐色土　◎◎　Ⅺ層とⅫ層の漸移層。白色微粒子１%
ⅩⅢ　2.5Y5/2　暗灰黄色土　◎◎　白色微粒子２%

0　1 : 30　1m

Fig. 4　基本層序

Fig. 5　元総社蒼海遺跡群（16）全体図

X67
X68
X69
X70
X71
X72
X73
X74
X75
X76
X=43,556
X=43,552
X=43,548
X=43,544
X=43,540
X=43,536
X=43,532
X=43,528
X=43,524
X=43,520
X=43,516
X=43,512
X=43,508
Y=-71,932
Y=-71,928
Y=-71,924
Y=-71,920
Y=-71,916
Y=-71,912
Y=-71,908
Y=-71,904
Y=-71,900
Y=-71,896
D-12
D-13
D-14
D-15
D-16
D-17
D-18
D-19
D-20
D-21
D-22
D-23
D-24
D-25
D-26
D-27
D-28
D-29
D-30
D-31
D-34
D-36
D-37
D-38
H-10
H-11
H-12
H-13
H-14
H-15
W-4
W-5
A-1
122.40
122.60
122.20

Ⅴ　遺構と遺物

(1)　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.７・26、PL.１・６）

位置　Ｘ59･60、Ｙ114グリッド　**主軸方位**　Ｎ－95°－Ｅ　**形状等**　方形。東西（2.42）ｍ、南北（0.80）ｍ、壁現高22㎝を測る。　**面積**　（0.96）㎡　**床面**　平坦で、全体的によく締まっている。　**竈**　東壁やや南に検出し、主軸方位はＮ－93°－Ｅを示す。全長46㎝、最大幅（21）㎝、焚口幅（21）㎝を測る。形状は「Ｕ」字状。住居壁面を大きく掘り込み構築され、地山を掘り残した短い袖が付く。燃焼部は住居跡床面とほぼ水平で、奥壁は急に立ち上がる。掘り方はほとんどない。床面には灰層が薄く形成され、壁面はあまり焼けていない。　**出土遺物**　須恵器は羽釜１点、高台坏１点、坏１点、石器・石製品はこも石１点を図示した。　**備考**　出土遺物から遺構の年代は概ね10世紀代と推定される。遺構はⅧ層下から掘り込まれる。

Ｈ－２号住居跡（Fig.８・26・27、PL.１・６）

位置　Ｘ59・60、Ｙ117・118グリッド　**主軸方位**　Ｎ－102°－Ｅ　**形状等**　方形。東西3.18ｍ、南北［3.7］ｍ、壁現高18㎝を測る。　**面積**　(10.09)㎡　**床面**　平坦で全体的によく締まっている。　**竈**　東壁やや南に検出し、主軸方位Ｎ－105°－Ｅを示す。全長112㎝、最大幅62㎝、焚口幅38㎝を測る。形状は「Ｕ」字状。住居壁を大きく掘り込み構築され、無袖である。焚口の両脇に自然石を配し袖石としている。焚口でやや凹み、燃焼部は緩やかな傾斜を有する。奥壁は緩やかに立ち上がる。掘り方には袖石の設置孔が確認された。支脚は自然石を使用し、燃焼部左寄りに設置。また住居跡中央に、自然石の集石が確認されたが、竈の構築材として使用されたものが、その崩壊過程で流入したものと推定される。床面には灰層が厚く形成され、壁面は被熱により赤化している。　**貯蔵穴・柱穴等**　貯蔵穴が竈右脇に住居跡南西壁に接して設置される。形状は円形、規模は長軸60㎝、短軸55㎝、深さ10㎝を測る。その他ピット２基を検出したが何れも柱穴とは考え難い。　**重複**　Ｈ－３に切られる。　**出土遺物**　竈・貯蔵穴周辺、床面より若干浮いた層位に集中的に分布する。灰釉陶器は高台椀２点、須恵器は羽釜１点、高台椀１点、高台坏８点、甕１点を図示した。　**備考**　出土遺物から遺構の年代は概ね10世紀前半であると推定される。

Ｈ－３号住居跡（Fig.９・27・28・29、PL.１・６）

位置　Ｘ59・60、Ｙ116・117グリッド　**主軸方位**　Ｎ－88°－Ｅ　**形状等**　方形。東西2.82ｍ、南北3.46ｍ、壁現高30㎝を測る。　**面積**　9.76㎡　**床面**　平坦で全体的によく締まっている。　**竈**　東壁やや南に検出し、主軸方位Ｎ－90°－Ｅを示す。全長84㎝、最大幅64㎝、焚口幅64㎝を測る。形状は「Ｕ」字状。住居壁を大きく掘り込み構築され、無袖である。壁面の構築材に瓦を使用する。燃焼部はわずかに凹み、緩やかな傾斜を有する。奥壁は急に立ち上がる。床面には灰層が厚く形成され、壁面は被熱により薄く赤化している。　**貯蔵穴・柱穴等**　貯蔵穴が竈右脇、住居跡南壁に接して設置される。形状は楕円、規模は長軸58㎝、短軸47㎝、深さ12㎝を測る。その他ピットを５基検出したが、何れも柱穴とは考え難い。その内Ｐ３はいわゆる床下土坑である。形状は不整円形、規模は長軸68㎝、短軸60㎝、深さ27㎝を測る。木炭・灰を主体とする土層を埋土とし、貼床によって塞がれていた。　**重複**　Ｈ－２を切る。　**出土遺物**　灰釉陶器は高台椀１点、須恵器は甑１点、高台椀１点、高台坏３点、皿１点、土師器は甕１点、瓦は平瓦４点（この内文字瓦１点）、丸瓦２点を図示した。　**備考**　出土遺物から遺構の年代は概ね10世紀前半であると推定される。

Ｈ－４号住居跡（Fig.７・29、PL.１・６）

位置　Ｘ59、Ｙ119グリッド　**主軸方位**　Ｎ―43°―Ｗ　**形状等**　南東壁のみ検出。東西（1.4）ｍ、南北（1.50）ｍ、壁現高９ｍを測る。　**面積**　（1.05）㎡　**床面**　遺存状態悪く、竈の前面のみに硬化面が残存。　**竈**　（南東壁）に検出し、主軸方位Ｎ―45°―Ｗを示す。全長74㎝、最大幅60㎝、焚口幅44㎝を測る。形状は「Ｕ」字状。住居壁を大きく掘り込み構築され、無袖である。焚口の左側に自然石、右側に凝灰岩切石を配し袖石としている。燃焼部は、わずかな傾斜を有する。支脚は瓦を転用し、燃焼部中央に設置される。床面には灰層が形成され、焚口付近が被熱により赤化している。壁面はあまり焼けていない。　**出土遺物**　須恵器羽釜１点、軒平瓦２点を図示した。　**備考**　出土遺物から遺構の年代は概ね10世紀後半以降であると推定される。なお、本遺構は、バックホーによるⅦ層（Ｂ混土）除去段階で、一次堆積層に近似したＢ軽石溜まりが検出された箇所である。調査区際で検出した住居跡のⅦ層から床面までの深さは概ね50㎝～60㎝の深さのものがほとんどだが、本遺構は、Ｂ軽石溜まりから床面までが20～30㎝程度であることから、そもそもの遺構の掘り込みが浅い上に、Ｂ軽石降下時に住居跡が窪地として残存していた状況が窺われた。

Ｈ－５号住居跡（Fig.10・30・31、PL.２・７）

位置　Ｘ59・60、Ｙ119・120グリッド　**主軸方位**　Ｎ―100°―Ｅ　**形状等**　方形。東西3.78ｍ、南北4.86ｍ、壁現高12㎝　**面積**　18.37㎡　**床面**　平坦で、竈前面から住居跡中央にかけて硬化面が確認された。　**竈**　東壁やや南に検出し、主軸方位Ｎ―97°―Ｅを示す。全長84㎝、最大幅72㎝、焚口幅72㎝を測る。形状は「Ｕ」字状。住居壁を大きく掘り込み構築され、無袖である。残存状態が悪く、詳細は不明だが、袖石・壁構築材には自然石が使用されたと思われる。燃焼部は住居跡床面とほぼ水平で奥壁に向けて緩やかに傾斜する。掘り方は灰・焼土・地山土ブロックの混土を埋土とする。床面には灰層が形成され、燃焼部で淡く赤化している。壁面の赤化は認められない。　**貯蔵穴・ピット**　掘り方調査時に竈右脇から遺物が多く出土したことから、貯蔵穴が存在したことが想定された。ピットを２基検出したが、何れも柱穴とは考え難い。Ｐ２は、形状は不整楕円形、長軸90㎝、短軸70㎝、深さ40㎝を測る土坑である。このように貯蔵穴以外に住居跡隅に掘削される土坑は、本年度調査の蒼海遺跡群（15・18）検出の住居跡にも類例が認められる。　**重複**　Ｗ―２を切る。その他Ｄ―２・33、Ｐ66・67と重複するが、新旧は不明である。Ｄ―33は本遺構に付帯する施設である可能性もある。　**出土遺物**　須恵器は羽釜２点、ロクロ甕１点、高台坏９点、坏２点、器種不明遺物１点、土師器は甕２点の他、平瓦１点、磨石１点を図示した。灰釉小瓶・緑釉椀の小破片も出土した。　**備考**　出土遺物から遺構の年代は概ね10世紀前半と推定される。

Ｈ－６号住居跡（Fig.11・31、PL.２・７）

位置　Ｘ60・61、Ｙ118グリッド　**主軸方位**　Ｎ―90°―Ｅ　**形状等**　方形だがやや不整形。東西3.08ｍ、南北2.54ｍ、壁現高32㎝　**面積**　7.82㎡　**床面**　竈周辺がやや凹む。全体的に締まっている。　**竈**　東壁南寄りに検出し、主軸方位Ｎ―88°―Ｅを示す。全長112㎝、最大幅70㎝、焚口幅46㎝を測る。形状は「Ｖ」字状。住居壁を大きく掘り込み構築される。竈右側には地山を掘り残した短い袖が付き、焚口は両脇に自然石を配し袖石としているが、左側は抜取られている。燃焼部は住居跡床面よりやや凹み、奥壁は緩やかに立ち上がる。煙道は燃焼部より一段高くやや傾斜し、19㎝伸びたところで立ち上がる。支脚は丸瓦を転用し、燃焼部左側に寄せて設置されていた。掘り方はほとんどないが、袖石・支脚の設置孔が確認された。また竈前面には砂岩の円礫の集中が見られるが、竈の構築材として使用されたものが、その崩壊過程で流入したものと推定される。床面には厚い灰層が形成され、燃焼部・壁面は淡く赤化している。　**出土遺物**　埋土からの遺物の出土は少なく、54・57・58の遺物が床面直上からの出土である。須恵器は蓋２点、高台椀１点、土師器は坏１点、甕１点、その他丸瓦１点を図示した。　**備考**　出土遺物から遺構の年代は９世紀中葉であると推定される。

Ｈ－７号住居跡（Fig.７・32、PL.２・７）

位置　Ｘ61・62、Ｙ119・120グリッド　**主軸方位**　Ｎ－103°－Ｅ　**形状等**　方形だが西壁の一部がわずかに張り出す。東西2.31m、南北3.2m、壁現高８㎝を測る。　**面積**　7.39㎡　**床面**　平坦で掘り方は無く、全体的に軟弱である。北壁から西壁にかけて周溝状の凹みを伴う。　**竈**　東壁やや南に検出し、主軸方位Ｎ－105°－Ｅを示す。全長58㎝、最大幅64㎝、焚口幅64㎝を測る。形状は「Ｕ」字状。住居壁を大きく掘り込み構築され、無袖である。壁構築材に瓦を使用。燃焼部は住居跡床面とほぼ水平である。掘り方はほとんどない。床面は薄く灰層が形成され、焚口前には木炭の集中が認められる。壁面の赤化は認められない。　**重複**　１号畠跡を切る。　**出土遺物**　須恵器は羽釜２点、高台坏１点、坏１点、その他丸瓦１点を図示した。　**備考**　出土遺物から遺構の年代は概ね10世紀代と推定される。

Ｈ－８号住居跡（Fig.７・32、PL.１）

位置　Ｘ58・59、Ｙ121・122グリッド　**主軸方位**　Ｎ－70°－Ｅ　**形状等**　方形。東西2.26m、南北（0.62）m、壁現高16㎝を測る。　**面積**　(0.70)㎡　**床面**　平坦で全体的によく締まっている。　**出土遺物**　遺物の出土は微量である。土師器坏１点を図示。　**備考**　出土遺物から遺構の年代は概ね７世紀前半であると推定される。遺構はⅧ層下から掘り込まれる。

Ｈ－９号住居跡（Fig.12、PL.２）

位置　Ｘ60・61、Ｙ120・121グリッド　**主軸方位**　不明　**形状等**　不明　壁現高０㎝　**面積**　不明　**竈**　（東壁）に検出し、主軸方位Ｎ－90°－Ｅを示す。全長［144］㎝を測る。　**重複**　Ｗ－１に切られる。Ｄ－10・11を切る。**出土遺物**　土師器小片ごく微量。　**備考**　住居跡の残滓である。遺構確認時に形状は失われ、床面も露出した状態であったため、掘り方のみを調査した。Ｄ－10・11は本遺構の床下土坑である可能性が想定され、Ｄ－11からは須恵器坏小破片が出土している。概ね９世紀後半から10世紀前半に比定されると思われ、Ｈ－９の年代もこれに近いと考えられる。

Ｈ－10号住居跡（Fig.13・32・33・34、PL.３・７）

位置　Ｘ72・73、Ｙ114グリッド　**主軸方位**　Ｎ－74°－Ｅ　**形状等**　方形。東西4.00m、南北（3.9）m、壁現高46㎝を測る。　**面積**　（15.6）㎡　**床面**　平坦で全体的に締まっている。周溝が巡るが、南東隅で途切れている。南東隅、住居跡中央北側の部分では、焼土・炭化物・灰の混土を埋め戻して貼床としている箇所も見受けられた。**竈**　東壁中央に検出し、主軸方位Ｎ－76°－Ｅを示す。全長116㎝、最大幅70㎝、焚口幅40㎝を測る。形状は「Ｕ」字状。住居壁を大きく掘り込んで構築し、短い袖が付く。左袖は暗褐色粘質土の付袖、右袖は地山削り出しの基部に暗褐色粘質土を付け足している。焚口の両側に凝灰岩切石を配し袖石としている。また、袖石が竈の内壁により内側になるように据えられているため、焚口が、竈プランの幅よりも30㎝と大幅に狭くなっている。燃焼部は住居跡床面よりもやや凹み、奥壁は急に立ち上がっている。支脚は円柱状の砂岩を使用し、燃焼部左側に寄せて設置されていた。掘り方は、焼土・炭化物をよく含む土を埋土にしており、袖石の設置孔が検出された。燃焼部から奥壁にかけて厚く灰層が形成され、壁面は被熱により赤化している。　**貯蔵穴・柱穴等**　ピット11基を検出したが何れも柱穴とは考え難い。また、Ｐ１・８・11・７は本遺構に重複するが新旧は不明である。　**重複**　Ｄ－13に切られる。　**出土遺物**　須恵器は瓶１点、盤１点、高台坏２点、蓋１点、坏１点、甕５点、器種不明遺物１点、土師器は椀１点、坏３点、皿３点、その他平瓦（文字瓦）１点を図示。　**備考**　出土遺物から遺構の年代は８世紀前半であると推定される。遺構はⅧ層下から掘り込まれる。

Ｈ－11号住居跡（Fig.14・34・35、PL.３・８）

位置　Ｘ72・73、Ｙ114・115グリッド　**主軸方位**　Ｎ－78°－Ｅ　**形状等**　方形。東西2.7m、南北3.62m、壁現高34cm　**面積**　9.77m²　**床面**　平坦で、全体的に締まっている。　**竈**　東壁やや南に検出し、主軸方位Ｎ－75°－Ｅを示す。全長134cm、最大幅66cm、焚口幅66cmを測る。形状は「Ｖ」字状。住居壁面を大きく掘り込み、短い袖が付く。両袖とも暗褐色粘質土の付袖で、左袖には自然石を補強材として埋め込んでいた。焚口はやや凹み、燃焼部は住居跡床面とほぼ水平である。煙道は、燃焼部よりもわずかに一段高く、やや傾斜し、26cm伸びたところで立ち上がる。燃焼部から煙道にかけて灰層が厚く形成され、壁面は被熱により赤化している。　**貯蔵穴・柱穴等**　ピットが３基検出したが何れも柱穴とは考え難い。またＰ１は本遺構と重複するが新旧は不明である。　**重複**　Ｄ－17を切る。　**出土遺物**　竈周辺床面直上に遺物の集中が認められ、竈焚口付近では土師器甕ほぼ１個体分が潰れた状態で出土した。須恵器は、瓶11点、盤１点、蓋１点、坏１点、土師器は、甕３点、坏２点、その他こも石２点を図示した。　**備考**　出土遺物から遺構の年代は８世紀前葉から中葉であると推定される。

Ｈ－12号住居跡（Fig.15・35・36・37、PL.４・８）

位置　Ｘ73・74、Ｙ114・115グリッド　**主軸方位**　Ｎ－92°－Ｅ　**形状等**　方形。東西［2.64］cm、南北［3.02］cm、壁現高４cmを測る。　**面積**　［7.97］m²　**床面**　平坦で、全体的に締まる。北壁・南壁の一部に周溝を検出。**竈**　東壁中央に検出され、主軸方位Ｎ－96°－Ｅを示す。全長74cm、最大幅54cm焚口幅54cmを測る。形状は「Ｕ」字状。住居甕面を大きく掘り込み構築され、無袖である。焚口の両脇に瓦が構築材として使用されている。燃焼部は住居跡床面よりもわずかに凹み、奥壁は緩やかに立ち上がる。掘り方に焚口に据えた瓦の設置孔が確認された。床面には厚い灰層が形成され、壁面の赤化は認められない。なお竈前面から貯蔵穴周辺にかけて、木炭・黒色灰の広範な広がりが認められた。　**貯蔵穴・ピット等**　貯蔵穴が竈右脇に設置される。形状は不整楕円形、規模は長軸85cm、短軸63cm、深さ17cmを測る。その他ピット７基を検出したが何れも柱穴とは考え難い。Ｐ６・７は本遺構と重複し、Ｐ７は本遺構を切り、Ｐ６との新旧は不明である。　**出土遺物**　須恵器は、羽釜・高台坏・坏をそれぞれ１点、土師器は坏１点、その他平瓦５点(この内篦描き１点)、丸瓦１点を図示した。　**備考**　出土遺物から遺構の年代は概ね10世紀前半であると推定される。

Ｈ－13号住居跡（Fig.33、PL.３）

位置　Ｘ71・72、Ｙ119グリッド　**主軸方位**　Ｎ－88°－Ｅ　**形状等**　方形。東西3.76m、南北（1.12）m、壁現高22cmを測る。　**面積**　4.21m²　**床面**　平坦で、やや軟弱。　**竈**　不明　**出土遺物**　土師器小片ごく微量。図示遺物はない。　**備考**　年代の判別しうる遺物の出土が認められないが概ね古墳時代～古代の所産であろう。遺構はⅧ層下から掘り込まれる。

Ｈ－14号住居跡（Fig.16・37、PL.３・８）

位置　Ｘ69・70、Ｙ113グリッド　**主軸方位**　Ｎ－76°－Ｅ　**形状等**　方形。東西3.52cm、南北（2.4）cm、壁現高24cm　**面積**　（8.4）m²　**床面**　平坦で全体的によく締まっている。比較的形状のしっかりした周溝が巡る。　**竈**　東壁やや南に検出し、主軸方位Ｎ－84°－Ｅを巡る。全長84cm、最大幅66cm、焚口幅60cmを測る。形状は「Ｕ」字状。住居壁面を大きく掘り込み構築され、暗褐色粘質土の短い袖が付く。焚口両脇の袖石及び焚口天井には角柱状の凝灰岩切石が使用されており、焚口天井は燃焼部側に転落した状況で検出された。また竈前面に板状の凝灰岩切石が転落した状態を確認し、これも竈の構築材として使用されたと想起されるが、原位置の特定には及ばなかった。燃焼部は住居跡床面とほぼ水平で、奥壁は急に立ち上がる。掘り方は、壁面を方形に掘り込んでおり、暗褐色粘質土を充塡し「Ｕ」字状のプランを創出している。また、袖石の設置孔も検出された。燃焼部から奥壁に

かけて灰層が厚く堆積し、床面・壁面は被熱による赤化が認められる。なお、灰層（３層）直上から、完形のかえりを伴う須恵器蓋が逆位で出土した。　**貯蔵穴・ピット等**　ピット５基を検出。Ｐ３・４は柱穴としての機能は考え難い。Ｐ１・２は南壁付近に並んで検出された。入り口等住居内の何らかの施設に関係するものかもしれない。Ｐ５は重複だが新旧は不明である。　**出土遺物**　須恵器は、長頸瓶１点、蓋１点、土師器は坏２点、丸甕１点を図示した。　**備考**　出土遺物から遺構の年代は８世紀前半であると推定される。遺構はⅧ層下から掘り込まれる。

Ｈ―15号住居跡（Fig.17・37、PL.４）

位置　Ｘ70、Ｙ120・121グリッド　**主軸方位**　Ｎ―76°―Ｅ　**形状等**　方形。東西（2.56）ｍ、南北（3.44）ｍ、壁現高18㎝を測る。　**面積**　(4.40)㎡　**床面**　平坦で、壁際は軟弱、住居跡中央が若干硬化する。　**竈**　不明　**出土遺物**　須恵器甕等破片２点を図示した。　**備考**　出土遺物から遺構の年代は判じ難いが、概ね古墳時代～古代の所産であろう。

Ｈ―16号住居跡（Fig.17、PL.４）

位置　Ｘ64・65、Ｙ114グリッド　**主軸方位**　Ｎ―90°―Ｅ　**形状等**　方形。東西（1.26）ｍ、南北（2.94）ｍ、壁現高６㎝を測る。　**面積**　3.70㎡　**床面**　平坦で全体的に締まっている。　**竈**　東壁やや南に検出し、主軸方位Ｎ―102°―Ｅを示す。全長56㎝、最大幅66㎝、焚口幅66㎝を測る。形状は「Ｕ」字状。住居壁面を大きく掘り込んで構築され、無袖である。　**貯蔵穴・ピット等**　ピットを３基検出したが、柱穴とは考え難い。　**重複**　Ｄ―35に切られる。　**出土遺物**　平瓦１点、丸瓦１点を図示。　**備考**　年代を判別しうる遺物の出土が認められないが、住居の主軸方位、竈の形状から、比較的新しい時期に帰属すると考えられる。

⑵　溝　　跡

Ｗ―１号溝跡（Fig.18・39、PL.４・８）

位置　Ｘ60～62、Ｙ114～121グリッド　**主軸方位**　Ｎ―11°―Ｅ　**形状**　逆台形。長さ30.80ｍ、深さ32㎝、上幅76㎝、下幅44㎝を測る。　**重複**　Ｈ―９・Ｗ―２・１号畠跡を切る。　**出土遺物**　常滑大甕破片１点を図示した。　**備考**　Ｂ混土を埋土の主体とし、Ⅶ層中から掘り込まれると想定され、出土遺物・埋土の特徴から中世の所産であると考えられる。Ｗ―３と主軸方位が近似し、直線的な走向をとり、Ｗ―３と芯心で約14ｍの間隔をおいて並走する。

Ｗ―２号溝跡（Fig.18、PL.４）

位置　Ｘ58～61、Ｙ118～121グリッド　**主軸方位**　Ｎ―46°―Ｗ　**形状**　「Ｕ」字状。長さ16.80ｍ、深さ20㎝、上幅84㎝、下幅64㎝を測る。　**重複**　Ｈ―４・５に切られる。　**出土遺物**　埋土から概ね６世紀後半～７世紀前半の時期に比定される模倣坏及び高坏脚部の小破片が出土している。　**備考**　混入遺物、重複関係から古墳時代後期より新しく10世紀前半より古いと考えられる。過年度調査の蒼海遺跡群（11）Ｗ―５と同一の遺構である。

Ｗ―３号溝跡（Fig.19、PL.３）

位置　Ｘ58、Ｙ114～116グリッド　**主軸方位**　Ｎ―９°―Ｅ　**形状**　逆台形（薬研状）。長さ5.80ｍ、深さ100㎝、上幅（92）㎝、下幅（12）㎝を測る。　**出土遺物**　埋土から瓦・土師器の小破片が微量出土　**備考**　埋土の特徴からＢ軽石降下以降の所産である。Ⅵａ層下から掘り込まれる。なお本遺構は、蒼海遺跡群（４）Ｗ―１、蒼海遺跡群（11）Ｗ―５と同一の遺構である。過年度の調査で「Ｌ」字に屈曲する区画溝様の走向が確認されている。

Ｗ－４号溝跡（Fig.19）

位置　Ｘ70～75、Ｙ115～116グリッド　**主軸方位**　Ｎ－97°－Ｗ　**形状**　皿状。長さ25.52ｍ、深さ20㎝、上幅84㎝、下幅56㎝を測る。　**出土遺物**　埋土から土師器・須恵器小破片少量出土。　**備考**　遺構の年代は、混入遺物・埋土の特徴からから、概ね８世紀以降Ｂ降下以前に帰属すると考えられる。残存状況悪く断続的に検出された。また掘り方が安定せず、底面の凹凸が著しい。蒼海遺跡群（18）Ａ区Ｗ－５と同一遺構の可能性がある。

Ｗ－５号溝跡（Fig.19）

位置　Ｘ67、Ｙ118・119グリッド　**主軸方位**　Ｎ－62°－Ｅ　**形状**　皿状。長さ2.68ｍ、深さ12㎝、上幅72㎝、下幅52㎝を測る。　**出土遺物**　土師器・須恵器小破片微量出土。　**備考**　混入遺物・埋土の特徴から、10世紀以降で、Ｂ軽石降下より古いと考えられる。

⑶　土坑・井戸・風倒木痕

代表的な遺構を以下に記載した。報文に漏れた遺構に関しては別表（Tab.５～６）を参照されたい。

Ｄ－３号土坑（Fig.20）

位置　Ｘ61、Ｙ119グリッド　**主軸方位**　Ｎ－77°－Ｅ　**形状**　楕円形。長軸152㎝、短軸100㎝、深さ56㎝を測る。**出土遺物**　６世紀代の模倣坏を含む土師器小破片微量出土。　**備考**　出土遺物・埋土の特徴から遺構の年代は古墳時代後期以降で、Ｂ軽石降下より古いと考えられる。

Ｄ－４号土坑（Fig.20・38、PL.５）

位置　Ｘ62、Ｙ118グリッド　**主軸方位**　Ｎ－37°－Ｗ　**形状**　不整方形。長軸232㎝、短軸212㎝、深さ36㎝を測る。**重複**　Ｐ－65と重複するが新旧は不明である。　**出土遺物**　６～７世紀代の土師器小破片少量。　**備考**　出土遺物・埋土の特徴から、遺構の年代は７世紀以降で、Ｂ軽石降下より古いと考えられる。

Ｄ－６号土坑（Fig.20）

位置　Ｘ63、Ｙ120グリッド　**主軸方位**　Ｎ－53°－Ｗ　**形状**　楕円形。長軸（112）㎝、短軸82㎝、深さ20㎝を測る。　**出土遺物**　須恵器片１点、６世紀後半から７世紀前半の高坏小破片１点　**備考**　出土遺物・埋土の特徴から、遺構の年代は６世紀後半以降で、Ｂ軽石降下より古いと考えられる。

Ｄ－18号土坑（Fig.21）

位置　Ｘ75、Ｙ118グリッド　**主軸方位**　Ｎ－５°－Ｅ　**形状**　長楕円。長軸170㎝、短軸90㎝、深さ11㎝を測る。**出土遺物**　土器片ごく微量。　**備考**　埋土はＢ混土主体であり、遺構の年代は概ね中世以降であると推定される。本遺構の様に形状が長楕円、主軸方位を南北軸にとり、埋土がＢ混土であるものにはＤ－22・36が挙げられる。

Ｄ－19号土坑（Fig.21）

位置　Ｘ74、Ｙ118グリッド　**形状**　平面は円形、断面はすり鉢状。長軸108㎝、短軸90㎝、深さ36㎝を測る。　**備考**　埋土にＢ軽石を含まない。遺構の年代は、Ｂ軽石降下よりも古いと考えられる。同様にＢ軽石を含まない円形土坑にはＤ－16・28が挙げられる。

Ｄ―21号土坑（Fig.21）

位置　Ｘ70、Ｙ117グリッド　**主軸方位**　Ｎ－１°―Ｗ　**形状**　方形。長軸236cm、短軸172cm、深さ10cmを測る。　**重複**　Ｄ―36に切られる。　**備考**　埋土はＢ混土主体であり、遺構の年代は概ね中世以降であると推定される。

Ｄ―24号土坑（Fig.22、PL.５）

位置　Ｘ71、Ｙ119グリッド　**主軸方位**　Ｎ－８°―Ｗ　**形状**　楕円形。長軸134cm、短軸92cm、深さ32cmを測る。　**出土遺物**　７世紀後半の土師器片を少量。土師器坏小破片が床面直上から出土。　**備考**　出土遺物から遺構の年代は７世紀後半であると考えられる。遺構の壁面は被熱により赤化し、床面には木炭・黒色灰の集中が認められた。

Ｄ―25号土坑（Fig.22）

位置　Ｘ67、Ｙ113グリッド　**形状**　方形か。長軸（78）cm、短軸（38）cm、深さ36cmを測る。　**備考**　Ⅷ層下面から掘り込まれることから遺構の年代は古代以前と推定される。

Ｄ―32号土坑（Fig.23）

位置　Ｘ66、Ｙ116グリッド　**形状**　円形。長軸94cm、短軸92cm、深さ26cmを測る。　**出土遺物**　志野皿小破片１点出土。　**備考**　埋土はＢ混土主体であり、遺構の年代は概ね中世以降であると推定される。本遺構の様に形状が円形、同程度の規模で、埋土がＢ混土であるものにはＤ―15・20・27・28・29・30・31が挙げられる。

Ｄ―33号土坑（Fig.10、PL.38）

位置　Ｘ59、Ｙ120グリッド　**主軸方位**　Ｎ－３°―Ｅ　**形状**　楕円形。長軸130cm、短軸78cm、深さ62cmを測る。　**重複**　Ｈ－５と重複するが新旧は不明。　**出土遺物**　灰釉高台椀１点、須恵器坏１点、土師器甕小破片１点を図示した。　**備考**　出土遺物から遺構の年代は10世紀前半であると推定される。Ｈ－５に付帯する施設である可能性もある。

Ｄ―34号土坑（Fig.23、PL.38）

位置　Ｘ68、Ｙ115グリッド　**形状**　不整円形。長軸162cm、短軸128cm、深さ14cmを測る。　**重複**　Ａ－１を切る。　**出土遺物**　瀬戸折縁皿、ほうろく底部の小破片等微量。　**備考**　本遺構はＤ13・26・35と埋土の特徴が近似する。Ｄ―13・26は、水田耕作土直下から掘り込まれ、相対的に遺構の年代はかなり新しいと考えられる。

Ｉ－１号井戸（Fig.23、PL.５）

位置　Ｘ63、Ｙ120グリッド　**形状**　平面は不整円形、断面は漏斗状を呈する。長軸146cm、短軸118cm、深さ（146）cmを測る。　**出土遺物**　瀬戸小破片。　**備考**　出土遺物・埋土の特徴から遺構の年代は中世以降に相当すると考えられる。

Ｏ－１（Fig.32・39、PL.５）

位置　Ｘ63・64、Ｙ117グリッド　**形状**　不整形。長軸（416）cm、短軸334cm、深さ64cmを測る。　**出土遺物**　須恵器の大甕１点、瓶３点、坏３点を図示した。　**備考**　風倒木痕と考えられる。埋土中からは自然石の集石に混じって、若干量の須恵器・瓦片が出土した。また本遺構の北西寄りから馬骨・馬歯も出土した。

⑷　畠跡・道路状遺構

１号畠跡（Fig.24、PL.５）

位置　Ｘ60～64、Ｙ118～121グリッド　**残存面積**　105.68㎡　**形状**　長辺15.92m、短辺7.76m、小溝の幅12～30㎝、深さ３～８㎝、小溝の間隔38～186㎝を測る。　**重複**　Ｗ－１、Ｈ－７、Ｉ－１に切られる。　**出土遺物**　縄文土器片微量。　**備考**　重複関係から10世紀より古いと考えられる。小溝の走向は主軸方位Ｎ－30°－Ｗ～Ｎ－49°－Ｗを示す一群と、Ｎ－48°－Ｅ～Ｎ－72°－Ｅを示す一群に大別され、最低２回の畝替えが想定される。

Ａ－１号道路状遺構（Fig.25、PL.５）

位置　Ｘ66～70、Ｙ113～120グリッド　**主軸方位**　Ｎ－22°－Ｗ　**形状**　長さ28.64m、幅1.60～3.16m、深さ０～12㎝を測る。　**重複**　Ｄ－34に切られる。　**出土遺物**　瓦片・礫少量　**備考**　時期を判別しうる遺物の出土が認められないが、中世以降であると考えられる。Ⅶ層（Ｂ混土）を切り、Ⅵａ層中から掘り込まれると考えられる。

Ⅵ　ま　と　め

本章では、今回の発掘調査で得られた成果にささやかながら若干の所見を加えることでまとめにかえたいと思う。

⑴　竪穴住居跡

本調査区で検出した住居跡を従来の元総社蒼海遺跡群の時期区分にしたがって分類すると、Ⅰ期（７世紀前半以前）１軒、Ⅱ期（７世紀～10世紀初頭）４軒、Ⅲ期（10世紀以降）８軒となる。また、各期の住居跡の主軸方位は他の遺跡で示される傾向と概ね齟齬しない。ただし、H－４号住居の主軸方位は他の住居跡より大きくずれ、純度の高いB軽石層が埋土に認められることから、本調査区内でも相対的に新しい時期であると想定される。住居跡の密度・重複率は低く、その分布は全時代を通じて調査区中央の空白区域を挟んで東側と西側のブロックに偏在する傾向が指摘できる。周囲の遺跡を概観すると蒼海遺跡群（11）が西側に、蒼海遺跡群（18）が東側に本調査区と隣接し、比較的に住居跡が密集する区域があり、南側に隣接する元総社小見Ⅲ遺跡は本調査区に接する１区周辺は住居跡の密度は薄く、南に向かって増加する傾向が見て取れる。また、調査区北側60mを隔てて元総社小見Ⅶ遺跡、南側50m隔てて元総社小見遺跡８区が所在し住居跡の密集が窺われる。この様な周辺遺跡の状況から蒼海遺跡群（16）は各住居群の縁辺部にあたり、その中央に全時期を通じて住居跡の分布の薄い空閑地が形成されていたことが指摘できる。

⑵　その他の遺構

特筆される遺構の一つに１号畠跡が挙げられる。畠跡の小溝を被覆する土層の植物珪酸体分析の成果からムギ栽培の可能性が示唆された点は注目される。また、残存状況不良で精査の過程で消失したがH―10号住居跡付近でも畠状の小溝を確認し、こうした遺構がある程度の広がりをもって分布した可能性が消極的ながら看取された。遺構の年代は６世紀～10世紀と曖昧だが、生産域の推移も地域の歴史的景観を構成する一要素であり、集落の動態と合わせて検討を重ねる必要があると思われる。

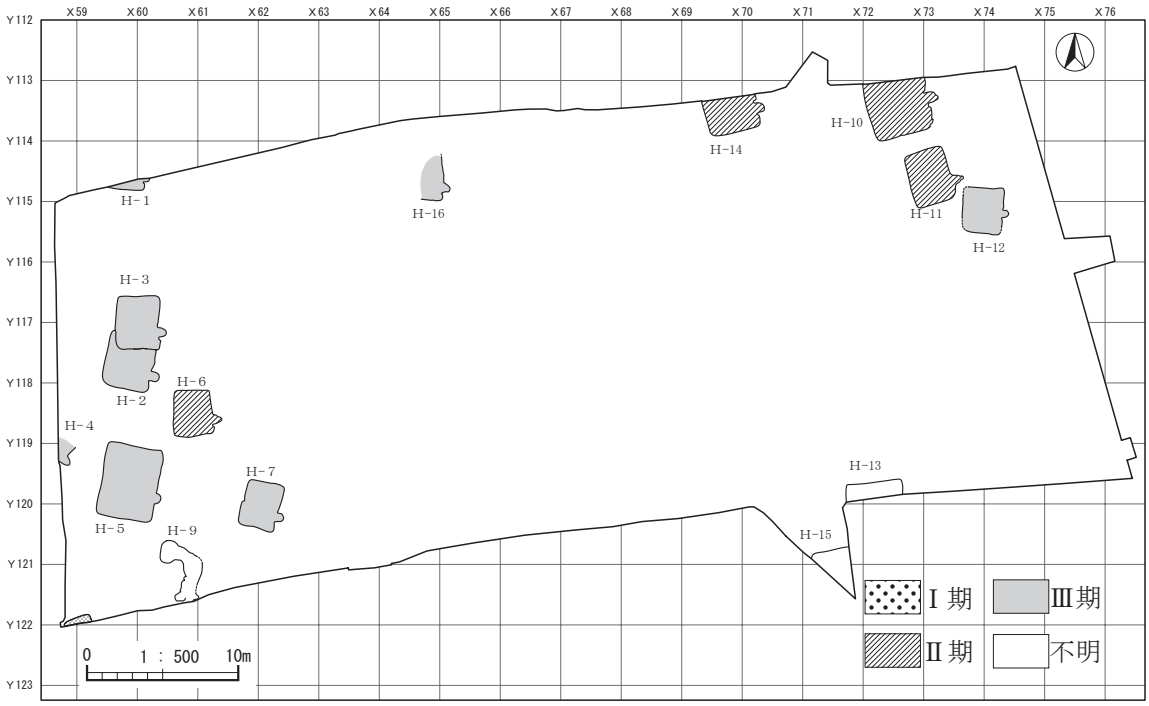


Fig. 6　竪穴住居跡時期別分布図

付編：元総社蒼海遺跡群（16）の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

群馬県前橋市元総社町に所在する元総社蒼海遺跡群（16）は、榛名山の南東山麓に形成された扇状地扇端付近、現在の利根川右岸の台地上に立地している。本遺跡周辺は、榛名山を源とする牛池川や染谷川等の小河川の開析に伴う低地が形成されており、これらの低地と台地との比高差は比較的明瞭である。

本遺跡は、牛池川右岸の台地上に立地しており、発掘調査の結果、古墳時代およびそれ以降の住居跡や土坑、小溝群が検出されている。小溝群は、いずれも掘込みが浅い幅約20㎝程度の規模を有し、長軸方向を同じくする数条の溝で構成され、一部ではこれらの小溝群が直交する状況が確認されている。本遺跡周辺においても、同様の形態の遺構が検出されており（例えば、前橋市埋蔵文化財発掘調査団，2003、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団，2007など）、発掘調査所見から畠跡とされている。

本報告では、本遺跡から検出された畠跡とされる小溝群（１号畠跡）における栽培植物の検討を目的として、自然科学分析調査を実施する。

１．試　　料

小溝群（１号畠跡）は、調査区南壁付近より検出されており、その一部は調査区外に広がることが確認されている。このことから、試料は、調査区南壁に認められた基本土層と小溝群覆土を対象に採取されている。

本遺跡の基本土層は、発掘調査所見によれば、下位より黒褐色土（Ⅴ層）、縄文時代中期の土器片等が混じる黒色土（Ⅳ層）、As-Ｃ及び榛名山系軽石が混じる暗褐色土（Ⅲ層）、As-Ｃおよび榛名山系軽石が混じる古代の遺構を被覆する暗褐色土（Ⅱ層）、As-Ｂ軽石が多量混じる黒褐色土（Ⅰ層）からなる。上記した小溝群は、Ⅲ層下位より検出されており、Ⅳ層上位との間に、小溝が掘込まれる土層（２層）と小溝覆土（１層）が認められる。２層はAs-Ｃが混じる黒色土、１層はAs-Ｃが混じる暗褐色土である。

分析試料は、Ⅰ層下部～Ⅳ層（1.2層を含む）まで厚さ５㎝連続で採取された土壌13点（試料番号１～13）、２層が厚く堆積する箇所より同層最上部より厚さ５㎝連続で採取された土壌３点（試料番号14～16）である。ここでは、試料の保存状況や分析目的から、イネ科の栽培植物の検討を目的とし、基本土層Ⅱ～Ⅳ層（試料番号４，７，13）、小溝が掘込まれる２層（試料番号12，15）、小溝覆土の１層（試料番号９，11）を対象に植物珪酸体分析を行う。

２．分析方法

(1)　植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水･塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム，比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤（2004）の分類に基づいて同定・計数する。分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量、検鏡に用いたプレパラートの数や検鏡した面積を正確に計量し、堆積物１ｇあたりの植物珪酸体含量（同定した数を堆積物１ｇあたりの個数に換算）を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。各分類群の含量は10の位で四捨五入し、100単位として表記する。合

表１　植物珪酸体含量　　（個/ｇ）

試料名 / 種類	1号畠跡						
	II層	III層	1層		2層		IV層
	4	7	9	11	12	15	13
イネ科葉部短細胞珪酸体							
イネ族イネ属	6,700	2,600	400	—	—	—	—
タケ亜科ネザサ節	16,300	10,000	9,300	15,800	8,400	9,600	61,600
タケ亜科	8,400	9,000	8,000	6,000	10,200	14,600	29,200
ヨシ属	1,100	4,700	3,100	1,600	4,900	4,600	16,600
ウシクサ族コブナグサ属	600	500	400	—	—	—	—
ウシクサ族ススキ属	7,300	6,300	11,500	13,000	8,900	14,100	27,200
イチゴツナギ亜科オオムギ族	1,100	—	1,800	1,600	—	—	—
イチゴツナギ亜科	14,600	5,800	3,100	2,200	5,300	5,500	9,900
不明キビ型	41,000	42,200	39,800	20,100	27,100	26,900	43,700
不明ヒゲシバ型	3,400	1,600	1,800	6,000	5,800	6,800	20,500
不明ダンチク型	16,300	12,100	10,200	13,000	6,700	10,900	25,800
イネ科葉身機動細胞珪酸体							
イネ族イネ属	5,600	3,200	—	—	—	—	—
タケ亜科ネザサ節	19,100	16,900	5,300	13,000	16,000	13,200	68,300
タケ亜科	5,100	5,300	1,800	6,000	4,000	6,400	17,200
ヨシ属	4,500	1,600	1,300	2,200	900	2,300	8,000
ウシクサ族	8,400	15,300	6,200	10,900	5,800	12,800	16,600
不明	21,400	24,800	7,100	19,000	12,400	20,000	25,200
合計							
イネ科葉部短細胞珪酸体	116,900	94,900	89,400	79,300	77,300	92,900	234,600
イネ科葉身機動細胞珪酸体	64,100	67,000	21,700	51,100	39,100	54,700	135,200
総計	181,000	161,900	111,100	130,400	116,300	147,600	369,700

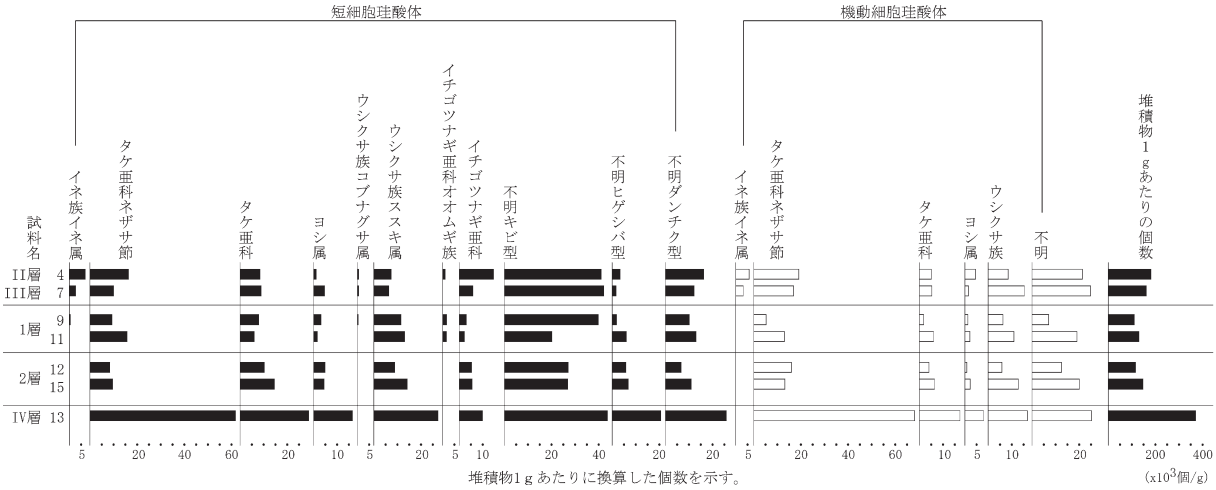


図１　植物珪酸体含量の層位的変化

計は、各分類群の丸めない値を合計した後に100単位として表記している。さらに、各分類群の植物珪酸体含量とその層位的変化から栽培植物や古植生について検討するために、植物珪酸体含量の層位的変化を図示する。

３．結　　果

結果を表１、図１に示す。各試料からはイネ科起源の植物珪酸体が検出される。いずれも保存状態が悪く、表面に多数の小孔（溶食痕）が認められる。ただし、土壌中の作用による極端な溶解は見られないことから、植物珪酸体の消失も考えにくく、植物珪酸体は埋積当時の状態を保っていると考えられる。

Ⅳ層（試料番号13）では、ネザサ節を含むタケ亜科の含量が高い値を示し、ヨシ属、ススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科なども認められる。

Ⅳ層上位の小溝が掘込まれる黒色土（２層；試料番号12，15）では、ネザサ節を含むタケ亜科とともにススキ属を含むウシクサ族の含量は高い値を示す。ただし、いずれの試料もⅣ層と比較してネザサ節を含むタケ亜科の含量は急減する。小溝覆土に相当する暗褐色土（１層；試料番号９，11）では、検出された分類群やその産状は２層に類似する。また、試料番号９からは栽培植物のイネ属、試料番号９，11からは栽培種を含む分類群であるオオムギ族の短細胞珪酸体が検出される。

Ⅲ層の暗褐色土（試料番号７）やⅡ層の暗褐色土（試料番号４）も、下位の１・２層と同様の産状が認められ、ネザサ節を含むタケ亜科やススキ族の含量は高い値を示す。栽培植物のイネ属は、Ⅲ・Ⅱ層から検出され、葉部

の短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体が認められ、ともにII層（試料番号４）で含量が高い。また、II層（試料番号４）からは、オオムギ族の短細胞珪酸体が検出される。

４．考　　察

各試料の植物珪酸体分析の結果、植物珪酸体含量はいずれも10万個/ｇ以上を示し、最下位のⅣ層では約37万個/ｇと高い値を示した。Ⅳ層では、ネザサ節を含むタケ亜科やススキ属を含むウシクサ族が高い値を示し、Ⅳ層上位の試料においても含量は異なるものの、同様の分類群が高い値を示した。これらの傾向から、ネザサ節やススキ属をはじめとして、ヨシ属、イチゴツナギ亜科などイネ科植物の生育が窺われる。特に、産出の目立ったネザサ節やススキ属には乾いて開けた場所に生育する種類が多いことから、調査区周辺は開けた草地であったと考えられる。また、湿潤な場所に生育するヨシ属も検出されたことから、周辺域には湿潤な場所も存在したと考えられる。

栽培植物や栽培種を含む分類群では、小溝覆土に相当する１層とその上位の堆積物よりイネ属やオオムギ族の植物珪酸体が検出された。１層やII層から検出されたオオムギ族の植物珪酸体含量は1,100～1,800個/ｇと、極端な増減は認められず、Ⅲ・Ⅳ層や２層ではオオムギ族は全く検出されなかった。このことから、小溝群覆土である１層の上・下位の土層からの混入の可能性は低く、小溝群の埋積過程でオオムギ族の植物珪酸体が混入したと推測される。なお、オオムギ族には、栽培種のオオムギやコムギのほか野生種が含まれ、その形態から栽培種か否かの判別は困難である。

群馬県内では、中筋遺跡（渋川市）や西組遺跡・黒井峯遺跡（旧子持村）などで、古墳時代の畠跡などからオオムギ族の植物珪酸体が検出されている（パリノ・サーヴェイ株式会社，1990・1993；石井，1994）。また、群馬県内における種実分析結果や前橋市周辺における種実分析結果（洞口，2007、パリノ・サーヴェイ未公表資料）等から、当該期にはムギ栽培の可能性やその利用が示唆される。今回検出されたオオムギ族が栽培種に由来するものであれば、小溝群においてムギ栽培が行われていた可能性がある。

一方、イネ属は、１層（試料番号９）で短細胞珪酸体が400個/ｇ認められたのみであったのに対し、上位のⅢ層では、短細胞珪酸体は2,600個/ｇ、機動細胞珪酸体は3,200個/ｇ、II層では、短細胞珪酸体は6,700個/ｇ、機動細胞珪酸体は5,600個/ｇと上位に向かって増加する傾向が認められた。

稲作が行われた水田跡の土壌では、栽培されていたイネ属の植物珪酸体が土壌中に蓄積され、植物珪酸体含量（植物珪酸体密度）が高くなる。水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体（機動細胞由来）が試料１ｇ当り5,000個以上の密度で検出された場合に、そこで稲作が行われた可能性が高いと判断している（杉山，2000）。また、本遺跡北東の牛池川の開析によって形成された低地部より検出された水田跡や堆積物を対象とした分析調査結果によれば、As-Ｃより上位試料ではイネ属の機動細胞珪酸体含量が9,000～11,400個/ｇと高い値を示す試料が認められる一方、多数の試料は5,000個/ｇおよびそれ以下の値を示すことが確認されている（株式会社古環境研究所，2007）。これらの点を考慮すると、II・Ⅲ層におけるイネ属の産状から稲作の可能性が示唆される。ただし、これらの土層での稲作の可能性については、本遺跡における発掘調査成果や、これらの土層を形成する堆積物の発達過程等についても検討し、評価する必要がある。

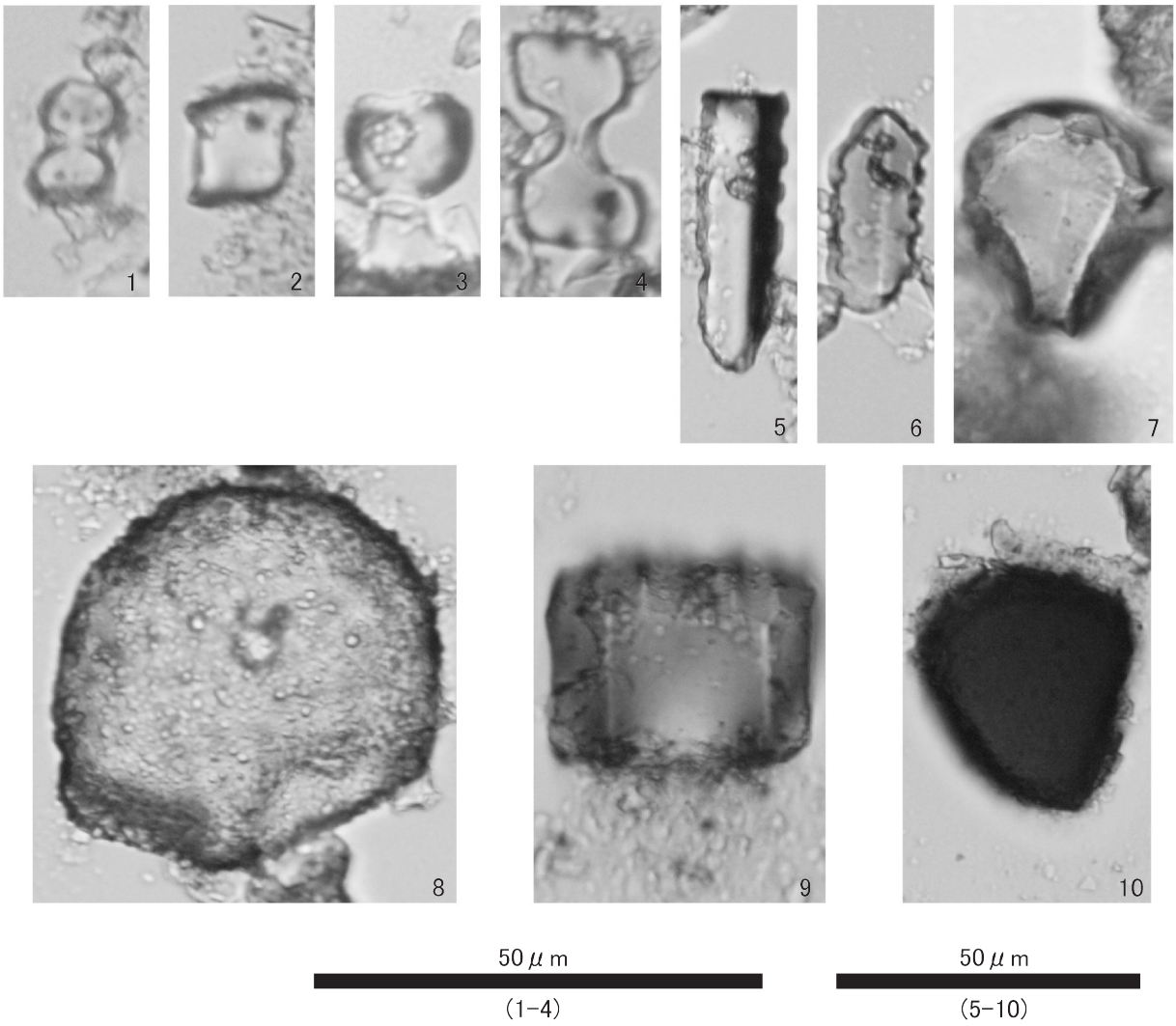
引用文献

洞口正史，2007，群馬県埋蔵文化財調査事業団種実類調査遺跡集成．研究紀要25．財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団，139-154．

石井克己，1994，軽石噴火で埋まったムラを掘る．大塚初重（監修）　日本の古代遺跡を掘る４：黒井峯遺跡　「日本のポンペイ」，読売新聞社，16-122．

古環境研究所，1993，Ｖ区における植物珪酸体（プラント・オパール）分析．「財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第156集　元総社寺田遺跡　一級河川牛池川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第１集　溝・井戸・土坑・水田の調査遺

構・遺物編」，財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団，217-221.
株式会社古環境研究所，2007，植物珪酸体分析.「総社閑泉明神北Ⅳ遺跡　元総社牛池川遺跡　元総社北川遺跡　元総社小見内Ⅴ遺跡―古墳～平安時代の低地、田畠、集落遺跡の調査―　一級河川牛池川広域基幹河川改修事業（中小）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」，財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団，287-291，295-300.
近藤錬三，2004，植物ケイ酸体研究．ペドロジスト，48，46-64.
前橋市埋蔵文化財発掘調査団，2003，元総社蒼海遺跡群 元総社小見Ⅴ遺跡　元総社小見内Ⅵ遺跡　前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書．110p.
パリノ・サーヴェイ株式会社，1990，自然科学分析.「渋川市発掘調査報告書第25集　市内遺跡　1989年度補助事業に伴う調査報告及び試掘記録　第Ⅰ章　中筋遺跡（第３次）」，群馬県渋川市教育委員会，30-37.
パリノ・サーヴェイ株式会社，1993，渋川市中筋遺跡（第７次調査）の自然科学分析調査.「渋川市発掘調査報告書　第34集　中筋遺跡　第７次発掘調査報告書」，群馬県渋川市教育委員会，40-60.
杉山真二，2000，植物珪酸体（プラント・オパール）．辻誠一郎（編著）考古学と自然科学３　考古学と植物学，同成社，189-213.
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団，2007，総社閑泉明神北Ⅳ遺跡　元総社牛池川遺跡　元総社北川遺跡　元総社小見内Ⅴ遺跡―古墳～平安時代の低地、田畠、集落遺跡の調査―　一級河川牛池川広域基幹河川改修事業（中小）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書．財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第407集．306p.



1．イネ属短細胞珪酸体（Ⅱ層；４）
2．ネザサ節短細胞珪酸体（Ⅳ層；13）
3．ヨシ属短細胞珪酸体（Ⅳ層；13）
4．ススキ属短細胞珪酸体（Ⅳ層；13）
5．オオムギ族短細胞珪酸体（１層；９）
6．オオムギ族短細胞珪酸体（１層；13）
7．イネ属機動細胞珪酸体（Ⅱ層；４）
8．ネザサ節機動細胞珪酸体（Ⅳ層；13）
9．ヨシ属機動細胞珪酸体（Ⅳ層；13）
10．ウシクサ族機動細胞珪酸体（Ⅳ層；13）

図２　植物珪酸体

Tab. 2　住居跡一覧表

遺構名	位　置	規　模			面積(m²)	主軸方位	竈位置	周溝	主な出土遺物			旧番号
		東西(m)	南北(m)	壁現高(cm)					土師器	須恵器	その他	
H－1	X59・60 Y114	(2.42)	(0.80)	22	(0.96)	N－95°－E	東壁やや南			羽釜・高台坏		
H－2	X59・60 Y117・118	3.18	[3.7]	18	(10.09)	N－102°－E	東壁やや南			羽釜・高台坏・坏	灰釉陶器	
H－3	X59・60 Y116・117	2.82	3.46	30	9.76	N－88°－E	東壁やや南		甕	甑・高台坏・皿	灰釉陶器・瓦	
H－4	X59 Y119	(1.4)	(1.50)	9	1.05	N－43°－W	(南東壁)			羽釜	軒平瓦	
H－5	X59・60 Y119・120	3.78	4.86	12	18.37	N－100°－E	東壁やや南			高台坏・坏	緑釉小破片	
H－6	X60・61 Y118	2.54	3.08	32	7.82	N－90°－E	東壁南寄り		甕・坏	坏蓋		
H－7	X61・62 Y119・120	2.31	3.2	8	37.39	N－103°－E	東壁やや南	○		羽釜・高台坏・坏		
H－8	X58・59 Y121・122	2.26	0.62	16	0.70	N－70°－E	不明		坏			D－9
H－9	X60・61 Y120・121	—	—	0	—	—	(東壁)					
H－10	X72・73 Y114	4.00	3.9	46	15.6	N－74°－E	東壁中央	○	坏・皿・椀	盤・高台坏・坏		
H－11	X72・73 Y114・115	2.7	3.62	34	9.77	N－78°－E	東壁やや南		甕・坏	瓶・盤・坏		
H－12	X73・74 Y114・115	[2.64]	[3.02]	4	[7.97]	N－92°－E	東壁中央	○	坏	羽釜・高台坏・坏	瓦	
H－13	X71・72 Y119	3.76	(1.12)	22	4.21	N－88°－E	不明					
H－14	X69・70 Y113	3.52	(2.4)	24	8.4	N－76°－E	東壁やや南	○	坏	瓶・坏蓋		
H－15	X70 Y120・121	(2.56)	(3.44)	18	4.40	N－76°－E	不明					
H－16	X64・65 Y114	(1.26)	(2.94)	6	3.70	N－90°－E	東壁やや南				瓦	

Tab. 3　竈一覧表

遺構名	規模(cm)			主軸方位	構　築　材			遺構名	規模(cm)			主軸方位	構　築　材		
	長さ	最大幅	焚口幅		袖	壁体	支脚		長さ	最大幅	焚口幅		袖	壁体	支脚
H－1	46	(21)	(21)	N－93°－E				H－9	[144]	—	—	N－90°－E			
H－2	112	62	38	N－105°－E	自然石		自然石	H－10	116	70	40	N－76°－E	凝灰岩切石		砂岩、加工有り？
H－3	84	64	64	N－90°－E		瓦		H－11	134	66	66	N－75°－E	自然石		
H－4	74	60	44	N－45°－W	自然石・凝灰岩切石		瓦	H－12	74	54	54	N－96°－E	瓦		
H－5	84	72	72	N－97°－E	自然石			H－14	84	66	60	N－84°－E	凝灰岩切石		
H－6	112	70	46	N－88°－E	自然石		瓦	H－16	56	66	66	N－102°－E			
H－7	58	64	64	N－105°－E		瓦									

Tab. 4　溝跡計測表

遺構名	位　置	長さ(m)	深さ(cm)	幅(cm)		主軸方位	断面形	時　期	遺構名	位　置	長さ(m)	深さ(cm)	幅(cm)		主軸方位	断面形	時　期
				上幅	下幅								上幅	下幅			
W－1	X60～62 Y114～121	30.80	32	76	44	N－11°－E	逆台形	中世以降	W－4	X70～75 Y115～116	25.52	20	84	56	N－97°－W	皿状	古代以前
W－2	X58～61 Y118～121	16.80	20	84	64	N－46°－W	「U」字状	古代以前	W－5	X67 Y118・119	2.68	12	72	52	N－62°－E	皿状	古代以前
W－3	X58 Y114～116	5.80	100	(92)	(12)	N－9°－E	逆台形	中世以降									

Tab. 5　土坑・井戸・風倒木痕計測表（1）

遺構名	位　置	規模(cm)			主軸方位	形状	年代	旧番号	遺構名	位　置	規模(cm)			主軸方位	形状	年代	旧番号
		長軸	短軸	深さ							長軸	短軸	深さ				
D－1	X60 Y118	112	62	32		不整楕円	古代		D－11	X60 Y121	(138)	102	22		不整楕円	古代	
D－2	X60 Y119	90	90	22		不整円形	古代		D－12	X73 Y113	72	(52)	10		(円形)	中世以降	
D－3	X61 Y119	152	100	56	N－77°－E	楕円	古代		D－13	X73 Y113	(266)	104	24	N－3°－E	(方形)	近世以降	
D－4	X62 Y118	232	212	36	N－37°－W	不整方形	古代		D－14	X73 Y113	(86)	(54)	19		(方形)	中世以降	
D－5	X64 Y119	182	100	48		不整形	古代	H－17	D－15	X76 Y119	98	96	20		円形	中世以降	
D－6	X63 Y120	(112)	82	20	N－53°－W	楕円	古代		D－16	X76 Y119	86	76	24		円形		
D－7	X62 Y120	74	54	4		楕円	古代		D－17	X72 Y114	[166]	(46)	6		不整楕円	古代	
D－8	X62 Y120	60	52	24		円形	古代		D－18	X75 Y118	170	90	11	N－5°－E	楕円	中世以降	
D－10	X60 Y121	150	82	26		不整楕円	古代		D－19	X74 Y118	108	90	36		円形		

Tab. 6　土坑・井戸・風倒木痕計測表（2）

遺構名	位　置	規模(cm)			主軸方位	形状	年代	旧番号	遺構名	位　置	規模(cm)			主軸方位	形状	年代	旧番号
		長軸	短軸	深さ							長軸	短軸	深さ				
D－20	X75 Y118	80	78	6		円形	中世以降		D－31	X67 Y117	81	74	6		円形	中世以降	
D－21	X70 Y117	236	172	10	N－1°－W	方形	中世以降		D－32	X66 Y116	94	92	26		円形	中世以降	
D－22	X70 Y118	276	98	18	N－2°－E	楕円	中世以降		D－33	X59 Y120	130	78	62	N－3°－E	楕円	古代以降	
D－23	X69 Y118	84	72	12		不整円形			D－34	X68 Y115	162	128	14		不整円形	近世以降	
D－24	X71 Y119	134	92	32	N－8°－W	楕円	古代		D－35	X65 Y114	104	58	6	N－2°－E	不整楕円	近世以降	
D－25	X67 Y113	(78)	(38)	36		(方形)	古代		D－36	X70 Y117	220	92	5	N－1°－W	楕円	中世以降	
D－26	X70 Y120	(164)	50	16		(円形)	近世以降		D－37	X67 Y116	74	66	6		不整円形	古代	
D－27	X69 Y119	91	84	10		円形	中世以降		D－38	X73 Y114	54	50	40			古代	
D－28	X68 Y119	74	74	6		円形			I－1	X63 Y120	146	118	(146)		平:不整円形 断:漏斗状	中世以降	D－5
D－29	X68 Y118	93	87	6		円形	中世以降		O－1	X63・64 Y117	(416)	334	64		不整形	古代	H－8
D－30	X67 Y117	80	74	7		円形	中世以降										

Tab. 7　1号畠跡計測表

遺構名	位　置	残存面積(m²)	長辺(m)	短辺(m)	小溝の幅(cm)	深さ(cm)	小溝の間隔(cm)	時期	備　　考
1号畠跡	X60～64 Y118～121	105.68	15.92	7.76	12～30	3～8	38～186	古代以前	畝間の小溝は、北東・南西軸に走向する一群と、北西・南西軸に走向する一群の二つに大別される。

Tab. 8　道路状遺構計測表

遺構名	位　置	長さ(m)	深さ(cm)	幅(cm)	主軸方位	時期	備　　考
A－1	X66～70 Y113～120	28.64	0～12	160～316	N－22°－W	中世以降	

Tab. 9　出土土器観察表（1）

番号	層位	器種	① 口径　② 器高　③ 底径	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
1	H－1 床直	羽釜 須恵器	①[17.0]②(10.9)③　—	①砂粒②良③灰色④破片	輪積痕残す。外内面ロクロナデ。	還元焔焼成。
2	H－1 竈	高台坏 須恵器	① 11.8 ②　4.9 ③　6.4	①砂粒・角閃・石英②良③褐灰色④3/4	外内面ロクロナデ。底部：回転糸切り後、高台貼付。	還元焔焼成。
3	H－1 竈	高台坏 須恵器	①[12.0]②（2.9)③　—	①石英・片岩②良③にぶい橙色④1/3	外内面ロクロナデ。	酸化焔焼成。
5	H－2 埋土	羽釜 須恵器	①[19.4]② 25.7 ③ [7.1]	①砂粒・石英・白粒②良③橙～にぶい黄橙色④3/4	外面：口縁～胴部上半ロクロナデ、胴部下半ヘラケズリ。内面ロクロナデ。	酸化焔焼成。破砕後二次焼成か。
6	H－2 埋土	高台椀 灰釉	①[17.2]②　6.4 ③ [8.1]	①黒粒②堅緻③灰白色　釉：暗緑色④3/5	四弁輪花と推定。外面：口縁～体部ロクロナデ、体部下半から底部は回転ヘラケズリか、ナデにより不鮮明。底部は高台貼付。内面はロクロナデ。施釉は漬け掛け。内面重ね焼きの痕跡有。	還元焔焼成。H－5出土破片と遺構間接合。
7	H－2 埋土	高台椀 灰釉	①[12.4]②　4.5 ③（6.2)	①緻密。黒粒②堅緻③灰白色釉：透明④2/5	外面：口縁～胴部上半ロクロナデ、胴部下半～底部回転ヘラケズリ後、高台貼付。内面ロクロナデ。施釉は漬け掛け。	還元焔焼成。
8	H－2 埋土	高台椀 須恵器	①[14.3]②　5.8 ③ [8.2]	①小礫・雲母②良③にぶい黄橙色④1/3	外内面ロクロナデ。底部：回転糸切り後、高台貼付。	酸化焔焼成。
9	H－2 貯蔵穴	高台坏 須恵器	① 12.4 ②　5.6 ③　6.1	①白粒②良③灰白色④4/5	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り後、高台貼付。	還元焔焼成。
10	H－2 掘方	高台坏 須恵器	① 12.9 ②　5.2 ③　7.1	①角閃②良③灰黄色④3/4	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り後、高台貼付。	還元焔焼成。
11	H－2 カマド	高台坏 須恵器	① 11.5 ②　4.5 ③　6.3	①小礫・鉄斑・石英②良③橙色④4/5	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り後、高台貼付。	酸化焔焼成。
12	H－2 床直	坏 須恵器	① 11.2 ②　4.9 ③　5.5	①白粒・鉄斑②良③灰黄色④ほぼ完形	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り。	還元焔焼成。
13	H－2 埋土	坏 須恵器	①(12.1)②　3.9 ③　6.0	①小礫・角閃・鉄斑②良③橙色④3/5	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り。	酸化焔焼成。
14	H－2 埋土	坏 須恵器	①(11.6)②　3.3 ③　5.5	①砂粒②良③灰色④1/3	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り。	酸化焔焼成。
15	H－2 埋土	坏 須恵器	①(12.2)②　3.4 ③　5.0	①砂粒②良③橙～灰黄色④3/5	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り。	酸化焔焼成。
16	H－2 カマド	皿 須恵器	① 12.1 ②　2.8 ③　5.6	①白粒・雲母・鉄斑②良③灰黄色④完形	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り。	還元焔焼成。
17	H－2 埋土	甕 須恵器	①　—　②　—　③ —	①白粒②良③灰色④破片	外面：口縁部ロクロナデ、胴部平行タタキ後ナデ。内面：口縁部ロクロナデ、胴部同心円アテ具痕。	還元焔焼成。
18	H－3 貯蔵穴	甑 須恵器	①[37.4]②(13.1)③　—	①砂粒・白粒・鉄斑・石英②良③にぶい黄橙色④破片	外内ロクロナデ。	酸化焔焼成。
19	H－3 埋土	甕 土師器	①[18.8]②(10.8)③　—	①雲母・鉄斑②良③明赤褐～にぶい橙色④破片	口縁部「コ」の字状。頸部内面に接合痕。外面：口縁部ヨコナデ、下地に指頭圧痕。胴部ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ後ナデ。	
20	H－3 床直	高台椀 灰釉	①[15.6]②　5.2 ③　7.5	①白粒・黒粒②堅緻③灰白色釉：透明④1/2	外面：口縁～体部ロクロナデ、体部下半から底部は回転ヘラケズリ後、高台貼付。内面はロクロナデ。施釉は漬け掛け。	還元焔焼成。
21	H－3 埋土	高台椀 須恵器	①[14.1]②　5.4 ③　7.2	①石英・黒粒②良③灰～灰白色④3/4	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り後、高台貼付。	還元焔焼成。
22	H－3 埋土	高台坏 須恵器	① 14.7 ②　5.2 ③　6.8	①砂粒・片岩・白粒②良③灰～灰黄色④4/5	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り後、高台貼付。	還元焔焼成。
23	H－3 床直	高台坏 須恵器	①[14.5]②　5.4 ③ [6.9]	①小礫・白粒②良③灰色④1/3	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り後、高台貼付。	還元焔焼成。
24	H－3 埋土	高台椀 須恵器	①　—　②（3.6)③ [6.7]	①砂粒・石英②良③にぶい橙色④破片	外面：ロクロナデ、底部回転糸切り後、高台貼付。内面はミガキ、炭素吸着による黒色処理。	酸化焔焼成。
25	H－3 貯蔵穴	坏 須恵器	①[13.8]②　5.6 ③　6.1	①石英・片岩・白粒②良③灰黄色④3/4	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り。	還元焔焼成。
32	H－4 床直	羽釜 須恵器	①[21.7]②(15.2)③　—	①砂粒・白粒②良③橙色④1/4	外面：口縁部ロクロナデ、胴部ナデ。胴部下端ヘラケズリ。内面：口縁部ロクロナデ、胴部横位ナデ。	酸化焔焼成。破砕後二次焼成か。
35	H－5 床直	羽釜 須恵器	①[17.2]②（4.7)③　—	①雲母・片岩・鉄斑②良③明赤褐色④破片	外内ロクロナデ。	酸化焔焼成。
36	H－5 埋土	羽釜 須恵器	①　—　②（7.4)③ [7.7]	①砂粒・石英②良③明赤褐～暗赤褐色④破片	外面：ヘラケズリ。　内面：ロクロナデ。	酸化焔焼成。
37	H－5 埋土	甕 土師器	①[19.8]②（7.8)③　—	①鉄斑・雲母・片岩・石英②良③赤褐色④破片	口縁部外反。外面：口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ、下地に指頭圧痕。内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	
38	H－5 埋土	甕 土師器	①　—　②（3.7)③ [5.6]	①砂粒・白粒・石英②良③暗赤褐色④破片	外面：ヘラケズリ。　内面：ヘラナデ。	
39	H－5 埋土	ロクロ甕 須恵器	①[11.7]②（4.8)③　—	①白粒・石英②良③にぶい橙色④破片	外内ロクロナデ。	酸化焔焼成。
40	H－5 掘方	不明 須恵器	①　—　②（7.9)③[17.4]	①鉄斑・白粒・石英②良③灰黄～にぶい橙色④脚部の2/3	外内ロクロナデ。	還元焔焼成。
41	H－5 掘方	高台坏 須恵器	① 13.0 ②　4.7 ③　6.0	①白粒②良③黒色④4/5	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り後、高台貼付。	還元焔焼成。
42	H－5 掘方	高台坏 須恵器	① 12.8 ②　4.5 ③　6.0	①鉄斑・白粒・砂粒②良③明赤褐色④4/5	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り後、高台貼付。	酸化焔焼成。
43	H－5 P2	高台坏 須恵器	①[12.7]②　4.7 ③　6.2	①白粒・黒粒・砂粒②良③灰白色④4/5	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り後、高台貼付。	還元焔焼成。
44	H－5 カマド	高台坏 須恵器	①[13.2]②　4.2 ③ [5.2]	①砂粒・白粒②良③灰黄色④1/3	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り後、高台貼付。	還元焔焼成。
45	H－5 掘方	高台坏 須恵器	① 11.9 ②　4.8 ③　6.5	①白粒・黒粒・角閃②良③灰白～灰黄色④3/4	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り後、高台貼付。	還元焔焼成。
46	H－5 掘方	高台坏 須恵器	①[13.1]②　5.0 ③ [6.2]	①白粒・砂粒②良③灰黄色④1/2	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り。	還元焔焼成。
47	H－5 掘方	高台坏 須恵器	①[14.4]②　5.1 ③ [6.8]	①小礫・片岩・雲母・鉄斑②良③橙～灰黄色④1/3	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り後、高台貼付。	酸化焔焼成。
48	H－5 掘方	坏 須恵器	① 13.1 ②　4.6 ③　6.4	①小礫・白粒②良③灰～灰黄色④ほぼ完形	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り。	還元焔焼成。外内面タール状付着物。
49	H－5 掘方	坏 須恵器	① 13.0 ②　4.7 ③　6.3	①白粒・黒粒②良③黒色④ほぼ完形	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り。	還元焔焼成。

Tab.10　出土土器観察表（2）

番号	層位	器種	① 口径　② 器高　③ 底径	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
50	H－5 床直	坏 須恵器	①[11.5]②　3.8 ③　5.6	①白粒・黒粒②良③にぶい橙色④1/3	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り。	還元焔焼成。外内面タール状付着物。
51	H－5 掘方	坏 須恵器	①[12.0]②　3.6 ③ [5.9]	①白粒・鉄斑②良③明赤褐～橙色④1/2	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り。	酸化焔焼成。
54	H－6 床直	蓋 須恵器	① 16.5 ②　3.7 ③　—	①片岩・鉄斑・石英・小礫②良③灰色④ほぼ完形	外面：ロクロナデ、天井部回転ヘラケズリ後、摘み貼付。ヘラケズリの下地に糸切り痕。内面：ロクロナデ。	還元焔焼成。
55	H－6 埋土	蓋 須恵器	①[18.0]②（2.4）③　—	①黒粒②良③灰白色④2/3	外面：ロクロナデ、天井部回転ヘラケズリ後。内面：ロクロナデ。	還元焔焼成。
56	H－6 埋土	高台椀 須恵器	①　—　②（1.8）③ [9.4]	①黒粒②良③灰白色④破片	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り後、高台貼付。	還元焔焼成。
57	H－6 床直	坏 土師器	① 11.6 ②　3.9 ③　—	①角閃②良③明赤褐④3/4	器形歪む。外面：口縁部ヨコナデ、胴部ユビナデ・ユビオサエ、底部ヘラケズリ。内面：口縁部～底部ヨコナデ、底部ナデ。	
58	H－6 床直	甕 土師器	①　—　②　—　③ —	①鉄斑・石英・白粒・黒粒②良③明赤褐④破片	胴部上位に最大径。口縁部は直立気味に立ち上がる。胴部中位に接合痕。外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	
60	H－7 埋土	羽釜 須恵器	①[18.4]②(18.6)③　—	①砂粒・白粒②良③黄灰～にぶい橙色④破片	外面：口縁～胴部上半ロクロナデ、胴部下半ヘラケズリ。内面ロクロナデ。	還元焔焼成。
61	H－7 床直	羽釜 須恵器	①[21.2]②（9.8）③　—	①雲母・砂粒②良③橙色④破片	外内ロクロナデ。	還元焔焼成。
62	H－7 床直	高台坏 須恵器	①　—　②（3.4）③　6.0	①砂粒・鉄斑②良③明褐色④1/3	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り後、高台貼付。	酸化焔焼成。
63	H－7 床直	坏 須恵器	①[13.3]②　3.4 ③ [7.7]	①黒粒②良③灰白④2/5	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り。	還元焔焼成。
65	H－8 埋土	坏 土師器	①[11.5]②（3.0）③　—	①鉄斑②良③橙色④破片	外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面：ヨコナデ。	
66	H－10 埋土	瓶 須恵器	①　—　②（4.2）③[10.7]	①白粒②良③灰白④破片	外面：胴部ロクロナデ、胴部下端～底部回転ヘラケズリ後、高台貼付。内面：ロクロナデ。	還元焔焼成。
67	H－10 埋土	盤か 須恵器	①[25.6]②（5.6）③　—	①白粒②良③灰色④破片	外面：口縁～胴部上半ロクロナデ、胴部下半回転ヘラケズリ。内面：ロクロナデ。	還元焔焼成。
68	H－10 埋土	盤 須恵器	①[15.4]②　2.2 ③[13.2]	①黒粒②良③灰白④1/3	外面：口縁～胴部ロクロナデ、胴部下端～底部回転ヘラケズリ。内面：ロクロナデ。	還元焔焼成。
69	H－10 埋土	高台坏 須恵器	①[14.6]②　3.6 ③[10.8]	①白粒②良③灰～赤褐色④1/2	外面：口縁～胴部ロクロナデ、胴部下端～底部回転ヘラケズリ後、高台貼付。内面：ロクロナデ。	還元焔焼成。
70	H－10 床直	高台坏 須恵器	①[16.5]②　4.0 ③[13.6]	①鉄斑・砂粒②良③にぶい黄橙④破片	外面：口縁～胴部ロクロナデ、胴部下端～底部回転ヘラケズリ後、高台貼付。内面：ロクロナデ。	還元焔焼成。
71	H－10 埋土	蓋 須恵器	①　—　②（1.6）③　—	①白粒②良③青灰～灰色④2/5	外面：ロクロナデ、天井部回転ヘラケズリ後、摘み貼付。内面：ロクロナデ。	還元焔焼成。
72	H－10 埋土	坏 須恵器	①[12.1]②　3.5 ③ [8.1]	①黒粒・白粒②良③灰～赤褐色④1/2	外面：口縁～胴部ロクロナデ、胴部下端～底部回転ヘラケズリ。内面：ロクロナデ。	還元焔焼成。
73	H－10 床直	坏 須恵器	①[11.8]②　3.6 ③ [8.2]	①黒粒②良③灰色④1/3	外面：口縁～胴部ロクロナデ、胴部下端～底部回転ヘラケズリ。内面：ロクロナデ。	還元焔焼成。
74	H－10 埋土	甕 須恵器	①　—　②　—　③ —	①黒粒②良③灰白～灰色④破片	外内ロクロナデ。	還元焔焼成。
75	H－10 埋土	甕 須恵器	①　—　②　—　③ —	①黒粒②良③灰白色④破片	外面：平行タタキ後ナデ。内面：同心円アテ具痕。ナデ消し。	還元焔焼成。
76	H－10 埋土	甕 須恵器	①　—　②　—　③ —	①黒粒②良③灰白～灰色④破片	外面：平行タタキ後ナデ。内面：同心円アテ具痕。ナデ消し。	還元焔焼成。
77	H－10 埋土	甕 須恵器	①　—　②　—　③ —	①白粒②良③灰色④破片	外面：平行タタキ。内面：アテ具痕。	還元焔焼成。
78	H－10 埋土	甕 須恵器	①　—　②　—　③ —	①白粒②良③青灰色④破片	外面：平行タタキ後ナデ。内面：同心円アテ具痕。	還元焔焼成。
79	H－10 埋土	椀 土師器	①[12.9]②（4.3）③　—	①角閃・鉄斑②良③明赤褐色④破片	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面：ヨコナデ。	
80	H－10 床直	坏 土師器	① 12.9 ②　3.2 ③　—	①鉄斑・片岩・砂粒②良③明赤褐色④ほぼ完形	外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面：口縁～底部上半ヨコナデ、底部下半ナデ。	
81	H－10 床直	坏 土師器	① 12.6 ②　3.6 ③　—	①角閃・白粒②良③明赤褐色④4/5	外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面：口縁～底部上半ヨコナデ、底部下半ナデ。	
82	H－10 埋土	坏 土師器	①[12.8]②　3.4 ③　—	①角閃・白粒②良③橙色④1/4	外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面：口縁～底部上半ヨコナデ、底部下半ナデ。	
83	H－10 床直	皿 土師器	① 15.2 ②　3.5 ③　—	①鉄斑・角閃石・白粒②良③橙色④2/3	外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面：口縁～底部上半ヨコナデ、底部下半ナデ。	
85	H－11 カマド	甕 土師器	① 23.0 ② 30.6 ③　6.2	①鉄斑・白粒・黒粒②良③明赤褐色④3/4	口縁部外反。胴部中位に接合痕。外面：口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ後ナデ。	
86	H－11 床直	甕 土師器	① 22.0 ②(20.0)③　—	①鉄斑・角閃・白粒・黒粒②良③明赤褐色④1/4	口縁部外反。外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ後ナデ・	
87	H－11 カマド	甕 土師器	①　—　②(19.1)③　—	①鉄斑・白粒・黒粒②良③橙色④1/5	胴部中位に接合痕。外面：ヘラケズリ。内面：ヘラナデ。	
88	H－11 埋土	瓶 須恵器	①　—　②(13.3)③[13.7]	①小礫・白粒・黒粒②良③灰白色④破片	外面：口縁～胴部上半ロクロナデ、胴部下半回転ヘラケズリ後高台貼付。内面：ロクロナデ。	還元焔焼成。
89	H－11 埋土	盤 須恵器	①　—　②（1.2）③ [9.5]	①白粒・黒粒②良③灰色④1/4	外面：回転ヘラケズリ。内面：ロクロナデ。	還元焔焼成。
90	H－11 埋土	蓋 須恵器	①　—　②（1.5）③　—	①白粒・砂礫②良③灰白色④1/4	外面：回転ヘラケズリ後、摘み貼付。内面：ロクロナデ。	還元焔焼成。
91	H－11 床直	坏 須恵器	①[12.0]②　3.5 ③ [8.4]	①黒粒②良③灰色④1/3	外面：口縁～胴部ロクロナデ、胴部下端～底部回転ヘラケズリ。内面：ロクロナデ。	還元焔焼成。
92	H－11 埋土	坏 土師器	①[12.4]②　3.8 ③　—	①鉄斑・黒粒②良③橙色④1/2	外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面：口縁～底部上半ヨコナデ、底部下半ヘラナデ後、ナデ。	
93	H－11 床直	坏 土師器	① 12.4 ②　3.2 ③　—	①角閃・白粒②良③明赤褐④ほぼ完形	外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面：口縁～底部上半ヨコナデ、底部下半ヘラナデ後、ナデ。	
96	H－12 カマド	羽釜 須恵器	①[23.0]②(21.8)③　—	①鉄斑・砂粒②良③赤褐色④1/5	外内ロクロナデ。	酸化焔焼成。破砕後二次焼成か。

Tab.11　出土土器観察表（3）

番号	層位	器種	① 口径　② 器高　③ 底径	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　考
97	H—12 床直	高台坏 須恵器	①[13.9]②（5.0)③［6.3]	①白粒•角閃②良③灰色④1／3	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り後、高台貼付。	還元焔焼成。
98	H—12 床直	坏 須恵器	① 12.4 ②　4.1 ③　5.8	①小礫・鉄斑・石英②良③灰色④4／5	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り。	還元焔焼成。
99	H—12 床直	坏 土師器	①[12.8]②　3.7 ③［6.7]	①白粒・雲母②良③にぶい褐④1／3	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ユビナデ、ユビオサエ、胴部下端～底部ヘラケズリ。内面：口縁～胴部ヨコナデ、底部ナデ。	
106	H—14 埋土	長頸瓶 須恵器	①　—　②(11.5)③　—	①白粒・黒粒②良③灰～灰白色④1／4	肩部に一条の沈線、刺突列点文。外面：肩～胴部上半ロクロナデ、胴部下半は回転ヘラケズリ。底部ナデ、高台貼付。内面：ロクロナデ。自然釉。	還元焔焼成。高台は人為的に打ち欠いたものか。
107	H—14 カマド	蓋 須恵器	① 19.1 ②　3.4 ③　—	①白粒・砂粒②良③灰色④完形	外面：口縁部ロクロナデ、天井部回転ヘラケズリ後、摘み貼付及び外周に手持ちヘラケズリ。内面：ロクロナデ。	還元焔焼成。
108	H—14 床直	坏 土師器	① 13.0 ②　3.8 ③　—	①角閃・石英・白粒②良③橙④完形	外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ、底部ナデ。	
109	H—14 床直	坏 土師器	① 11.9 ②　3.5 ③　—	①白粒・雲母・鉄斑・黒粒②良③橙～明赤褐色④2／3	外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面：口縁～底部上半ヨコナデ、底部下半ナデ。	
110	H—14 床直	丸甕か 土師器	①　—　②　—　③ —	①鉄斑・白粒・黒粒②良③橙色④破片	外面：ヘラケズリ。内面：ヘラナデ。	
111	H—15 埋土	甕 須恵器	①　—　②　—　③ —	①鉄斑・白粒②良③にぶい橙～明赤褐色④破片	外面：口縁部ロクロナデ、平行タタキ後ナデ。内面：口縁部ロクロナデ。胴部アテ具か、ナデ消され不鮮明。	酸化焔焼成。
112	H—15 埋土	盤か 須恵器	①　—　②　—　③ —	①白粒・黒粒②良③灰色④破片	外面：回転ヘラケズリ。内面：ロクロナデ。内面：ロクロナデ。	還元焔焼成。
115	D—2 埋土	甕 須恵器	①　—　②　—　③ —	①白粒・砂粒②良③灰色④破片	外面：平行タタキ。内面：同心円アテ具痕。	還元焔焼成。
116	D—4 埋土	甕 須恵器	①　—　②　—　③ —	①小礫・白粒②良③灰色④破片	外面：平行タタキ。内面：同心円アテ具痕。	還元焔焼成。
118	D—24 床直	坏 土師器	① 10.6 ②　2.4 ③　—	①角閃・雲②良③橙色④破片	外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面：口縁～底部上半ヨコナデ、底部下半ナデ。	
119	D—33 埋土	高台椀 灰釉	① 15.5 ②　5.4 ③　8.2	①黒粒②良③にぶい黄色　釉：明オリーブ灰色④4／5	外面：口縁部～胴部ロクロナデ、底部ナデ、高台貼付。内面：ロクロナデ。施釉は刷毛塗り。	還元焔焼成。
120	D—33 埋土	坏 須恵器	①(12.5)②　3.4 ③　6.3	①砂粒・鉄斑・角閃・白粒②良③橙④2／3	外内ロクロナデ。底部：回転糸切り。	酸化焔焼成。
121	D—33 埋土	甕 土師器	①　—　②　—　③ —	①白粒・角閃②良③明赤褐色④破片	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面：口縁部ヨコナデ、胴部横位ナデ。	
122	D—34 埋土	折縁皿か 瀬戸	①　—　②（2.1)③[10.6]	①黒粒②良③灰白色④破片	外面：回転ヘラケズリ。高台は削り出し。内面：ロクロナデ。	還元焔焼成。中世。
123	W—1 埋土	大甕 常滑	①　—　②　—　③　—	①白粒・砂粒②良③灰色　釉：灰白色④破片	内面輪積痕残す。外面：釉により不鮮明。内面：ユビオサエ・ユビナデ	自然釉。
124	P—69 埋土	甕 須恵器	①[21.7]②（8.0)③　—	①黒粒②良③灰～灰白色④破片	外内ロクロナデ。内面頸部ロクロナデの下地に指頭圧痕。	還元焔焼成。
125	P—65 埋土	坏 土師器	①[11.8]②　5.0 ③　—	①鉄斑•黒粒②良③橙色④1／3	外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面：口縁～底部上半ヨコナデ、底部下半ナデ。	
126	P—142 埋土	甕 須恵器	①　—　②　—　③　—	①黒粒②良③灰白色④破片	外面：格子目タタキ。内面：同心円アテ具痕。	還元焔焼成。
127	P—159 埋土	坏 土師器	①[13.2]②（5.2)③［5.6]	①白粒・黒粒・鉄斑②良③明黄褐色④1／3	外面：口縁部ヨコナデ、胴部ユビナデ・ユビオサエ、胴部下端～底部ヘラケズリ。内面：ヨコナデ。	
128	O—1 埋土	大甕 須恵器	①[44.8]② 13.1 ③　—	①白粒②良③にぶい黄④破片	外面５条の波状文。頸部で明瞭な接合帯剝離。外面：ロクロナデ・横位ナデ。内面：ロクロナデ・横位ナデ。	還元焔焼成。自然釉。
129	O—1 埋土	長頸瓶 須恵器	①　—　②(10.4)③　—	①黒粒・白粒②良③灰色④破片	頸部に接合痕。外内ロクロナデ。内面頸部に指頭圧痕。	還元焔焼成。自然釉。
130	O—1 埋土	瓶 須恵器	①　—　②　—　③　—	①黒粒・白粒②良③灰色④破片	外面：回転ヘラケズリ、高台貼付内面：ロクロナデ。	還元焔焼成。自然釉。
131	O—1 埋土	瓶か 須恵器	①　—　②（3.7)③[13.2]	①黒粒・白粒②良③灰白色④破片	脚端部１条の沈線。外内ロクロナデ。	還元焔焼成。自然釉。
132	O—1 埋土	坏 須恵器	①[12.2]②　3.7 ③［7.4]	①角閃•白粒•片岩②良③灰～にぶい褐色④2／3	外面：口縁～胴部ロクロナデ。底部糸切り後、底部外周～胴部下端手持ちヘラケズリ。内面：ロクロナデ。	還元焔焼成。
133	O—1 埋土	坏 須恵器	①[11.7]②　3.6 ③［8.5]	①白粒・黒粒②良③灰④1／4	外面：口縁～胴部ロクロナデ、胴部下端～底部回転ヘラケズリ。内面：ロクロナデ。	還元焔焼成。

Tab.12　出土瓦観察表

番号	層位	器種	最大長	最大幅	最大厚	①胎土②焼成③色調④遺存度	器形の特徴・成形・調整技法	備　　考
26	H－3 竈	平瓦	(24.8)	(19.1)	2.1	①砂粒・鉄斑・白粒②良③橙～明赤褐色④破片	凹面：布目擦り消し。凸面：格子目叩き、ナデ。端部：面取り1回。	酸化焔焼成。竈壁構築材。煤付着。
27	H－3 竈	平瓦	(26.3)	(13.3)	1.5	①黒粒・砂粒②良③灰色④破片	凹面：布目。ナデ。凸面：縄叩き後、ナデ。側部：面取り2回。	還元焔焼成。竈壁構築材。
28	H－3 竈	丸瓦	(14.8)	(11.4)	1.5	①鉄斑・砂粒②良③明赤褐④破片	凹面：糸切り痕、布目。凸面：縄叩き後ナデ。側部：面取り1回。端部：面取り2回。	酸化焔焼成。竈壁構築材。煤付着。
29	H－3 覆土	平瓦	(11.2)	(10.7)	2.0	①小礫②良③灰色④破片	凹面：布目。凸面：ナデ。側部：面取り2回。端部：面取り1回。	還元焔焼成。凸面に篦描き文字。
30	H－3 竈	平瓦	(18.7)	(19.5)	1.6	①白粒②良③にぶい黄橙色④破片	凹面：布目、縦位ナデ。凸面：縄叩き後、ナデ・ヘラケズリ。側部：面取り1回。	酸化焔焼成。破砕後に2次焼成か。
33	H－4 竈	軒平瓦	(12.2)	(10.7)	5.0	①小礫・砂粒・白粒②良③灰色④破片	瓦当面：偏行唐草文。凹面：糸切り痕、布目。凸面：ナデ。顎部：ヘラケズリ。側部：面取り2回。	還元焔焼成。
34	H－4 竈	軒平瓦	(6.7)	(13.5)	5.1	①砂粒・白粒②良③灰色④破片	瓦当面：偏行唐草文。凹面：糸切り、布目。凸面：ナデ。顎部ヘラケズリ。側部：面取り4回。	還元焔焼成。竈支脚。
52	H－5 竈	平瓦	(26.8)	(20.4)	2.2	①砂粒・小礫・白粒②良③灰色④破片	凹面：布目。浅いナデ。凸面：ナデ。側部：面取り2回。端部：面取り1回。	還元焔焼成。
59	H－6 竈	丸瓦	(22.2)	(9.1)	2.0	①小礫・砂粒・白粒②良③明赤褐色④破片	凹面：布目。凸面：縦位ナデ。側部：面取り2回。端部：面取り1回。	酸化焔焼成。竈支脚。煤付着。
64	H－7 竈	丸瓦	(11.8)	14.1	2.0	①砂粒・白粒②良③明赤褐色④破片	凹面：糸切り痕、布目、ナデ。凸面：ナデ。側部：面取り1回。端部：面取り1回。	酸化焔焼成。竈壁構築材。煤付着。
84	H－10 埋土	平瓦	(5.2)	(7.4)	1.9	①砂粒・白粒②良③灰④破片	凹面：布目。凸面：ナデ。端部：面取り2回。	還元焔焼成。凸面に篦描き文字。
100	H－12 竈	平瓦	(25.3)	(16.5)	2.5	①砂粒・白粒②良③灰～暗灰黄色④破片	凹面：布目。凸面：縦位ナデ。側部：面取り1回。端部：面取り2回。	還元焔焼成。竈袖材。
101	H－12 P7	平瓦	(24.4)	(12.2)	2.2	①小礫・白粒②良③橙～明赤褐色④破片	凹面：糸切り、布目。凸面：縦位ナデ。側部：面取り3回。端部：面取り2回。	酸化焔焼成。煤付着。
102	H－12 貯蔵穴	平瓦	(18.4)	(16.0)	1.4	①白粒・砂②良③灰白④破片	凹面：布目。凸面：縄叩き後、ナデ。側部：面取り1回。端部：面取り1回。	還元焔焼成。煤付着。
103	H－12 貯蔵穴	平瓦	(16.2)	7.7	1.9	①黒粒②良③灰黄色④破片	凹面：模骨痕、布目。凸面：縄叩き後、ナデ。端部：面取り2回	還元焔焼成。
104	H－12 覆土	平瓦	(13.5)	(13.2)	1.9	①白粒・小礫・砂粒②良③灰④破片	凹面：布目、ナデ。凸面：ナデ。側部：面取り3回。端部：面取り2回	還元焔焼成。凸面に篦描き有り。
105	H－12 竈	丸瓦	(18.7) (7.9)	(4.0)	1.5	①鉄斑・白粒②良③明赤褐色～赤褐色④破片	凹面：布目。凸面：ナデ。側部：面取り。	酸化焔焼成。竈壁構築材。煤付着。
113	H－16 竈	平瓦	(10.4)	(11.1)	2.5	①白粒・砂粒②良③灰白④破片	凹面：布目。凸面：ナデ。端部：面取り1回。	還元焔焼成。
114	H－16 竈	丸瓦	(17.4)	(10.3)	1.9	①白粒・小礫②良③灰色④破片	凹面：布目。凸面：ナデ。側部：面取り2回。端部：面取り1回。	還元焔焼成。
117	D－5 覆土	丸瓦	(20.1)	(9.3)	1.1	①砂粒・白粒②良③灰色④破片	玉縁式。凹面：布目。凸面：縄叩き後、横位ナデ。側部：面取り1回。	還元焔焼成。

Tab.13　出土石器・石製品観察表

番号	層位	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	石材	遺存度	備　　考
4	H－1 埋土	こも石	(11.5)	7.7	4.2	553	安山岩	欠損(不明)	全体的に被熱。
31	H－3 埋土	こも石	14.5	6.6	4.0	660	安山岩	完形	
53	H－5 P2	磨石	14.1	8.5	3.2	623	安山岩	完形	無数の線条痕。
94	H－11 床直	こも石	12.8	5.8	3.1	364	安山岩	完形	
95	H－11 床直	こも石	13.6	6.1	4.3	543	安山岩	完形	

〈引用参考文献〉

前橋市埋蔵文化財発掘調査団・山武考古学研究所『元総社小見遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001年

前橋市埋蔵文化財発掘調査団・山武考古学研究所『元総社小見Ⅲ遺跡　元総社草作Ⅴ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003年

前橋市埋蔵文化財発掘調査団『元総社小見Ⅳ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003年

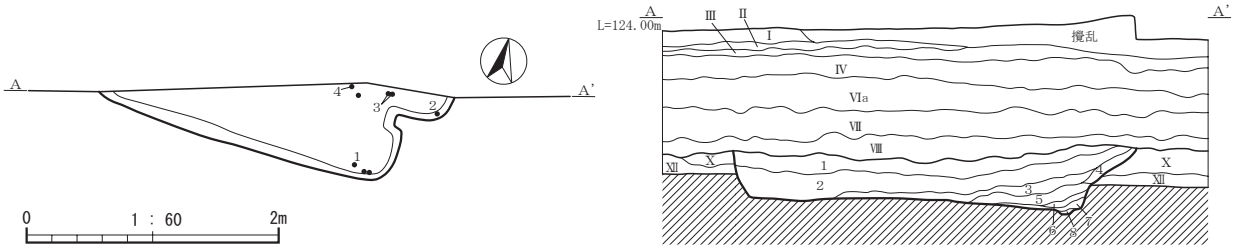
前橋市埋蔵文化財発掘調査団『元総社小見内Ⅶ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2004年

前橋市埋蔵文化財発掘調査団『元総社小見内Ⅸ遺跡　総社閑泉明神北Ⅴ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2005年

前橋市埋蔵文化財発掘調査団『元総社蒼海遺跡群（4）』前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2006年

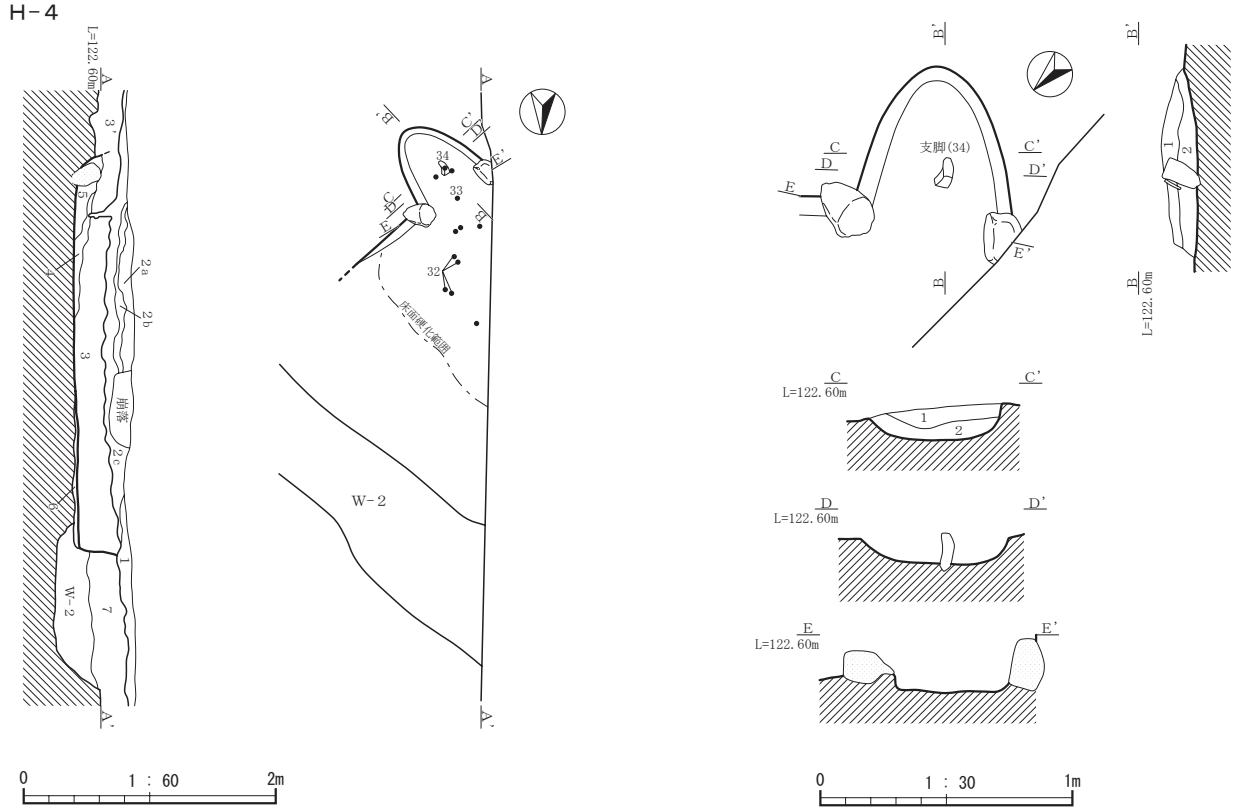
前橋市埋蔵文化財発掘調査団『元総社蒼海遺跡群（5）』前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2006年

H－1



H－1号住居跡　セクション
1　黒褐色土　○○　As-C７％、Hr-FP１％
2　黒褐色土　○○　As-C10％、黄褐色シルトブロック７％
3　黒褐色土　○○　As-C５％、黄褐色シルトブロック５％
4　暗褐色土　○○　As-C３％、焼土ブロック・焼土粒５％
5　黒褐色土　◎○　As-C・焼土ブロック・焼土粒３％（竈天井崩落土）
6　黒褐色土　◎○　As-C３％、焼土ブロック・焼土粒７％
7　黒褐色土　△○　木炭主体。焼土ブロック・焼土粒２％（灰層）
8　黒褐色土　○○　白色微粒子５％（掘り方）

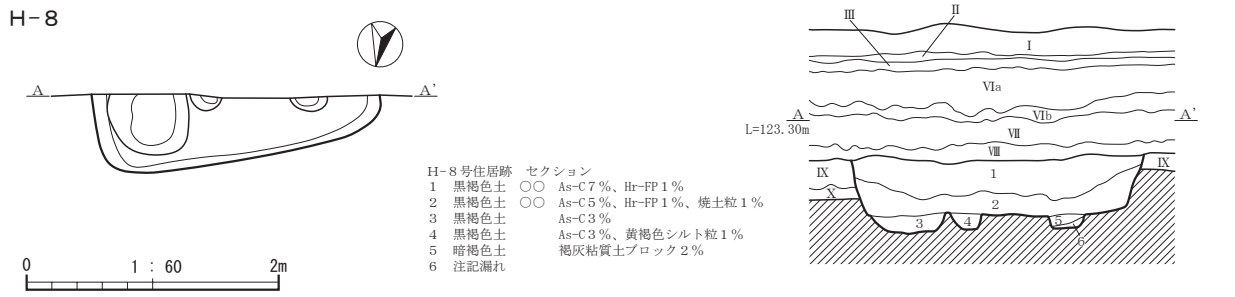
H－4



H－4号住居跡　セクション
1　暗褐色土　○△　B混土。As-C２％
2a　As-B　褐灰色軽石主体。
2b　As-B　赤灰色火山灰（一次堆積か）
2c　As-B　褐灰軽石層（一次堆積か）
3　暗褐色土　○○　As-C10％、Hr-FP１％
3'　黒褐色土　○○　As-C10％
4　黒褐色土　○◎　As-C２％（竈崩壊土）
5　暗褐色土　○◎　As-C２％（竈崩壊土）
6　暗褐色土　○○　As-C１％、黒色土ブロック３％（貼床）
7　暗褐色土　○○　As-C10％

H－4号住居跡　竈セクション
1　黒褐色土　○○　As-C５％、焼土ブロック・焼土粒７％（天井崩落土）
2　黒褐色土　○○　灰主体。As-C１％、焼土粒２％（灰層）

H－8



H－8号住居跡　セクション
1　黒褐色土　○○　As-C７％、Hr-FP１％
2　黒褐色土　○○　As-C５％、Hr-FP１％、焼土粒１％
3　黒褐色土　As-C３％
4　黒褐色土　As-C３％、黄褐色シルト粒１％
5　暗褐色土　褐灰粘質土ブロック２％
6　注記漏れ

Fig. 7　H―１・４・８号住居跡

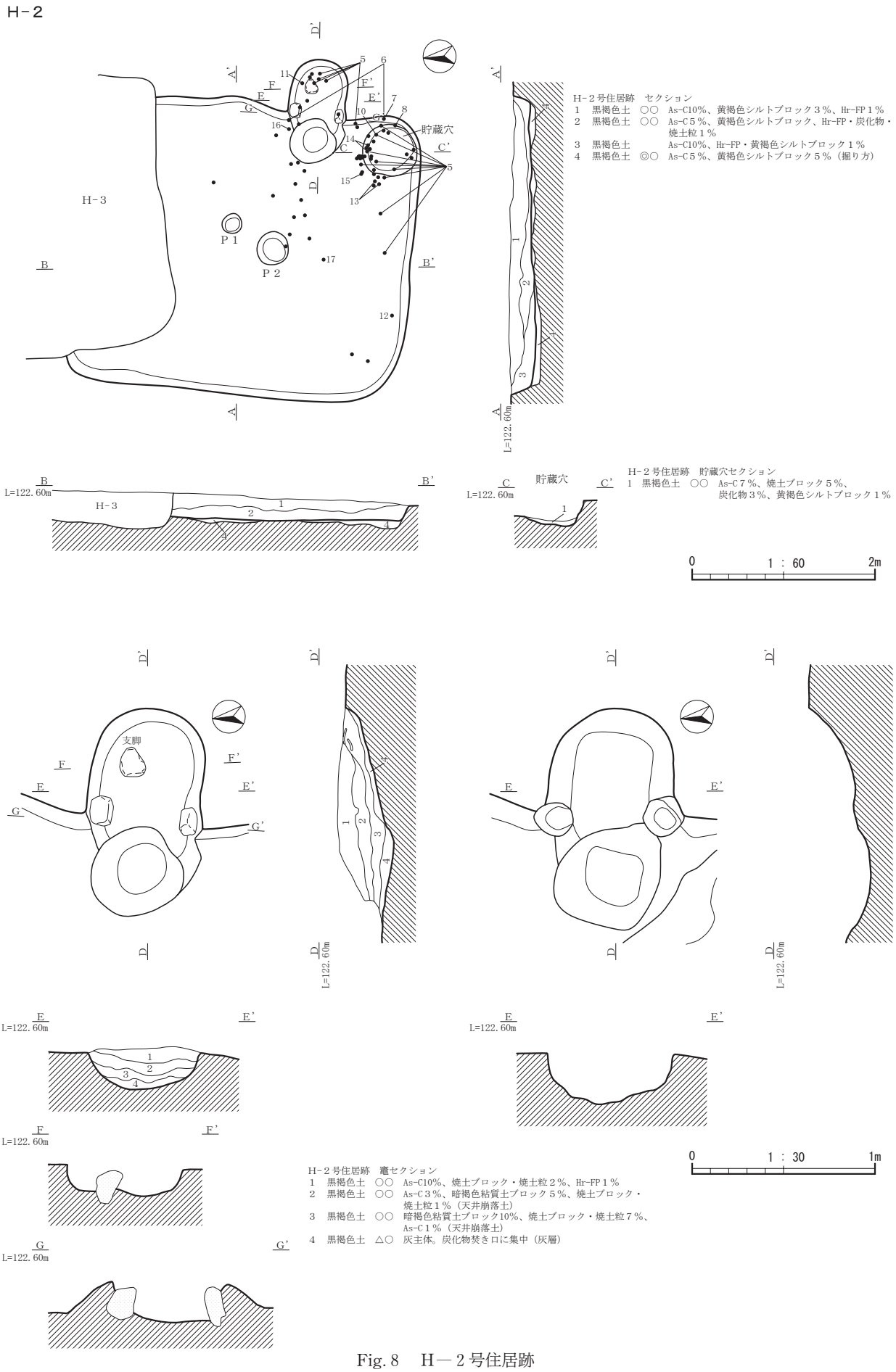
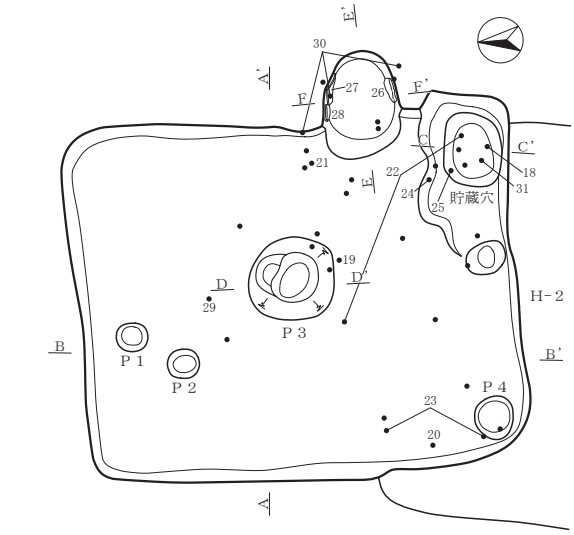
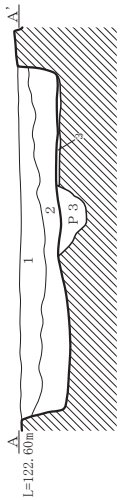
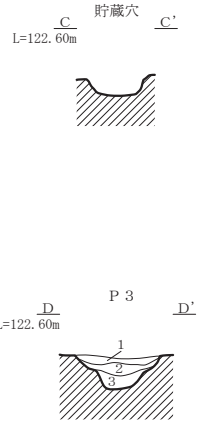

H－2
H－3
P 1
P 2
貯蔵穴
H－2号住居跡　セクション
1　黒褐色土　○○　As-C10%、黄褐色シルトブロック３%、Hr-FP１%
2　黒褐色土　○○　As-C５%、黄褐色シルトブロック、Hr-FP・炭化物・焼土粒１%
3　黒褐色土　As-C10%、Hr-FP・黄褐色シルトブロック１%
4　黒褐色土　◎○　As-C５%、黄褐色シルトブロック５%（掘り方）
L=122.60m
H－２号住居跡　貯蔵穴セクション
1　黒褐色土　○○　As-C７%、焼土ブロック５%、炭化物３%、黄褐色シルトブロック１%
0　1：60　2m
支脚
0　1：30　1m
H－２号住居跡　竈セクション
1　黒褐色土　○○　As-C10%、焼土ブロック・焼土粒２%、Hr-FP１%
2　黒褐色土　○○　As-C３%、暗褐色粘質土ブロック５%、焼土ブロック・焼土粒１%（天井崩落土）
3　黒褐色土　○○　暗褐色粘質土ブロック10%、焼土ブロック・焼土粒７%、As-C１%（天井崩落土）
4　黒褐色土　△○　灰主体。炭化物焚き口に集中（灰層）

Fig. 8　H－２号住居跡

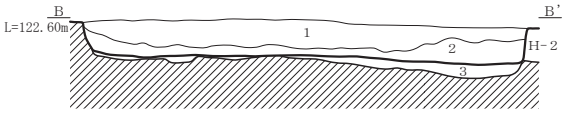
H－3



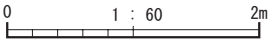


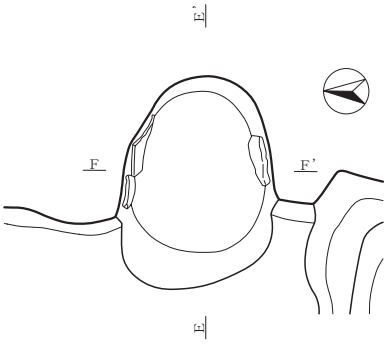


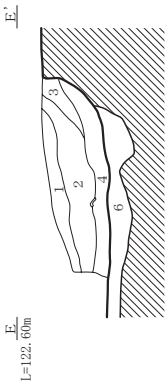
H－3号住居跡　P３セクション
1　黒褐色土　○○　As-C10%、黄褐色シルトブロック７%（貼床）
2　灰黄褐色土　△○　木炭・灰主体。
3　にぶい黄褐色土　○○　黄褐色シルトブロック３%

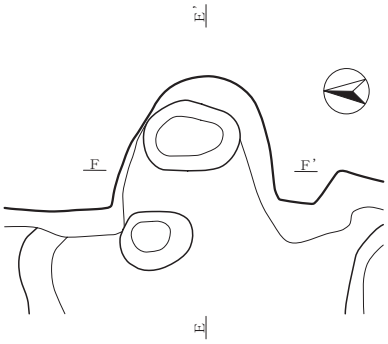


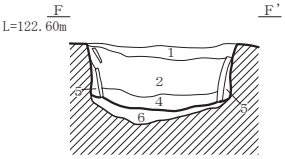
H－３号住居跡　セクション
1　黒褐色土　○○　As-C10%、黄褐色シルトブロック７%、Hr-FP１%
2　黒褐色土　　As-C・黄褐色シルトブロック７%、Hr-FP１%
3　暗褐色土　◎○　As-C・黄褐色シルトブロック７%（掘り方）











H－３号住居跡　竈セクション
1　黒褐色土　○○　As-C７%、黄褐色シルトブロック・黄褐色シルト粒５%、
　　焼土ブロック・焼土粒３%（天井崩落土）
2　黒褐色土　○○　黄褐色シルトブロック・黄褐色シルト粒子７%、As-C・
　　焼土ブロック・焼土粒子３%、炭化物１%（天井崩落土）
3　暗褐色土　△○　焼土ブロック・焼土粒５%、As-C１%
4　黒褐色土　△○　木炭・灰主体。焼土ブロック・焼土粒３%（灰層）
5　黒褐色土　○○　黄褐色シルトブロック・黄褐色シルト粒２%（掘り方）
6　暗褐色土　○○　黄褐色シルトブロック５%、As-C３%

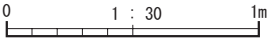
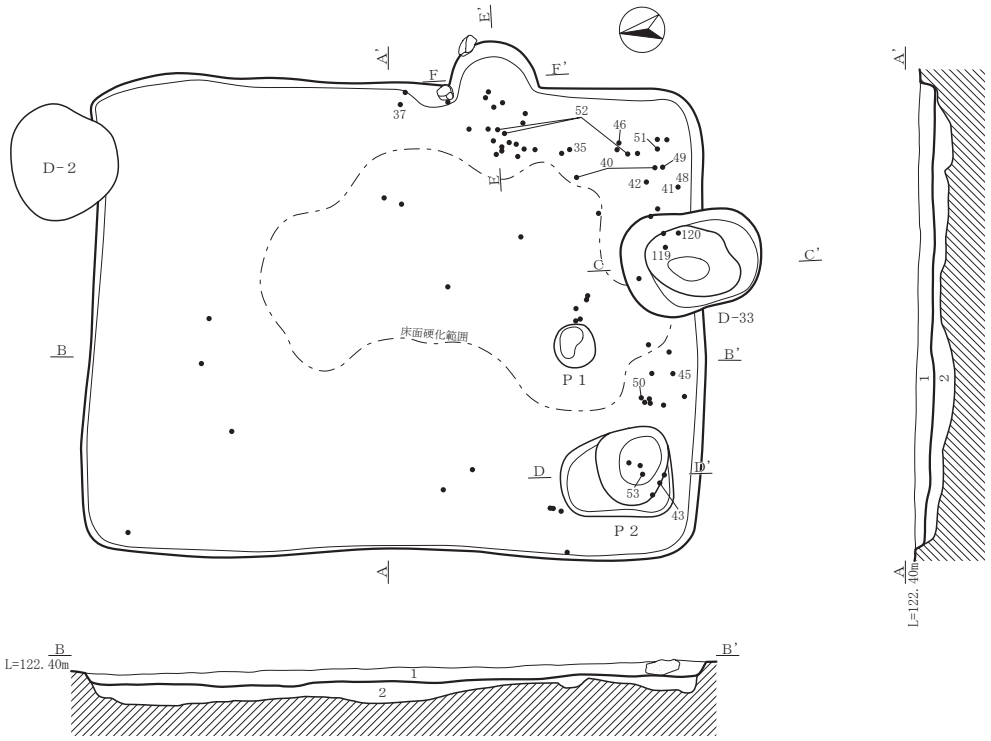
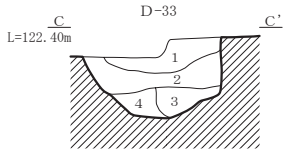


Fig. 9　H－３号住居跡

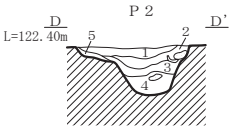
H－5



H－５号住居跡　セクション
1　黒褐色土　○○　As-C10%、Hr-FP・黄褐色シルトブロック・灰白色シルトブロック５％、炭化物１％
2　黒褐色土　○○　As-C10%、炭化物１％

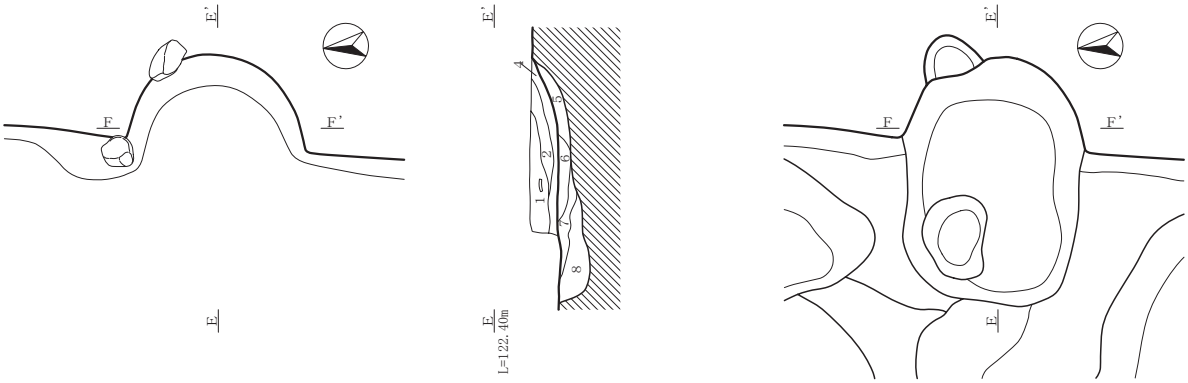


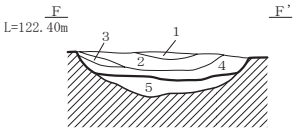
D-33号土坑跡　セクション
1　黒褐色土　○○　As-C７％、黄褐色シルトブロック・黄褐色シルト粒３％、焼土粒１％
2　黒褐色土　○○　黄褐色シルトブロック５％、As-C３％、焼土粒１％
3　暗黄灰色土　○○　黄褐色シルトブロック・黄褐色シルト粒５％
4　オリーブ褐色土　△○　黄褐色シルトブロック・黄褐色シルト粒７％



H－５号住居跡　Ｐ２セクション
1　黒褐色土　○○　As-C10%、黄褐色シルトブロック３％、焼土ブロック・焼土粒子２％
2　暗褐色土　○○　黄褐色シルトブロック３％、As-C１％
3　暗褐色土　○○　黄褐色シルトブロック５％
4　暗灰黄色土　○○　黄褐色シルトブロック２％
5　暗褐色土　　黄褐色シルトブロック７％

0　1：60　2m



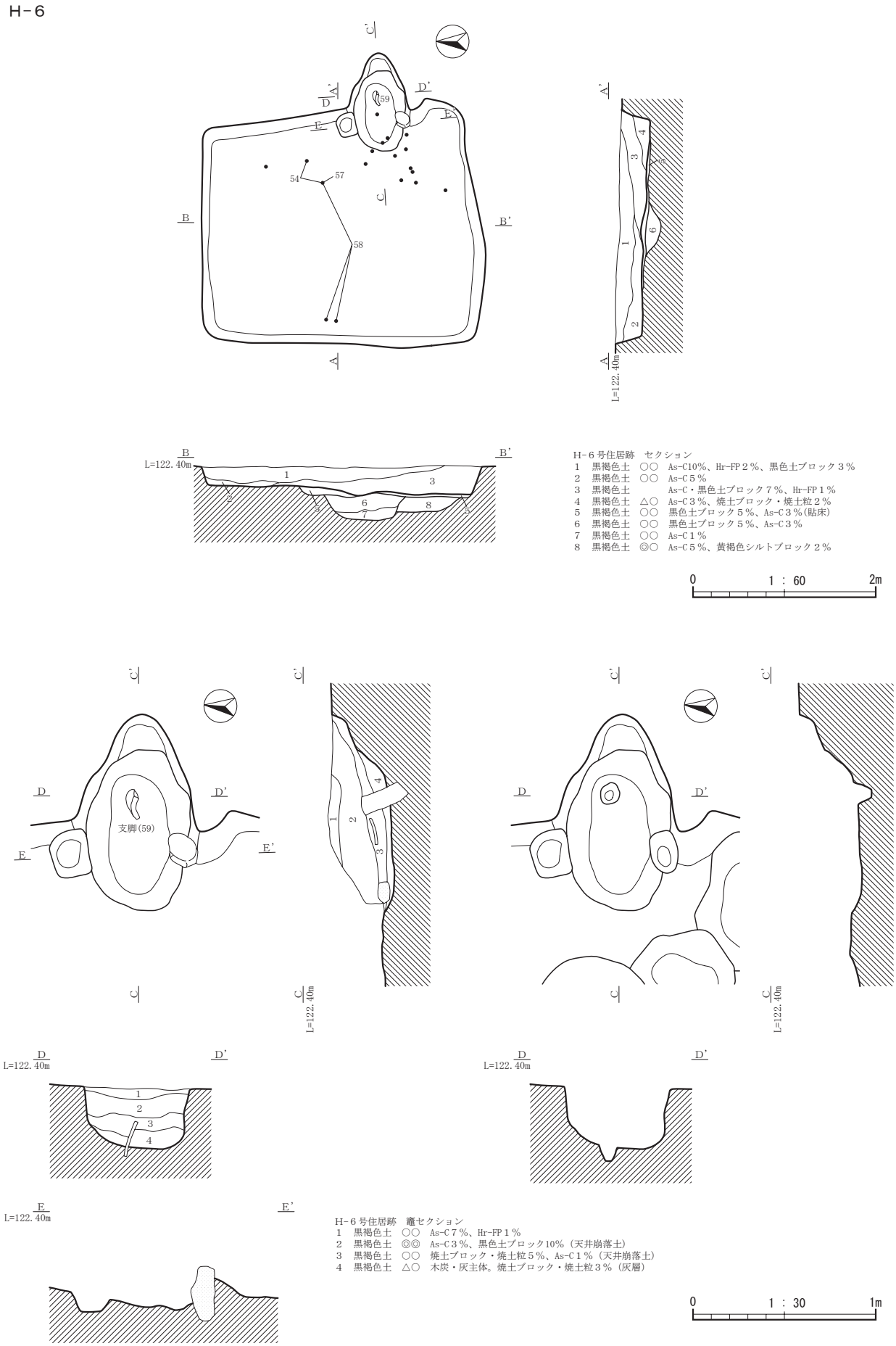


H－５号住居跡　竈セクション
1　黒褐色土　○○　As-C７％、炭化物・焼土ブロック３％
2　黒褐色土　○○　As-C５％、焼土ブロック・焼土粒２％
3　黒褐色土　○○　焼土ブロック・焼土粒５％、As-C１％
4　黒褐色土　△○　炭化物・灰主体。焼土粒１％
5　黒褐色土　○○　As-C・焼土粒１％（掘り方）
6　褐色土　　△○　灰主体。焼土ブロック３％
7　黒褐色土　△○　木炭・灰主体。
8　にぶい黄褐色土　△○　ブロック状の灰50%、焼土ブロック２％
9　黒褐色土　○○　As-C10%、褐灰色シルトブロック

0　1：30　1m

Fig.10　Ｈ－５号住居跡・Ｄ－33号土坑

H－6



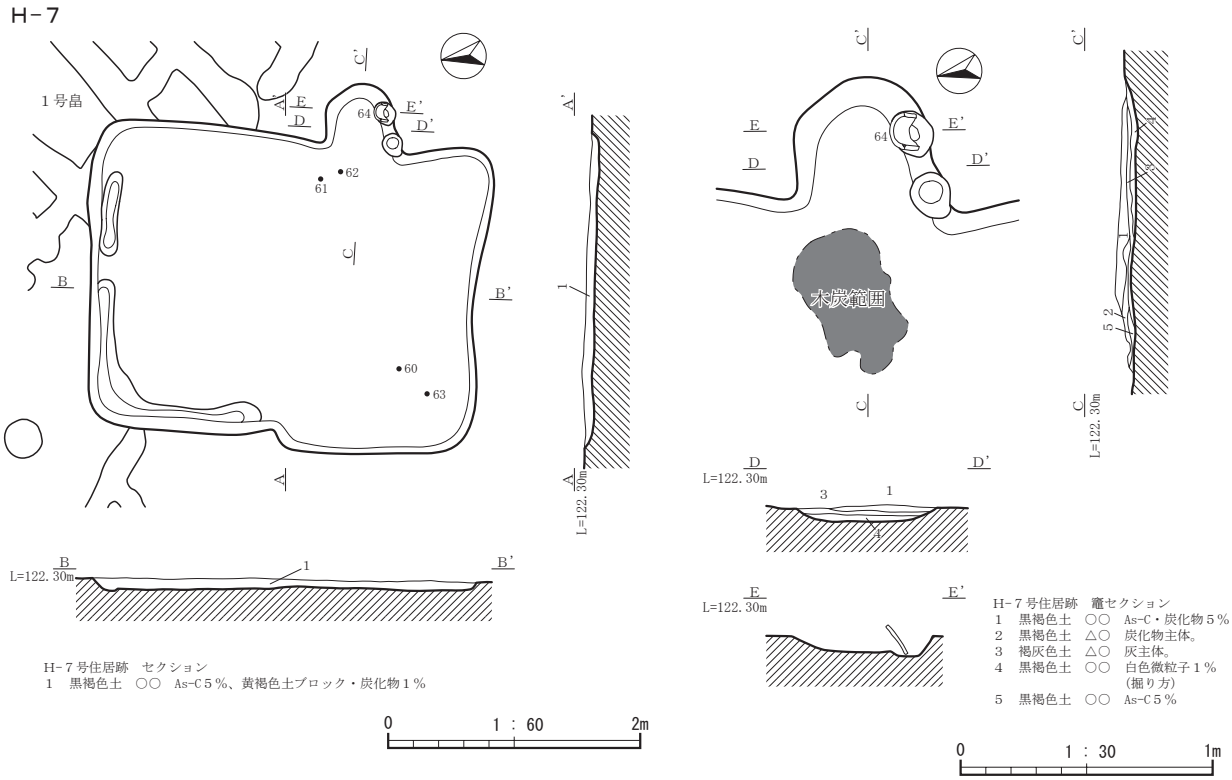
H－6号住居跡　セクション
1　黒褐色土　○○　As-C10%、Hr-FP２%、黒色土ブロック３%
2　黒褐色土　○○　As-C５%
3　黒褐色土　　As-C・黒色土ブロック７%、Hr-FP１%
4　黒褐色土　△○　As-C３%、焼土ブロック・焼土粒２%
5　黒褐色土　○○　黒色土ブロック５%、As-C３%(貼床)
6　黒褐色土　○○　黒色土ブロック５%、As-C３%
7　黒褐色土　○○　As-C１%
8　黒褐色土　◎○　As-C５%、黄褐色シルトブロック２%

0　1：60　2m

H－6号住居跡　竈セクション
1　黒褐色土　○○　As-C７%、Hr-FP１%
2　黒褐色土　◎◎　As-C３%、黒色土ブロック10%（天井崩落土）
3　黒褐色土　○○　焼土ブロック・焼土粒５%、As-C１%（天井崩落土）
4　黒褐色土　△○　木炭・灰主体。焼土ブロック・焼土粒３%（灰層）

0　1：30　1m

Fig.11　H－６号住居跡



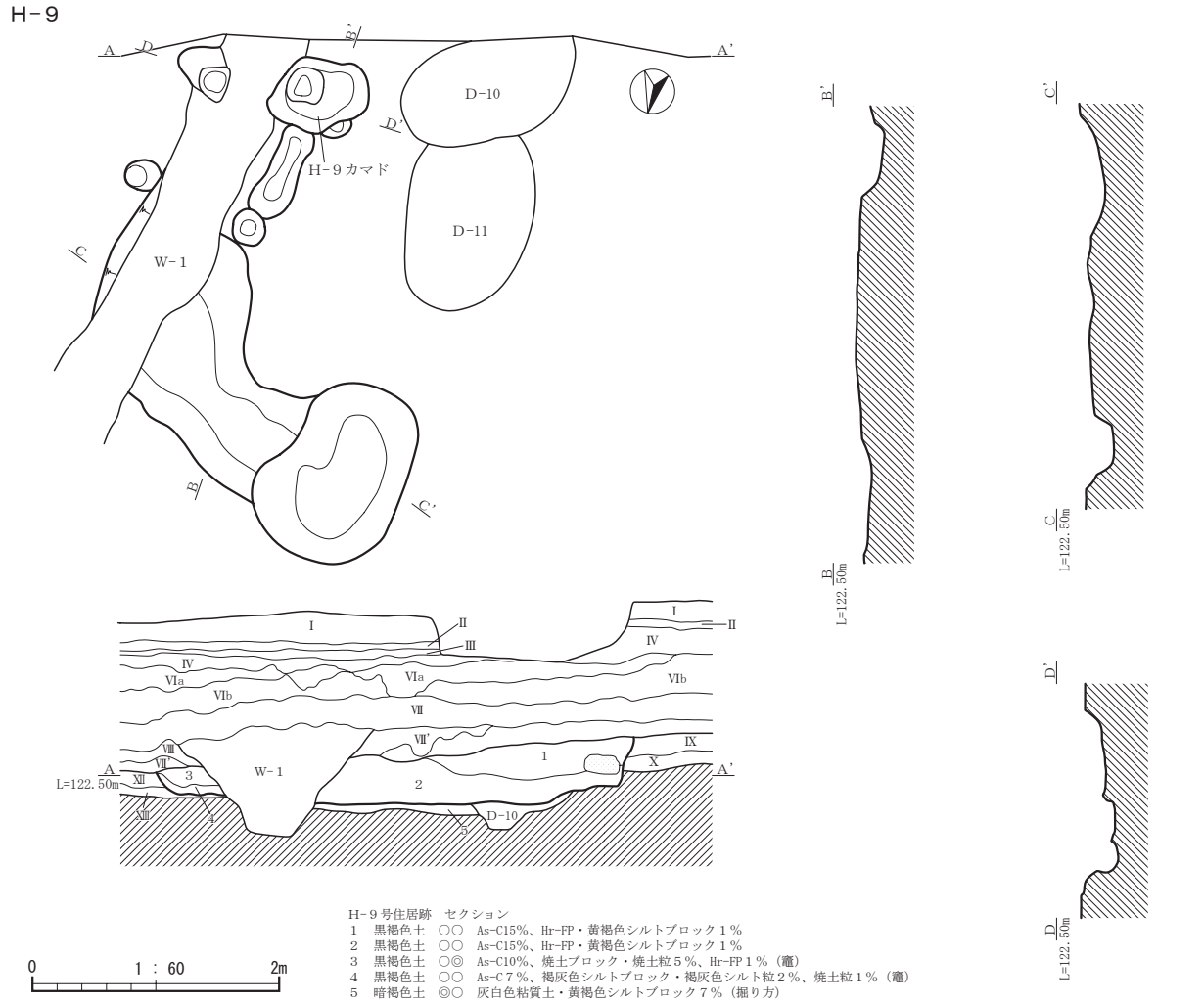
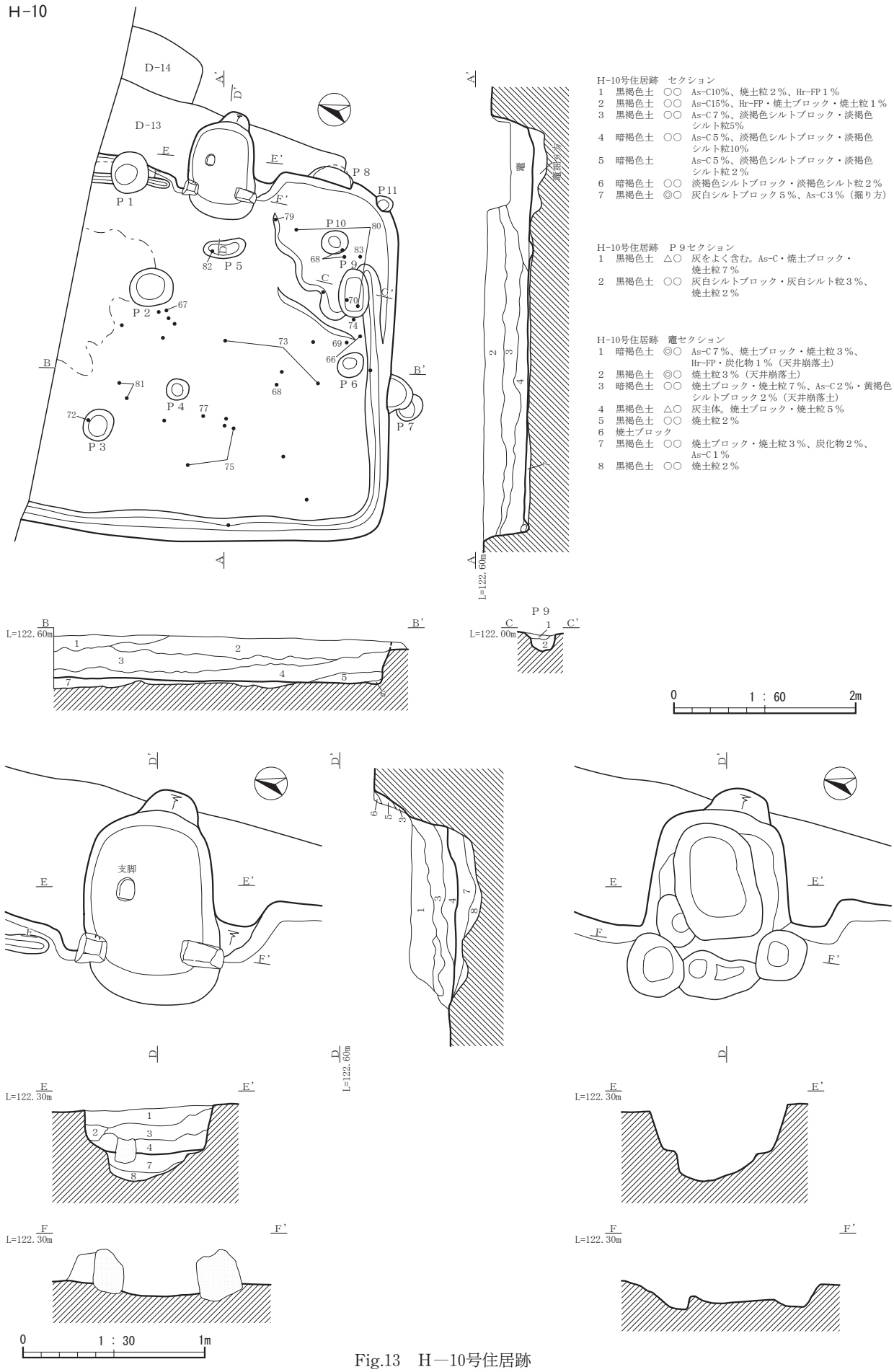


Fig.12　H－７・９号住居跡



H-10号住居跡　セクション

1　黒褐色土　○○　As-C10%、焼土粒２%、Hr-FP１%
2　黒褐色土　○○　As-C15%、Hr-FP・焼土ブロック・焼土粒１%
3　黒褐色土　○○　As-C７%、淡褐色シルトブロック・淡褐色シルト粒5%
4　暗褐色土　○○　As-C５%、淡褐色シルトブロック・淡褐色シルト粒10%
5　暗褐色土　　As-C５%、淡褐色シルトブロック・淡褐色シルト粒２%
6　暗褐色土　○○　淡褐色シルトブロック・淡褐色シルト粒２%
7　黒褐色土　◎○　灰白シルトブロック５%、As-C３%（掘り方）

H-10号住居跡　Ｐ９セクション

1　黒褐色土　△○　灰をよく含む。As-C・焼土ブロック・焼土粒７%
2　黒褐色土　○○　灰白シルトブロック・灰白シルト粒３%、焼土粒２%

H-10号住居跡　竈セクション

1　暗褐色土　◎○　As-C７%、焼土ブロック・焼土粒３%、Hr-FP・炭化物１%（天井崩落土）
2　黒褐色土　◎○　焼土粒３%（天井崩落土）
3　暗褐色土　○○　焼土ブロック・焼土粒７%、As-C２%・黄褐色シルトブロック２%（天井崩落土）
4　黒褐色土　△○　灰主体。焼土ブロック・焼土粒５%
5　黒褐色土　○○　焼土粒２%
6　焼土ブロック
7　黒褐色土　○○　焼土ブロック・焼土粒３%、炭化物２%、As-C１%
8　黒褐色土　○○　焼土粒２%

Fig.13　H―10号住居跡

H-11

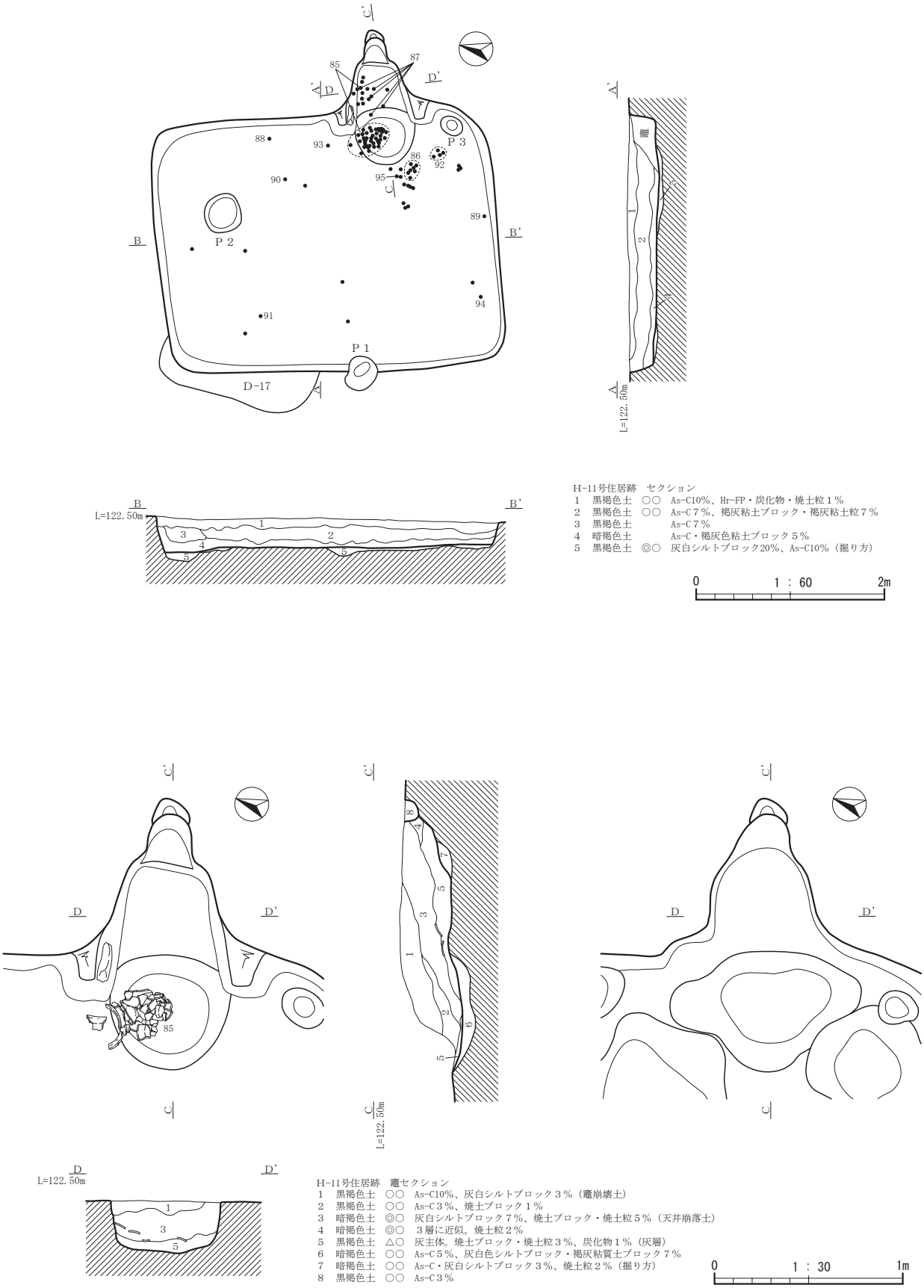
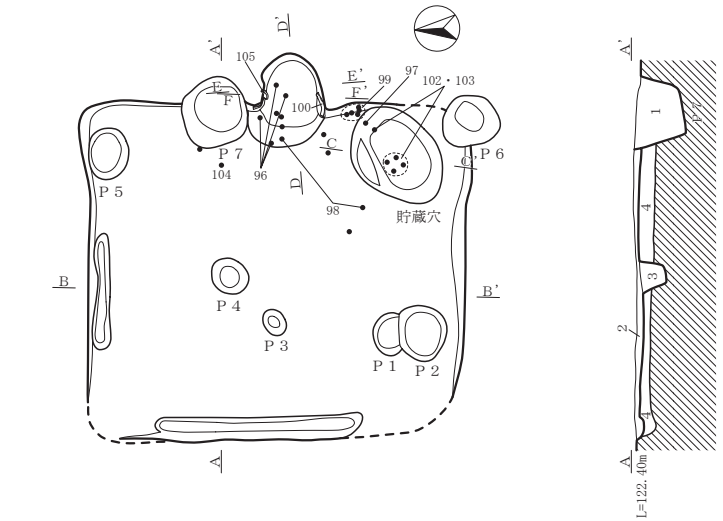
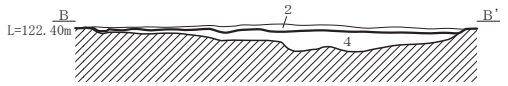
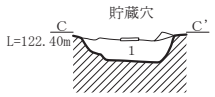


Fig.14　H―11号住居跡

H-12



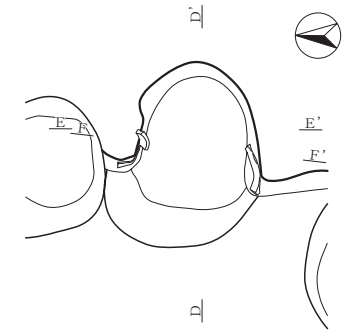


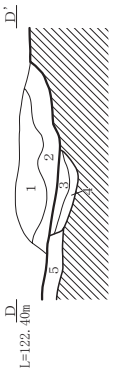


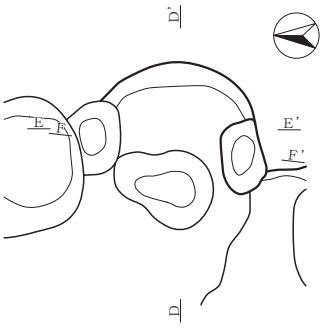
H-12号住居跡　セクション
1　黒褐色土　○○　As-C・灰白シルトブロック３％、炭化物１％（H-12Ｐ７）
2　黒褐色土　○○　As-C10％、焼土ブロック・焼土粒２％、Hr-FP１％
3　黒褐色土　○○　As-C混土（H-12Ｐ３）
4　暗褐色土　◎○　As-C７％、褐灰色粘質土ブロック３％（掘り方）

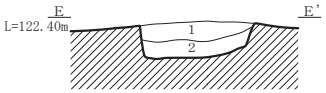
H-12号住居跡　貯蔵穴セクション
1　黒褐色土　△○　木炭・灰多く含む。As-C５％
2　黒褐色土　○○　灰白粘質土ブロック３％、As-C・焼土ブロック・焼土粒２％

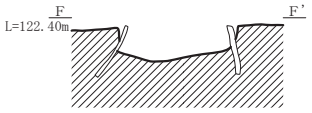
0　1：60　2m



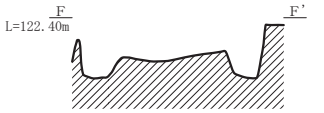








H-12号住居跡　竈セクション
1　暗褐色土　○○　As-C５％、焼土ブロック・焼土粒３％（天井崩落土）
2　黒褐色土　△○　灰主体。As-C・炭化物・焼土粒１％（灰層）
3　黒褐色土　△○　木炭・灰主体。
4　暗褐色土　○○　木炭10％、焼土粒１％
5　暗褐色土　○○　As-C５％　焼土粒１％



0　1：30　1m

Fig.15　H―12号住居跡

H-14

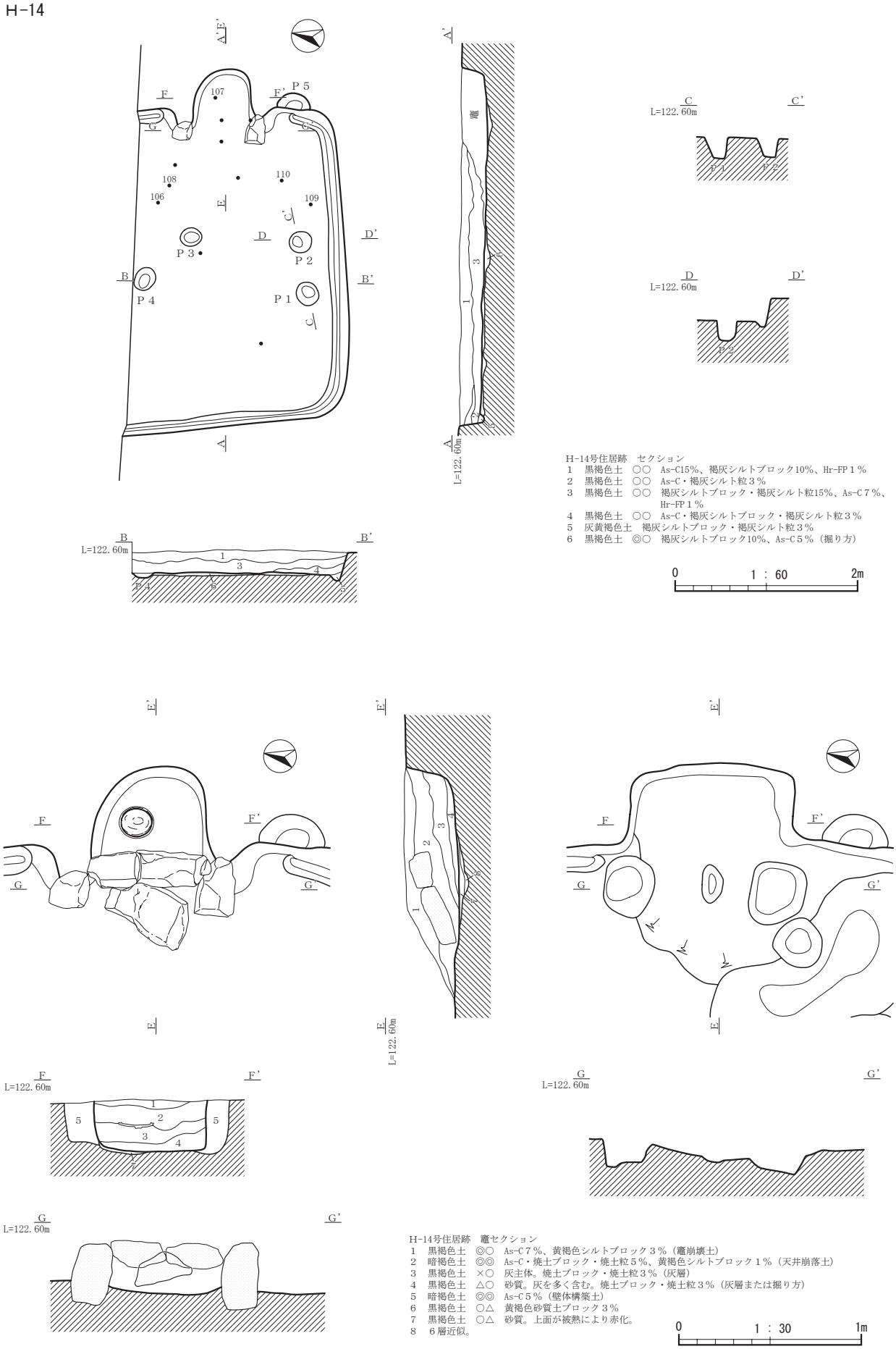
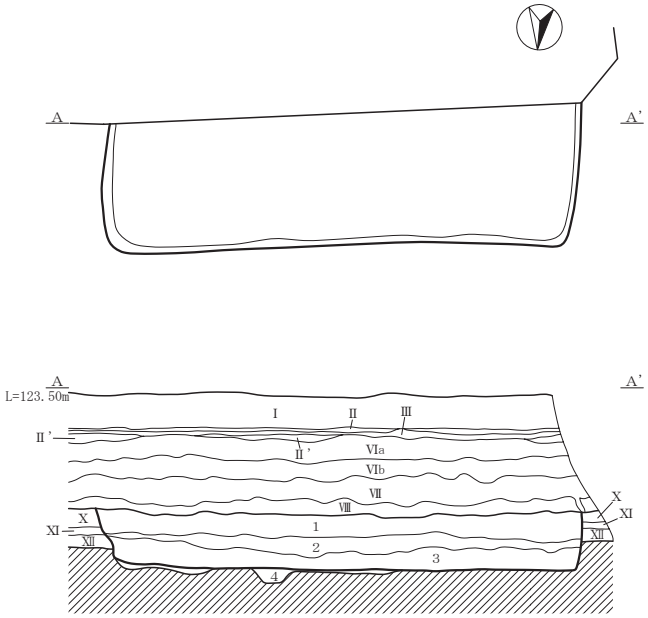


Fig.16　H―14号住居跡

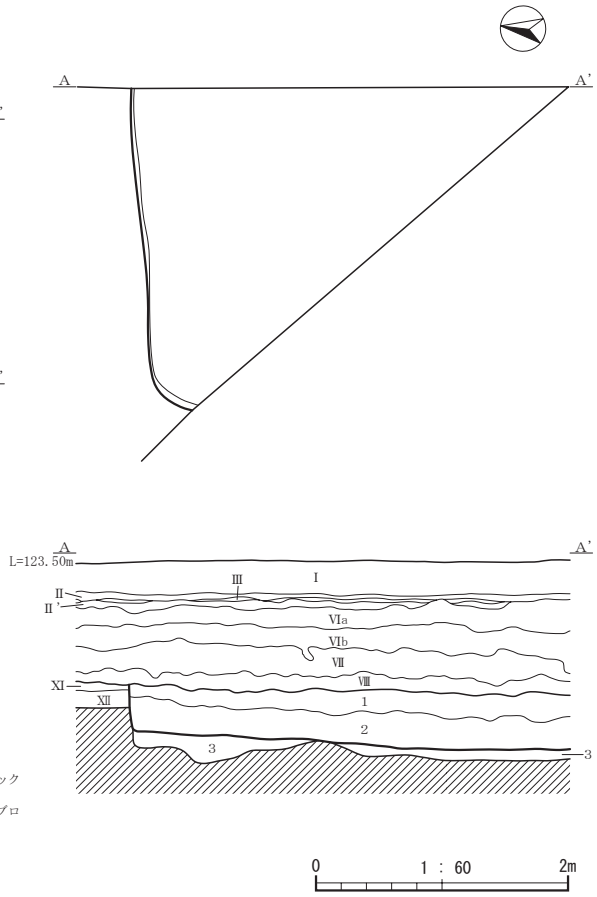
H-13



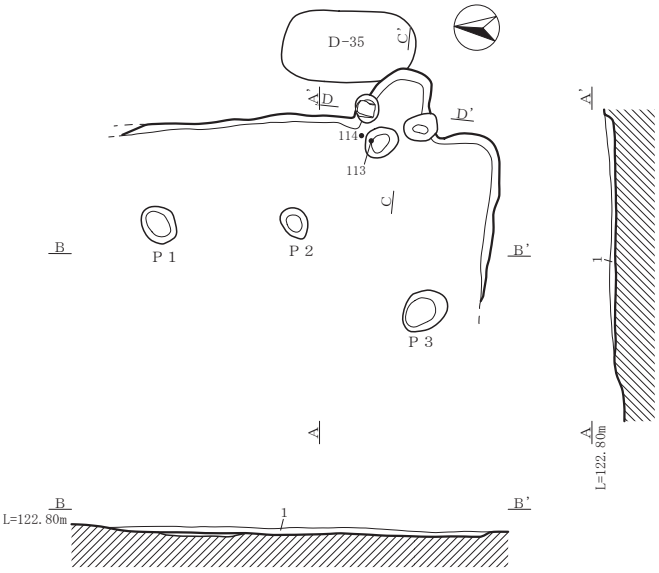
H-13号住居跡　セクション
1　黒褐色土　○○　As-C７％、Hr-FP１％
2　黒褐色土　○○　As-C５％、Hr-FP１％
3　黒褐色土　○○　As-C５％、Hr-FP１％、褐灰粘質土ブロック・褐灰粘質土粒７％
4　暗褐色土　○○　As-C15％

H-15号住居跡　セクション
1　黒褐色土　○○　As-C10％、黄褐色シルトブロック・褐灰細砂ブロック・橙褐色細砂ブロック５％、Hr-FP１％
2　黒褐色土　○○　As-C７％、橙褐色細砂ブロック７％、黄褐色シルトブロック・褐灰細砂ブロック３％、Hr-FP１％
3　黒褐色土　○○　As-C10％、炭化物１％(掘り方)

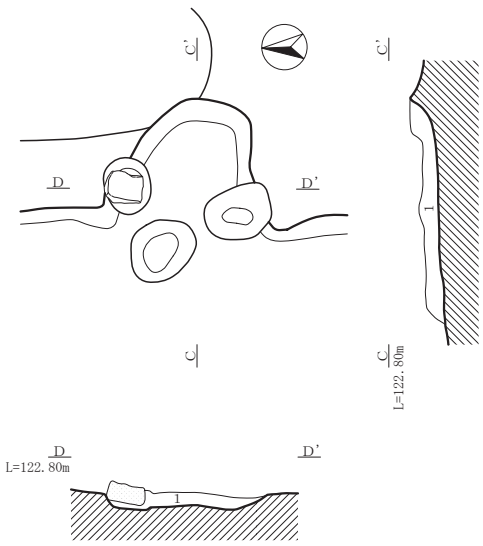
H-15



H-16



H-16号住居跡　セクション
1　黒褐色土　○○　As-C10％、暗褐灰色粘質土ブロック３％



H-16号住居跡　竈セクション
1　黒褐色土　○○　As-C３％、焼土ブロック・焼土粒７％、炭化物１％

0　1 : 60　2m　　0　1 : 30　1m

Fig.17　H―13・15・16号住居跡

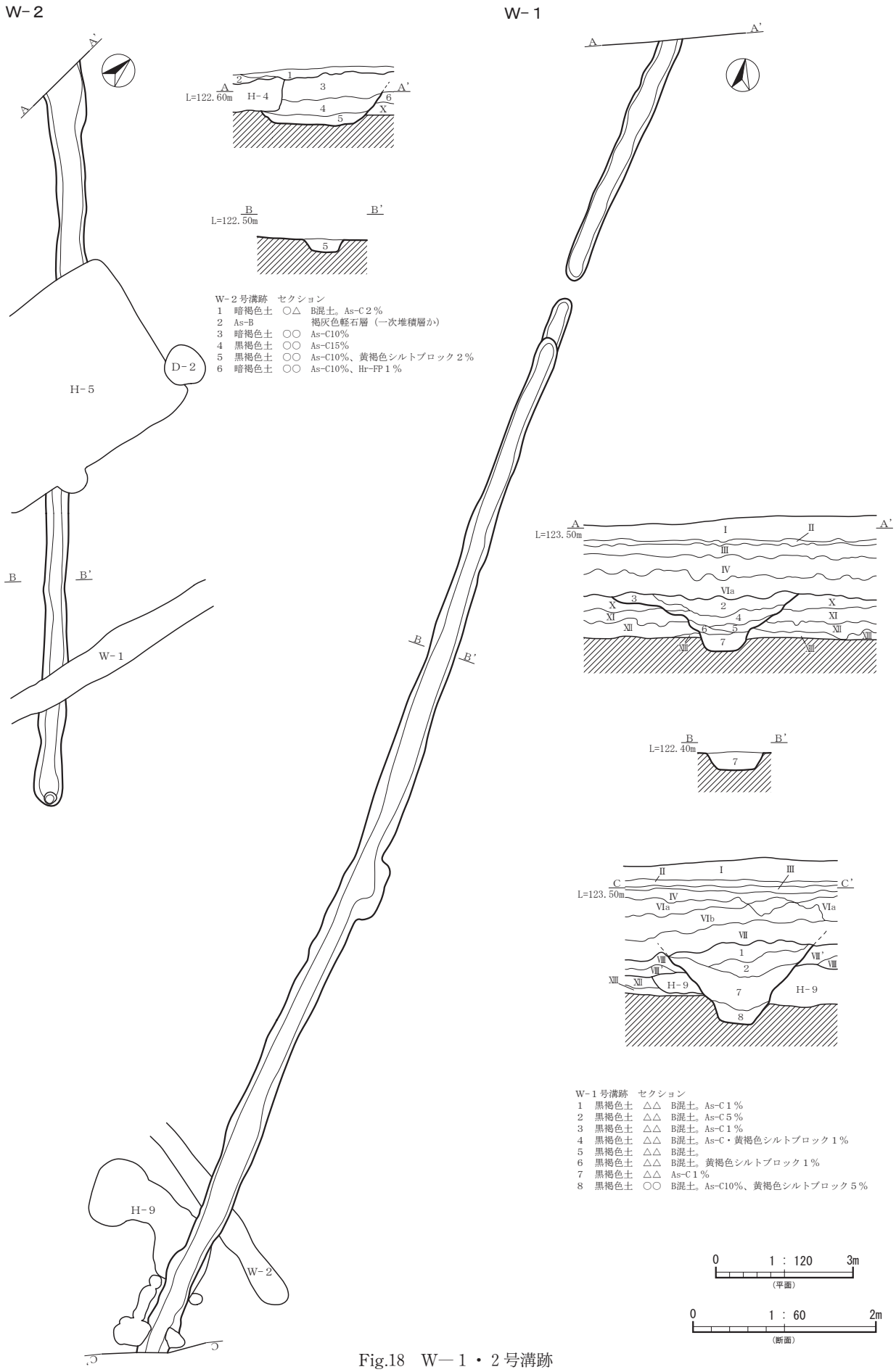


Fig.18　W―１・２号溝跡

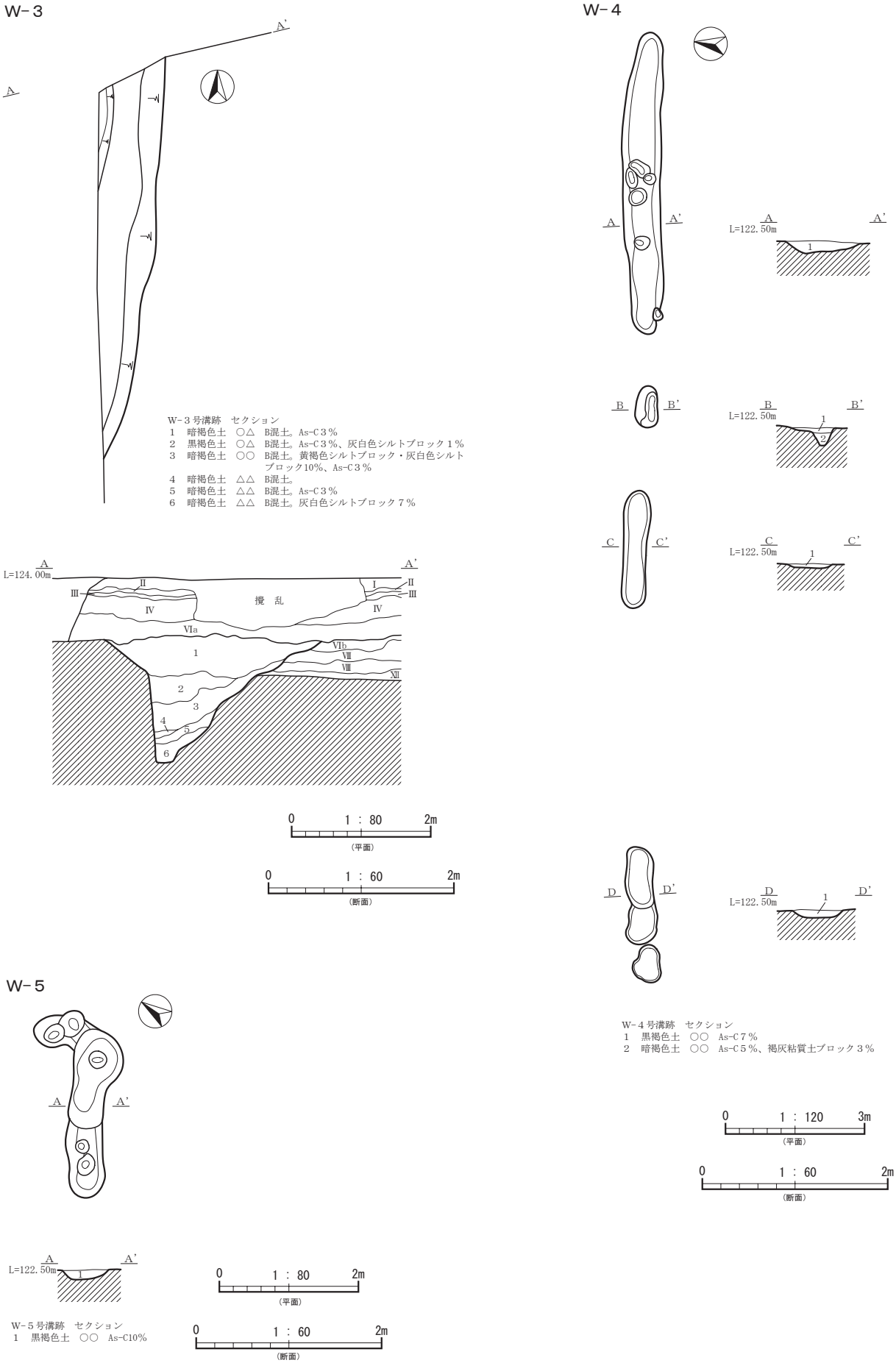


Fig.19　W―３～５号溝跡

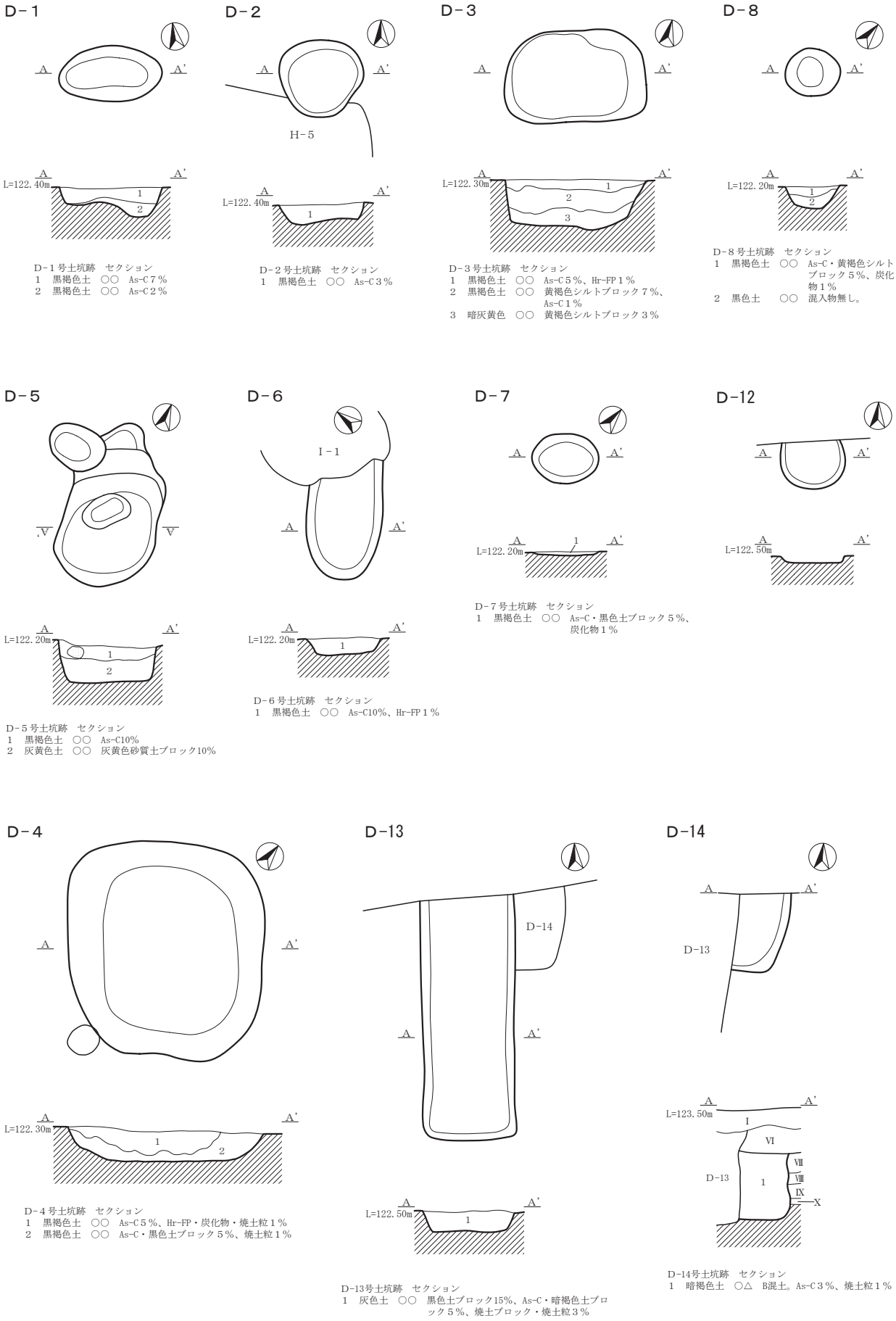
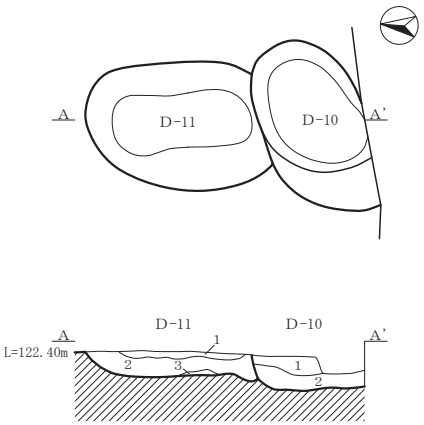

D－1
A
A'
L=122.40m
1
2
D－1号土坑跡　セクション
1　黒褐色土　○○　As-C７％
2　黒褐色土　○○　As-C２％
D－2
H－5
L=122.40m
D－2号土坑跡　セクション
1　黒褐色土　○○　As-C３％
D－3
L=122.30m
3
D－3号土坑跡　セクション
1　黒褐色土　○○　As-C５％、Hr-FP１％
2　黒褐色土　○○　黄褐色シルトブロック７％、As-C１％
3　暗灰黄色　○○　黄褐色シルトブロック３％
D－8
L=122.20m
D－8号土坑跡　セクション
1　黒褐色土　○○　As-C・黄褐色シルトブロック５％、炭化物１％
2　黒色土　○○　混入物無し。
D－5
V
L=122.20m
D－5号土坑跡　セクション
1　黒褐色土　○○　As-C10%
2　灰黄色土　○○　灰黄色砂質土ブロック10%
D－6
I－1
L=122.20m
D－6号土坑跡　セクション
1　黒褐色土　○○　As-C10%、Hr-FP１％
D－7
L=122.20m
D－7号土坑跡　セクション
1　黒褐色土　○○　As-C・黒色土ブロック５％、炭化物１％
D－12
L=122.50m
D－4
L=122.30m
D－4号土坑跡　セクション
1　黒褐色土　○○　As-C５％、Hr-FP・炭化物・焼土粒１％
2　黒褐色土　○○　As-C・黒色土ブロック５％、焼土粒１％
D－13
D－14
L=122.50m
D－13号土坑跡　セクション
1　灰色土　○○　黒色土ブロック15%、As-C・暗褐色土ブロック５％、焼土ブロック・焼土粒３％
D－14
D－13
L=123.50m
I
VI
VII
VIII
IX
X
D－14号土坑跡　セクション
1　暗褐色土　○△　B混土。As-C３％、焼土粒１％
0
1：60
2m

Fig.20　土坑（1）

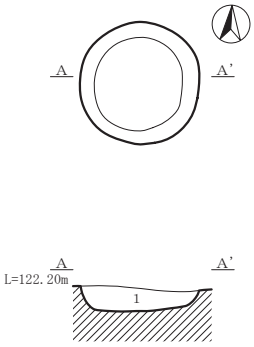
D-10・11



D-10号土坑跡　セクション
1　黒褐色土　○○　As-C５%、灰白シルトブロック１%
2　黒褐色土　○○　灰白シルトブロック３%、As-C１%

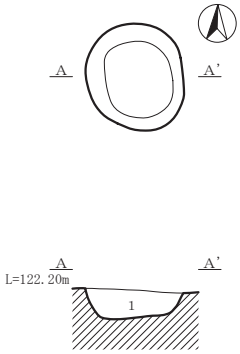
D-11号土坑跡　セクション
1　暗灰黄色土　○○　白色粒子３%、As-C１%
2　暗灰黄色土　○○　黄褐色シルトブロック・灰白色シルトブロック３%
3　灰黄色土　○○　地山。

D-15



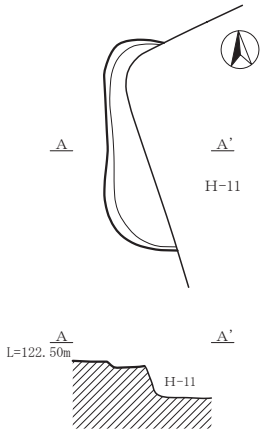
D-15号土坑跡　セクション
1　暗褐色土　△△　B混土。黄褐色シルトブロック10%、As-C３%

D-16

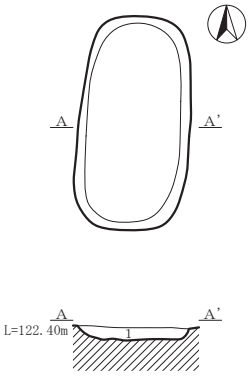


D-16号土坑跡　セクション
1　黒褐色土　○○　As-C７%、黄褐色シルトブロック５%

D-17

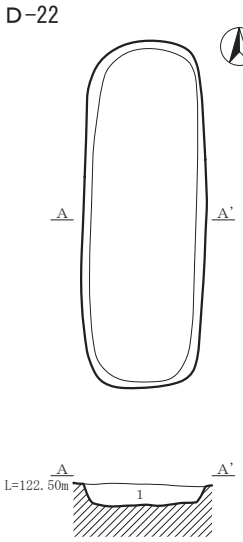


D-18



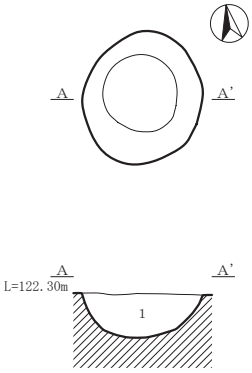
D-18号土坑跡　セクション
1　暗褐色土　△△　B混土。暗褐灰色粘質土ブロック３%、As-C１%

D-22



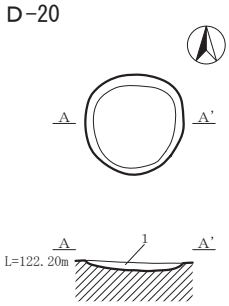
D-22号土坑跡　セクション
1　暗褐色土　○△　B混土。褐灰色粘質土10%、As-C７%

D-19



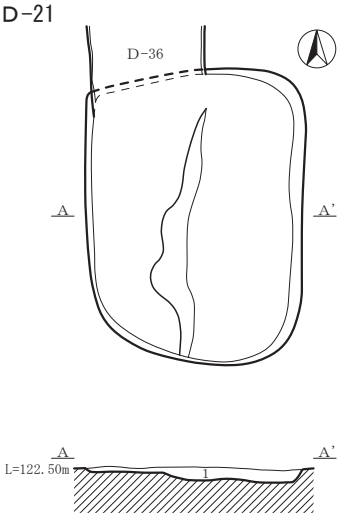
D-19号土坑跡　セクション
1　黒褐色土　○○　As-C10%、黄褐色シルトブロック２%、Hr-FP１%

D-20



D-20号土坑跡　セクション
1　暗褐色土　××　B混土。As-C・黄褐色シルトブロック３%

D-21

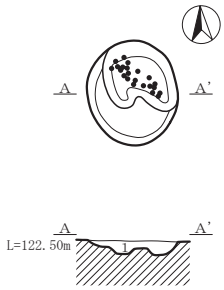


D-21号土坑跡　セクション
1　暗褐色土　○△　B混土。As-C７%、褐灰色粘質土ブロック５%

0　1：60　2m

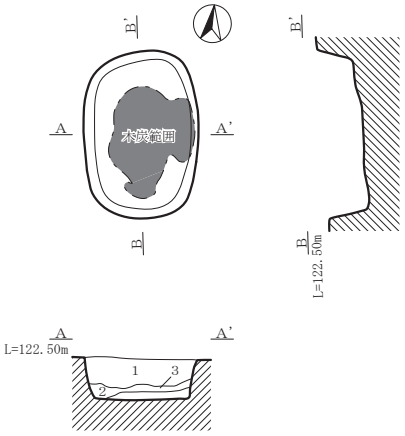
Fig.21　土坑（2）

D-23



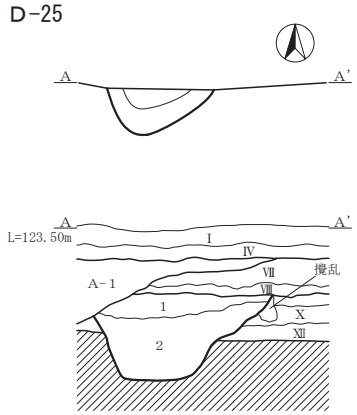
D-23号土坑跡　セクション
1　にぶい黄褐色土　○△　B混土。黒褐色土ブロック５％、As-C３％

D-24



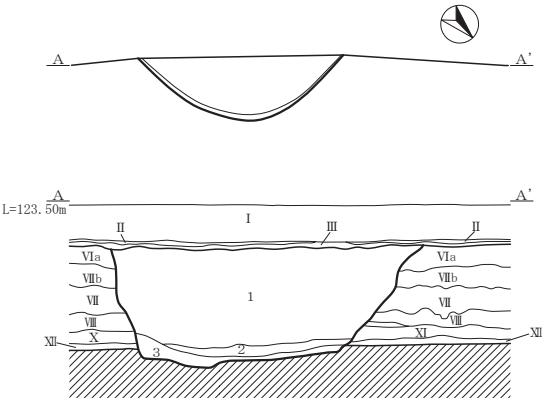
D-24号土坑跡　セクション
1　暗褐色土　○○　As-C15％、褐灰色粘質土ブロック３％
2　黒褐色土　○○　As-C５％、焼土ブロック・焼土粒３％、炭化物２％
3　２層ベース。炭化物主体層。

D-25



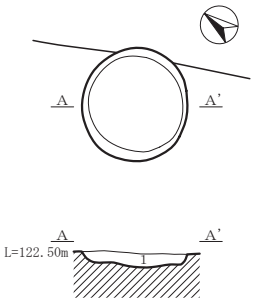
D-25号土坑跡　セクション
1　黒色土　○○　As-C５％、褐灰色粘質土ブロック３％、黄褐色シルトブロック１％
2　黒褐色土　○○　As-C15％、褐灰粘質土ブロック３％、黄褐色シルトブロック２％

D-26



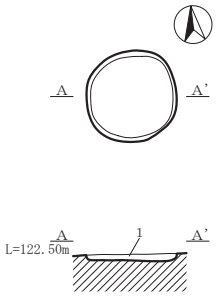
D-26号土坑跡　セクション
1　黒褐色土　○○　鉄斑発達。As-C２％、小礫１％
2　黒褐色土　○◎　鉄斑発達。
3　黒褐色土　○○　鉄斑発達。As-C２％

D-27



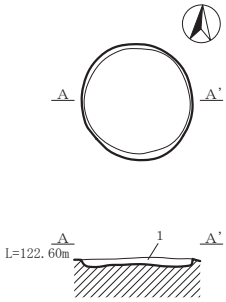
D-27号土坑跡　セクション
1　黒褐色土　△△　B混土。As-C10％

D-28



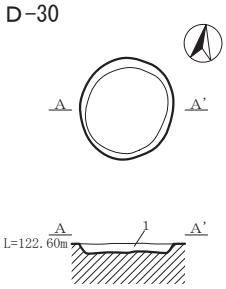
D-28号土坑跡　セクション
1　暗灰黄色土　○○　As-C７％

D-29



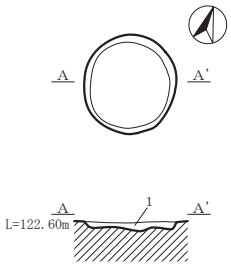
D-29号土坑跡　セクション
1　暗褐色土　△△　B混土。As-C１％

D-30



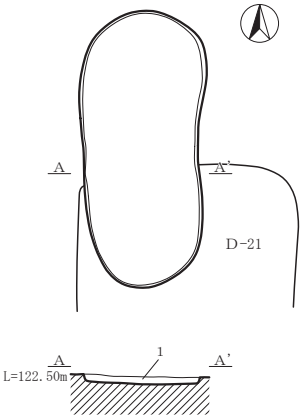
D-30号土坑跡　セクション
1　暗褐色土　△△　B混土。As-C１％

D-31



D-31号土坑跡　セクション
1　暗褐色土　△△　B混土。As-C１％

D-36



D-36号土坑跡　セクション
1　暗褐色土　○△　B混土。As-C10％、暗褐灰色土ブロック５％

0　1：60　2m

Fig.22　土坑（3）

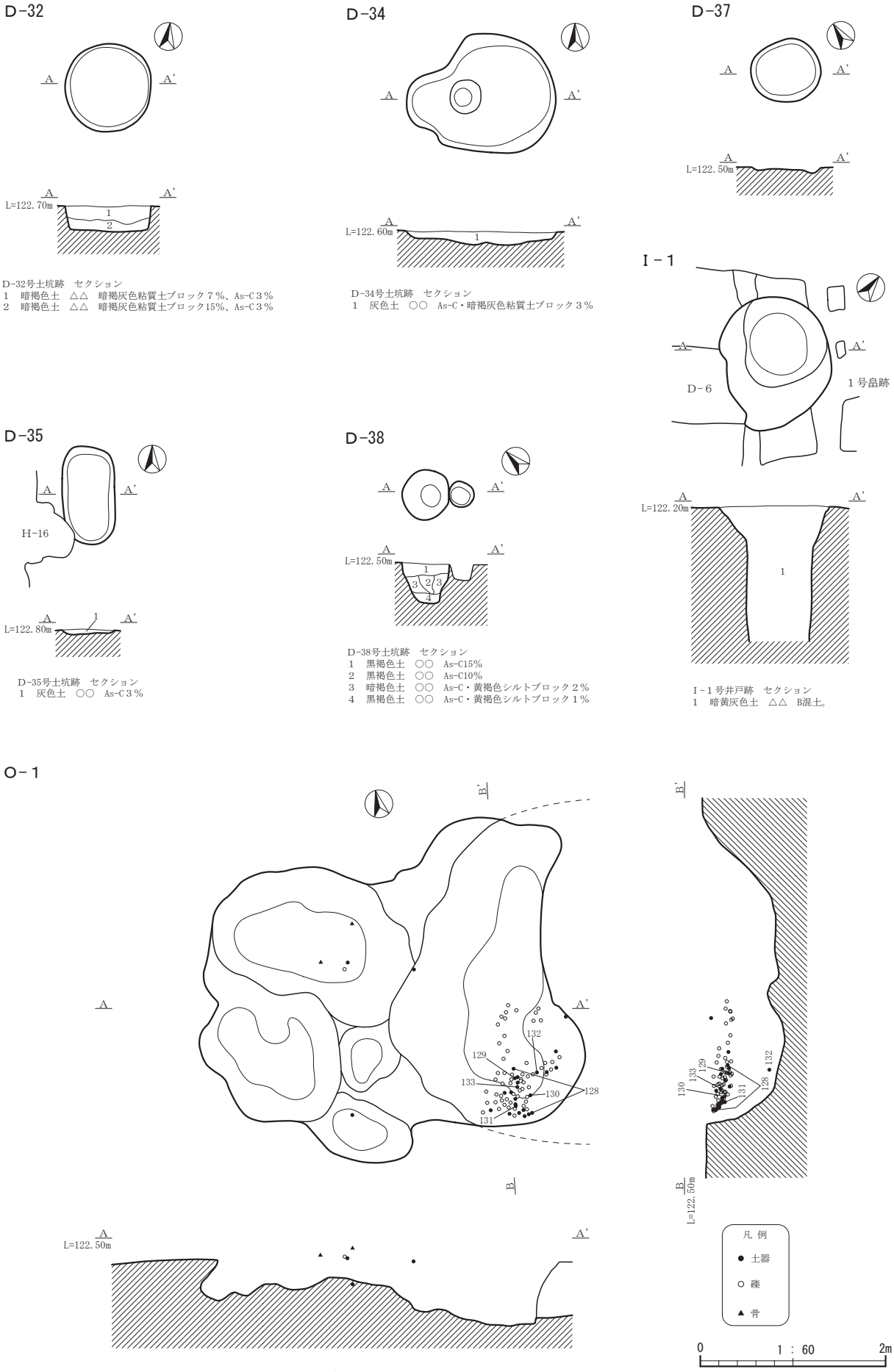
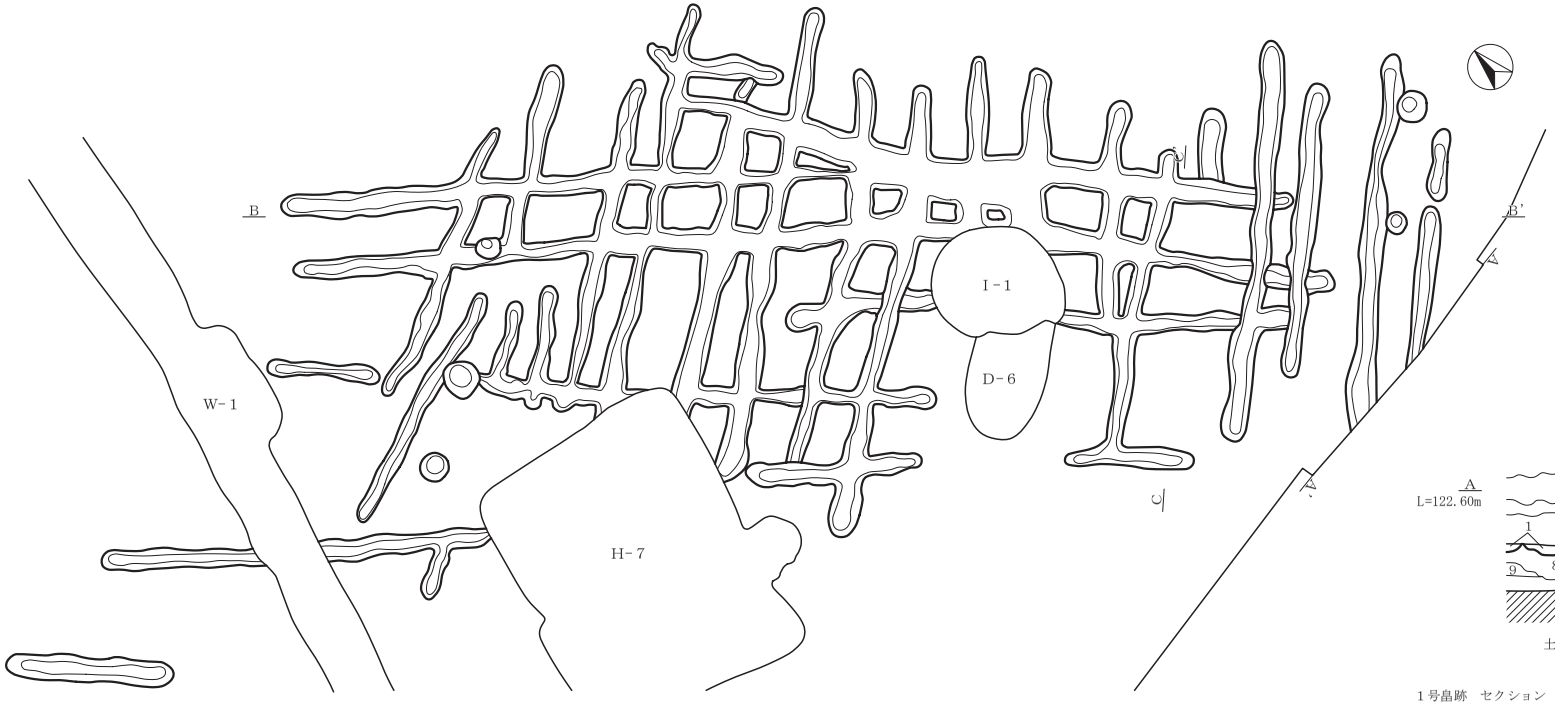
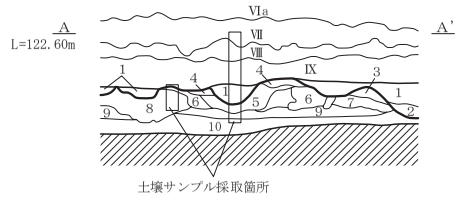


Fig.23　土坑（4）、Ｉ－１号井戸跡、Ｏ－１号風倒木痕

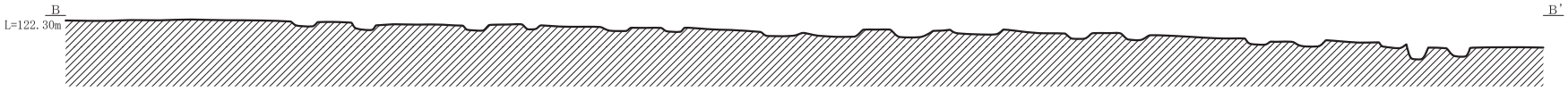


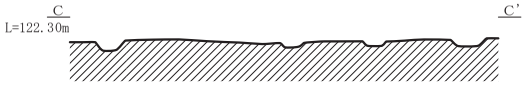


1号畠跡　セクション

1	黒褐色土	○○	As-C５％、にぶい黄褐色シルトブロック・褐灰シルトブロック１％
2	黒褐色土	○○	As-C３％
3	黒褐色土	○○	黒色粘質土ブロック５％、As-C３％
4	黒褐色土	○○	As-C・にぶい黄褐色シルトブロック５％
5	黒褐色土	○○	As-C10％
6	黒色土	○○	As-C20％
7	５層近似。		As-C７％、褐灰シルトブロック２％
8	黒色土		As-C20％
9	黒色土	◎◎	白色微粒子２％
10	黒褐色土	○○	白色微粒子・橙褐色粒２％

0　1：80　2m

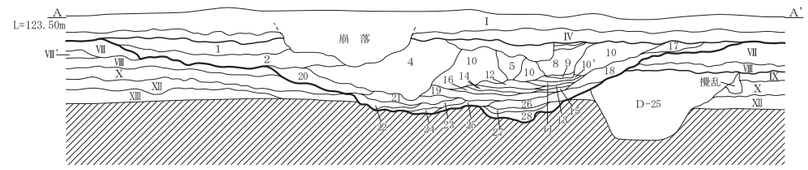




0　1：60　2m

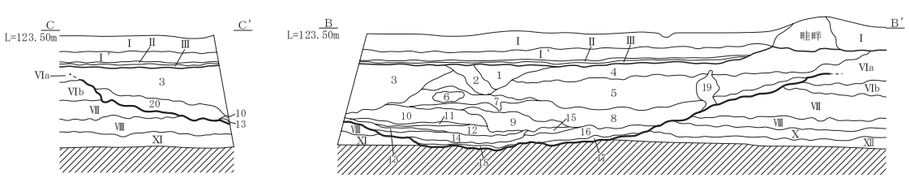
Fig.24　1号畠跡

A－1



A－1号道路状遺構　セクションA

1	黒褐色土	△○	B混土。As-C３％
2	１層近似。		色調やや明るい。
3	暗褐色土	○○	B混土。As-C３％、Hr-FP１％
4	黒褐色土	○○	B混土。As-C・Hr-FP２％、炭化物・焼土粒１％
5	黒褐色土	○○	As-C・焼土粒１％
6	暗褐色	○○	砂質。As-C１％
7	暗褐色	△△	砂質。As-C１％
8	６層近似。		鉄斑やや発達。
9	黒褐色土	△△	砂質。As-C１％
10	黒褐色土	◎○	As-C３％、焼土ブロック１％
10'	暗褐色	◎△	砂質　As-C３％
11	暗褐色	◎×	砂質。As-C３％
12	黒褐色土	◎△	砂質。
13	黒褐色土	△×	砂層。
14	暗褐色土	○○	砂質。
15	暗褐色土	○×	砂層。
16	15層近似。		
17	暗褐色土	○○	B混土。焼土粒１％
18	暗褐色土	○○	B混土。As-C２％
19	15層近似。		
20	黒褐色土	△○	B混土。砂質。
21	暗褐色土	△×	B混土、砂質、鉄斑やや発達。As-C１％
22	暗褐色土	◎△	砂層、鉄斑が発達。白色微粒子３％
23	黒褐色土	◎△	砂層。黄褐色シルトブロック１％
24	暗褐色土	××	粗粒の砂層。
25	暗褐色土	△×	砂質。鉄斑が発達。
26	暗褐色土	◎△	B混土。鉄斑が発達。As-C３％
27	暗褐色土	◎△	砂質。
28	黒褐色土	◎○	白色微粒子20%、橙褐色粒子15%



A－１号道路状遺構　セクションB・C

1	暗褐色土	○○	As-B・As-C５％、小礫５％
2	１層近似。		１層より色調明るい。
3	暗褐色土	○○	As-B５％、As-C２％、Hr-FP１％
4	暗褐色土	○○	Ⅵ層に近似。As-B10%、As-C３％、炭化物・焼土粒１％
5	４層近似。		As-B７％、As-C・焼土粒２％、炭化物１％
6	暗褐色土	△×	砂層。
7	黒褐色土	○○	砂質。　As-B５％、As-C２％
8	５層近似。		
9	黒褐色土	○○	砂質。As-B・As-C７％、小礫・炭化物・焼土粒１％
10	黒褐色土	○○	細砂・粗砂互層状。As-B10%、As-C３％
11	暗褐色土	○○	細砂。As-B・As-C３％
12	暗褐色土	○○	細砂、粗砂不均質に混じる。As-B・As-C３％
13	黒褐色土	○○	細砂・粗砂互層状。
14	黒褐色土	○○	細砂・粗砂不均質に混ざる。
15	黒褐色土	△△	As-B・As-C２％、小礫２％
16	黒褐色土	○○	As-B５％、As-C２％
17	黒褐色土	○○	As-B・As-C・焼土粒・橙褐色粒１％
18	暗褐色土	◎◎	Ⅶ層に近似。
19	５層・８層混土、植生等のカクランか。		
20	注記漏れ		

0　1：80　2m
（平面）

0　1：60　2m
（断面）

Fig.25　A－１号道路状遺構

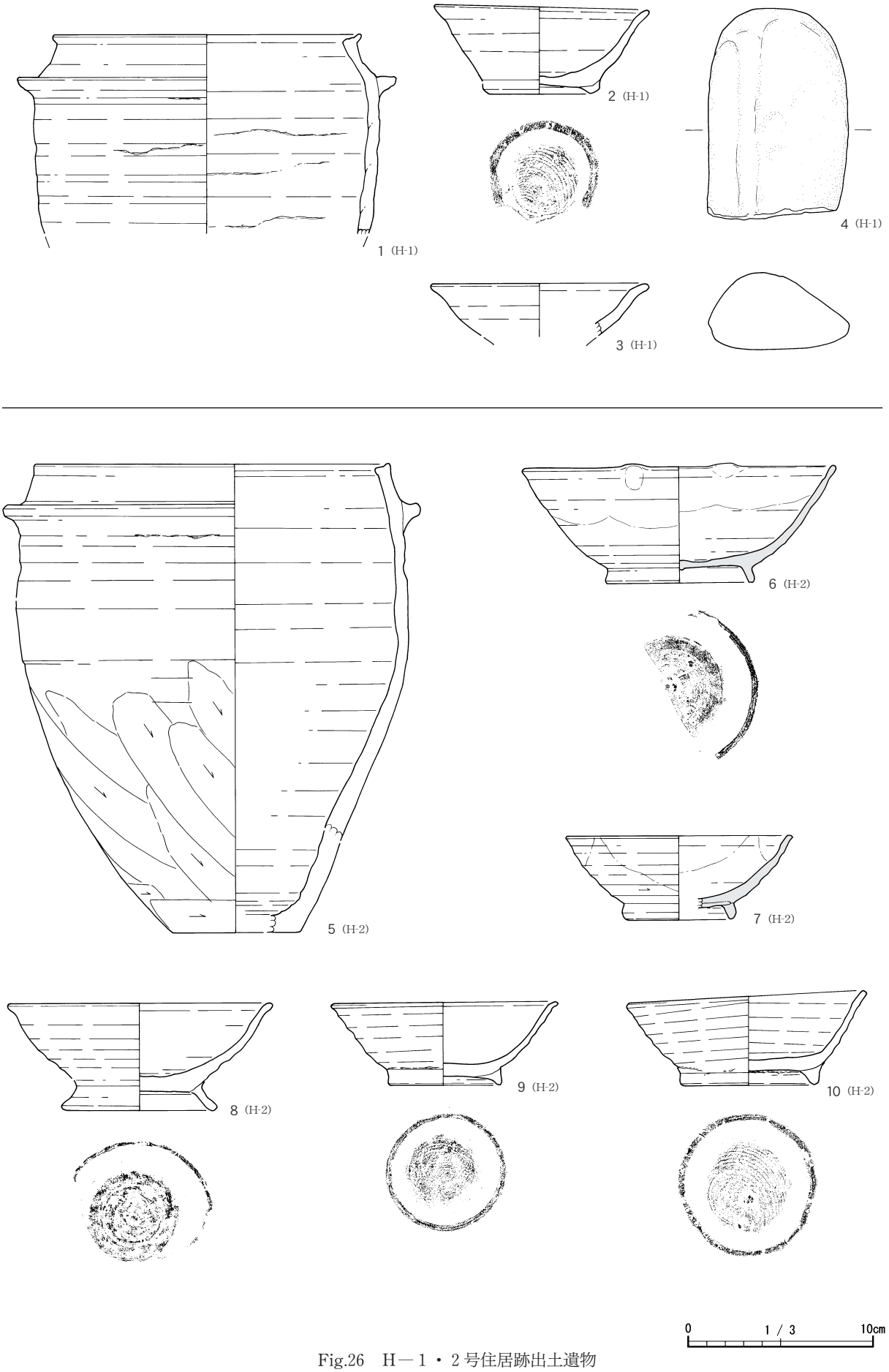


Fig.26　H－1・2号住居跡出土遺物

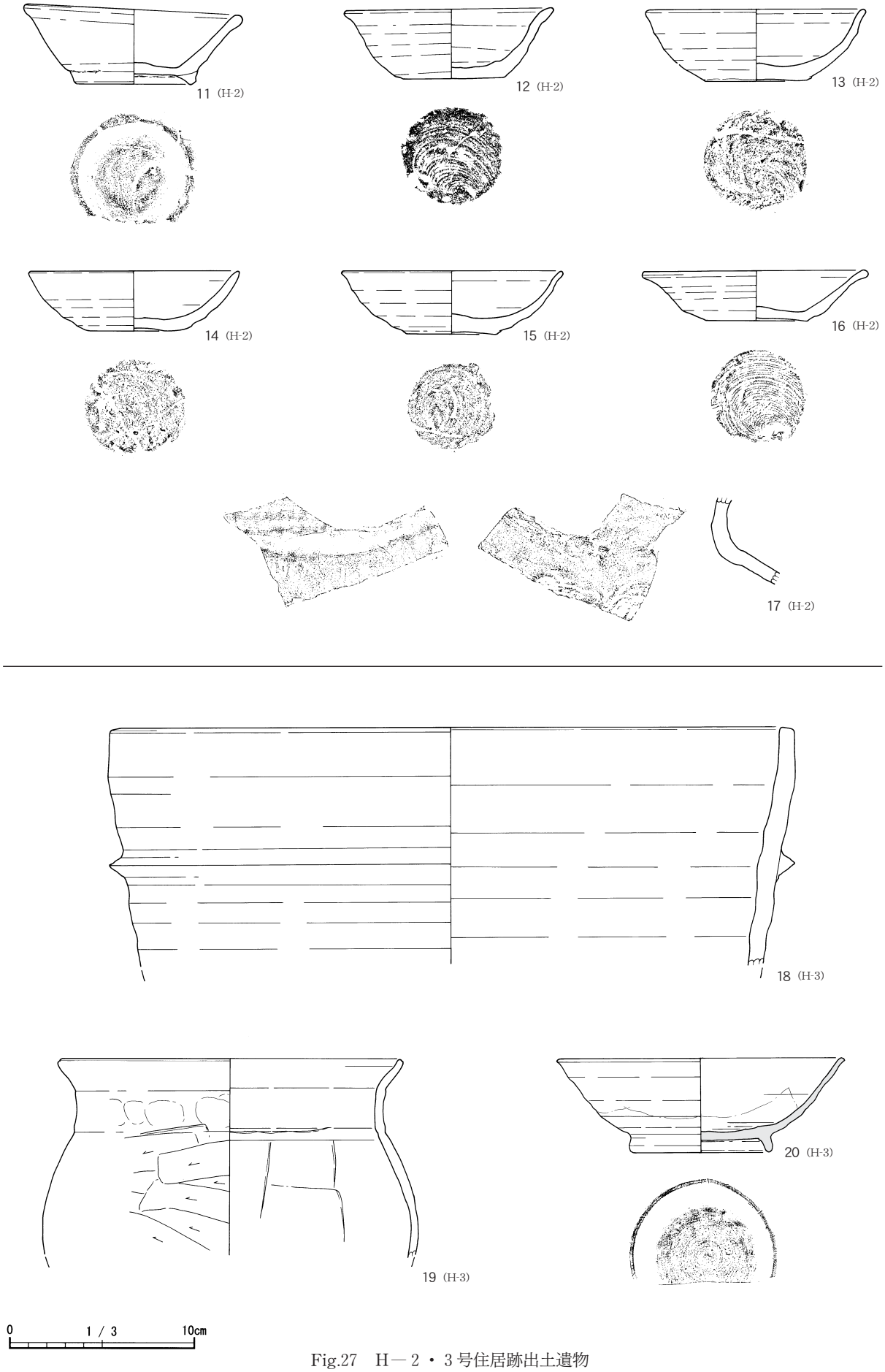


Fig.27　H－2・3号住居跡出土遺物

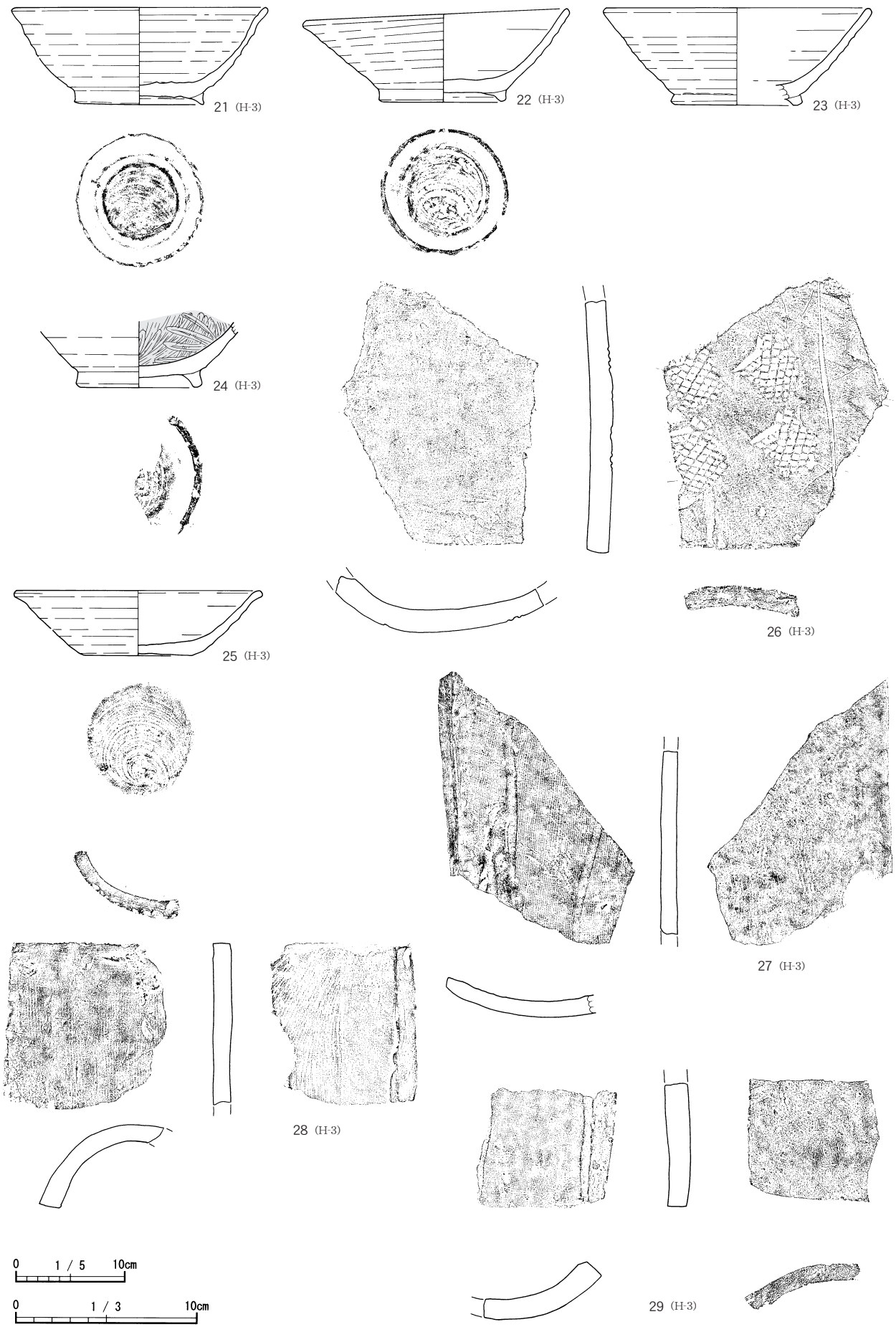


Fig.28　H－3号住居跡出土遺物

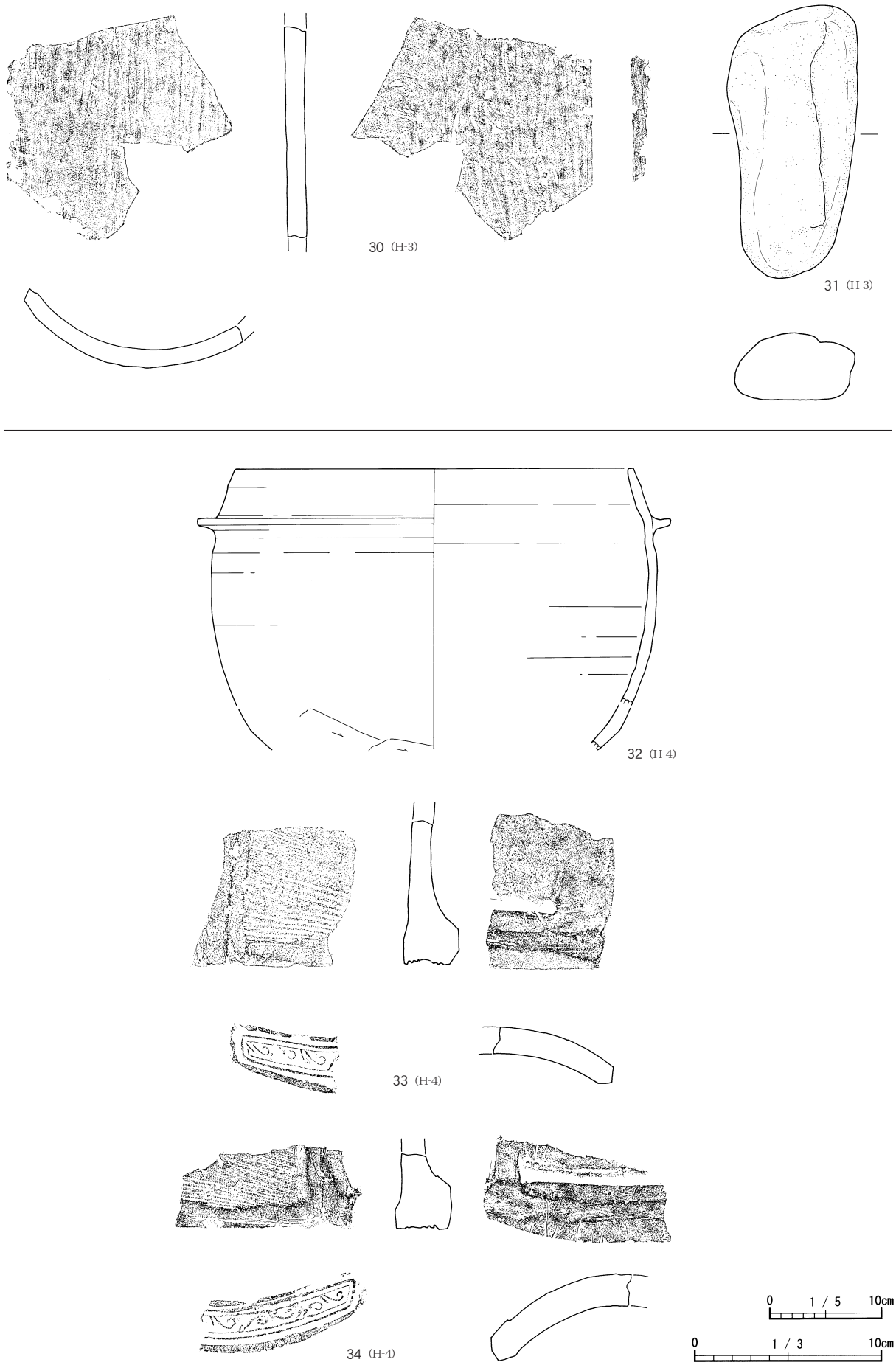


Fig.29　H－3・4号住居跡出土遺物

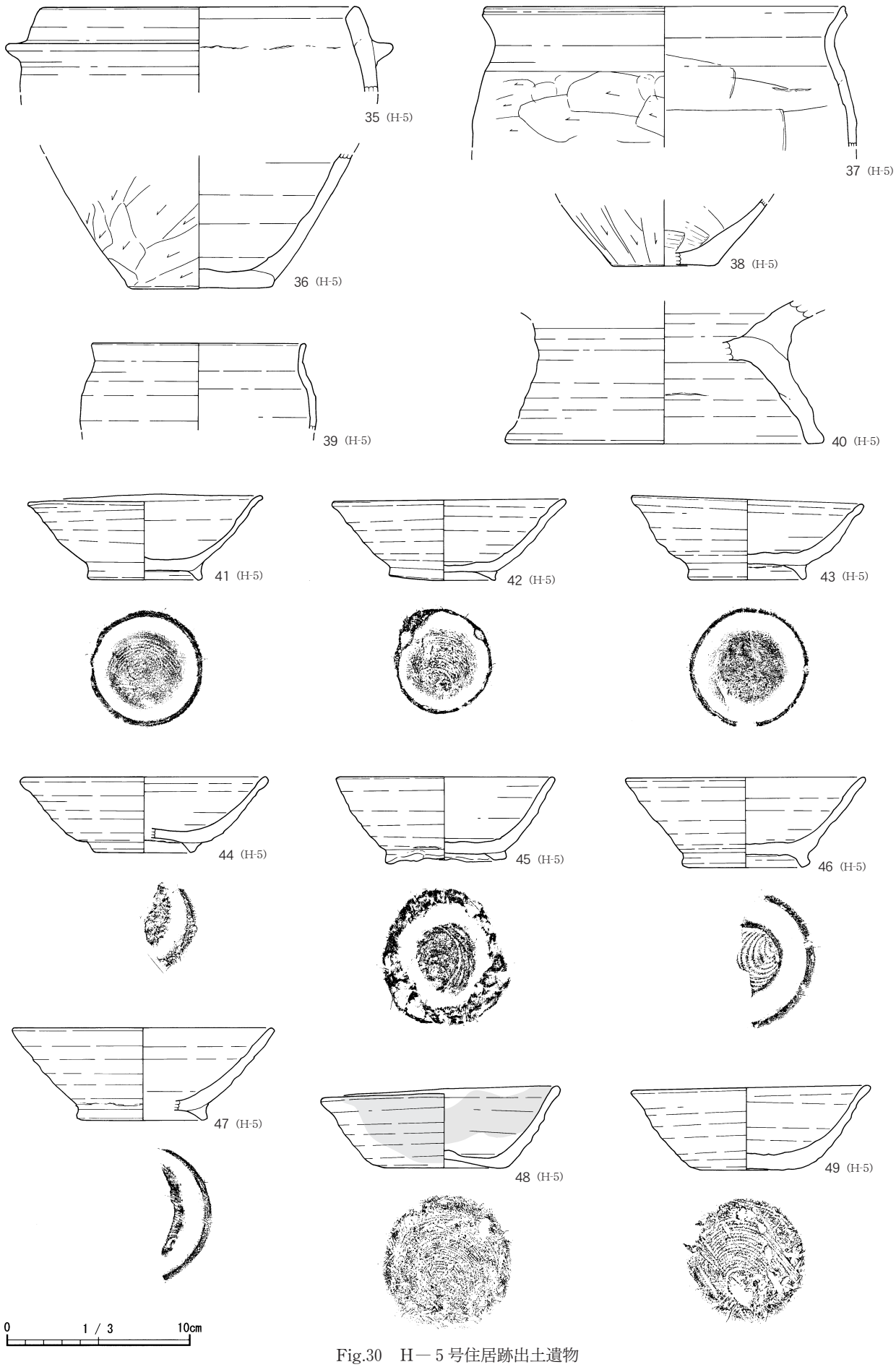


Fig.30　H― 5 号住居跡出土遺物

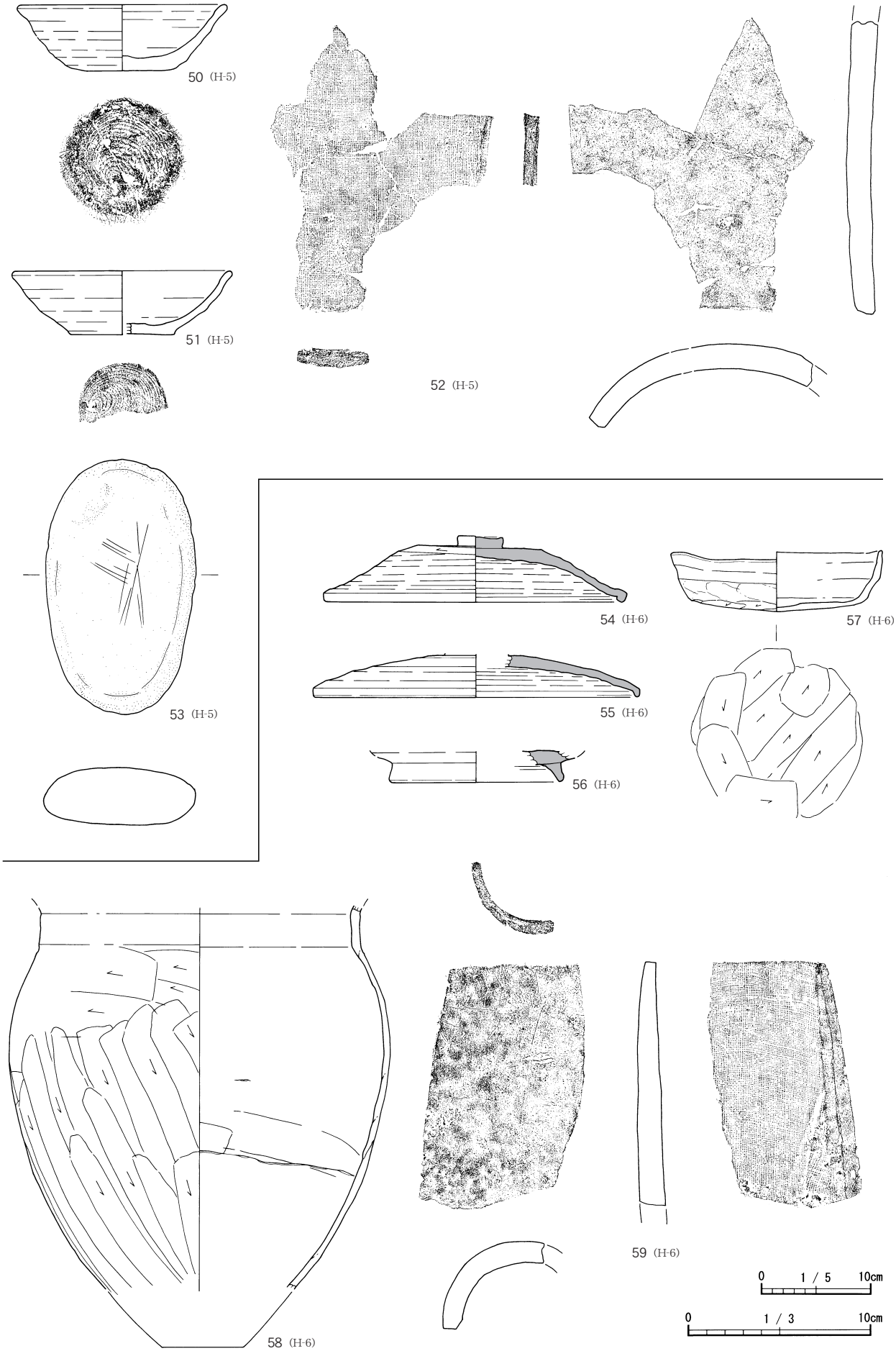


Fig.31　H－5・6号住居跡出土遺物

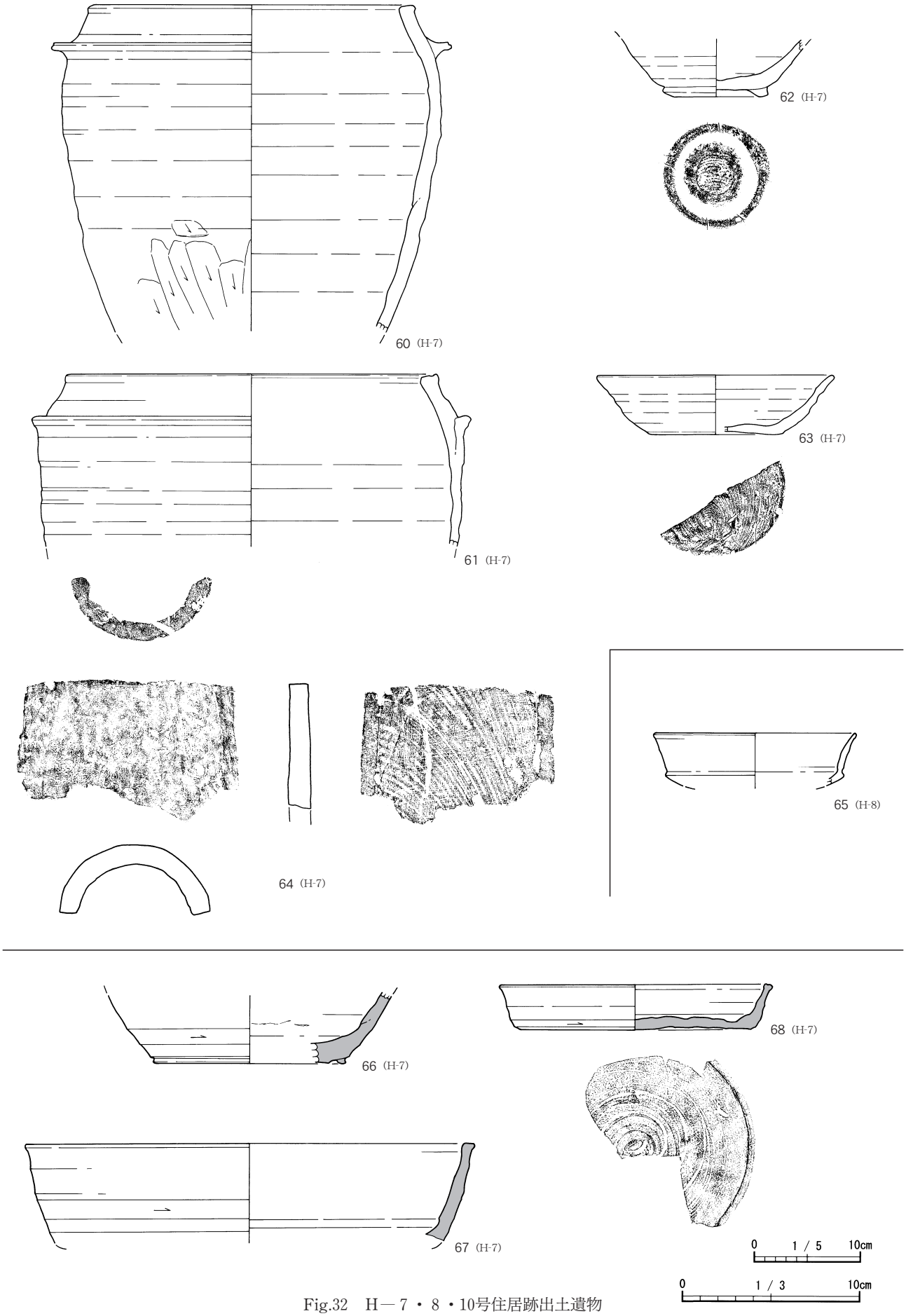


Fig.32　H－7・8・10号住居跡出土遺物

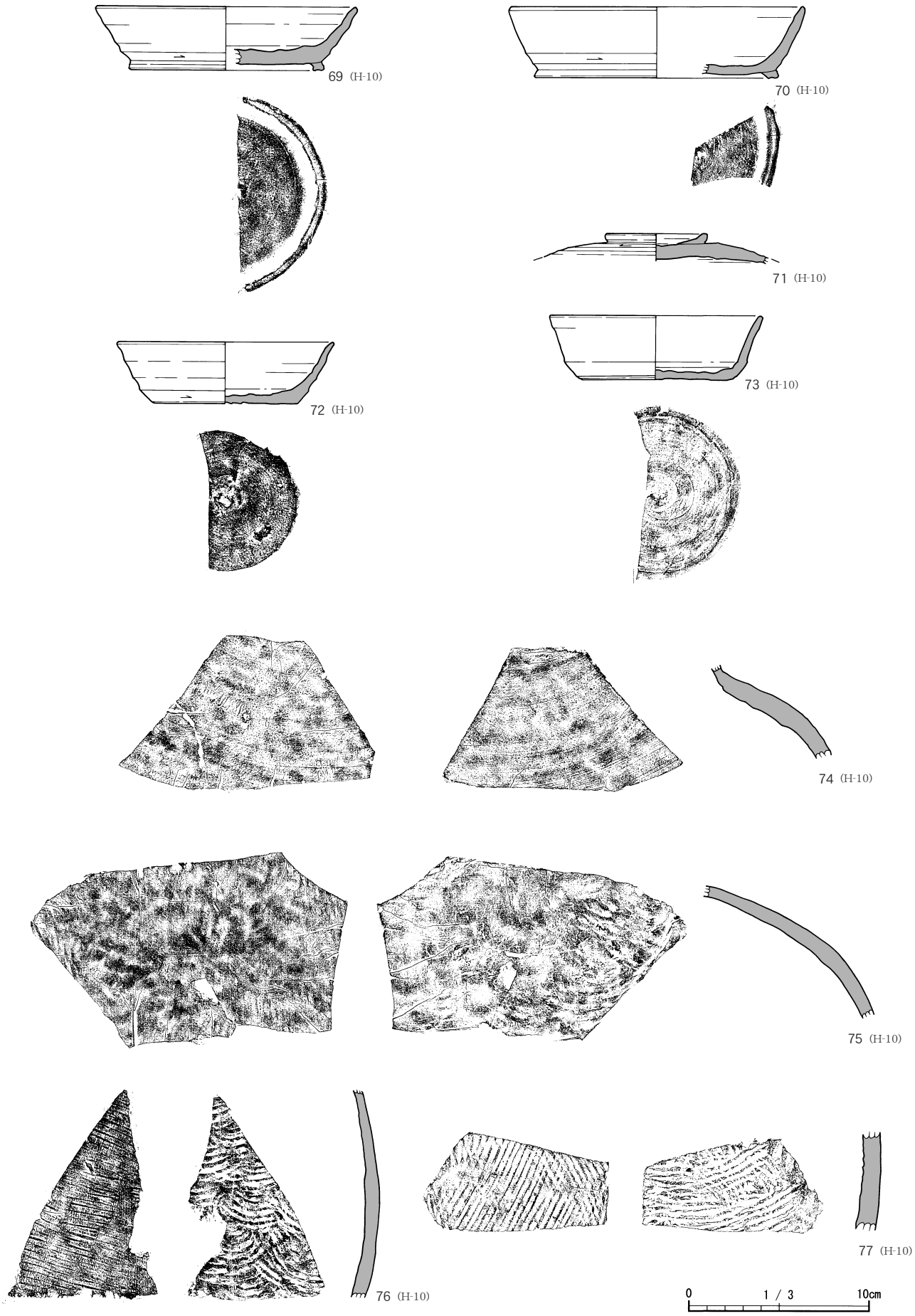


Fig.33　H―10号住居跡出土遺物

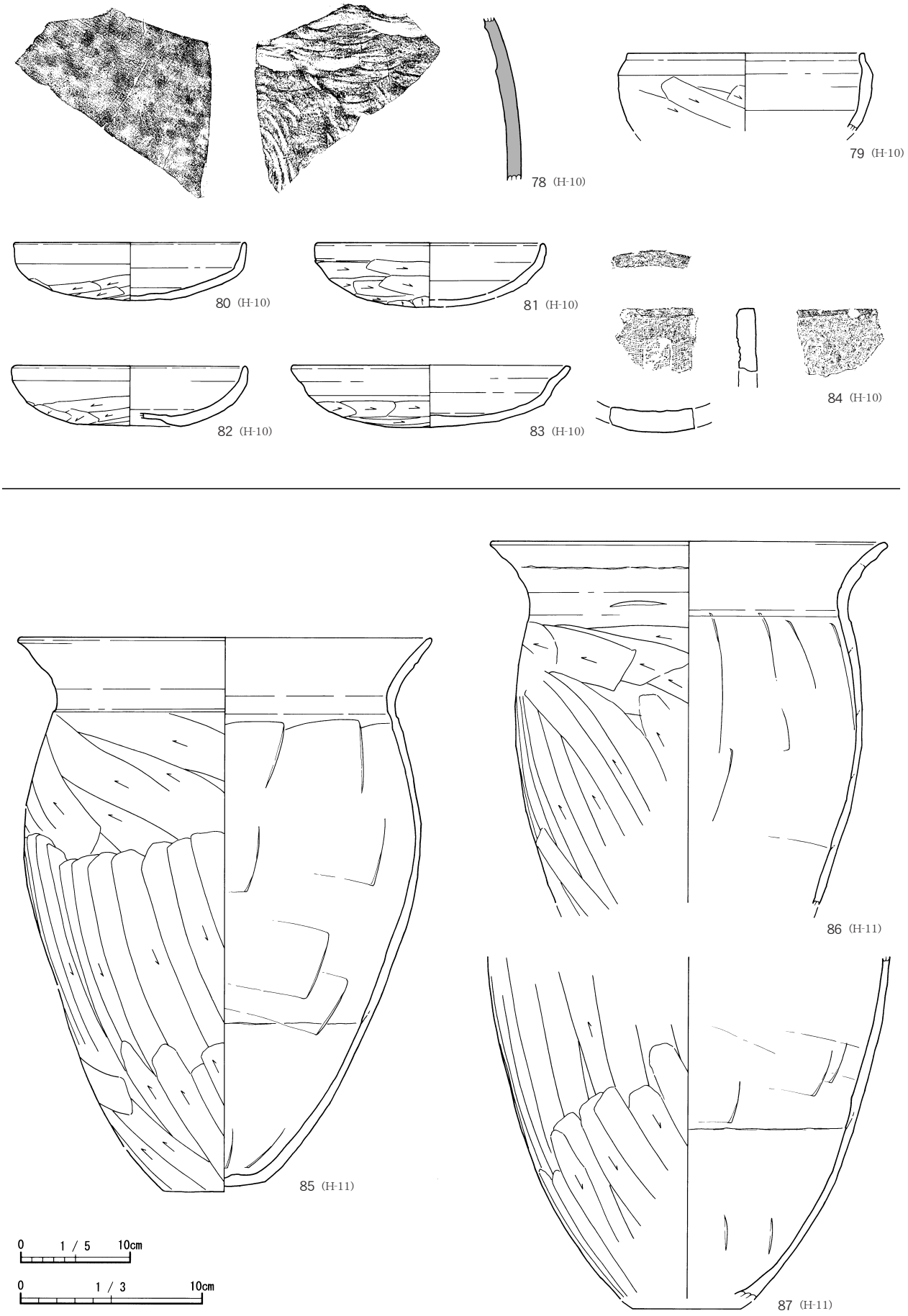


Fig.34　H―10・11号住居跡出土遺物

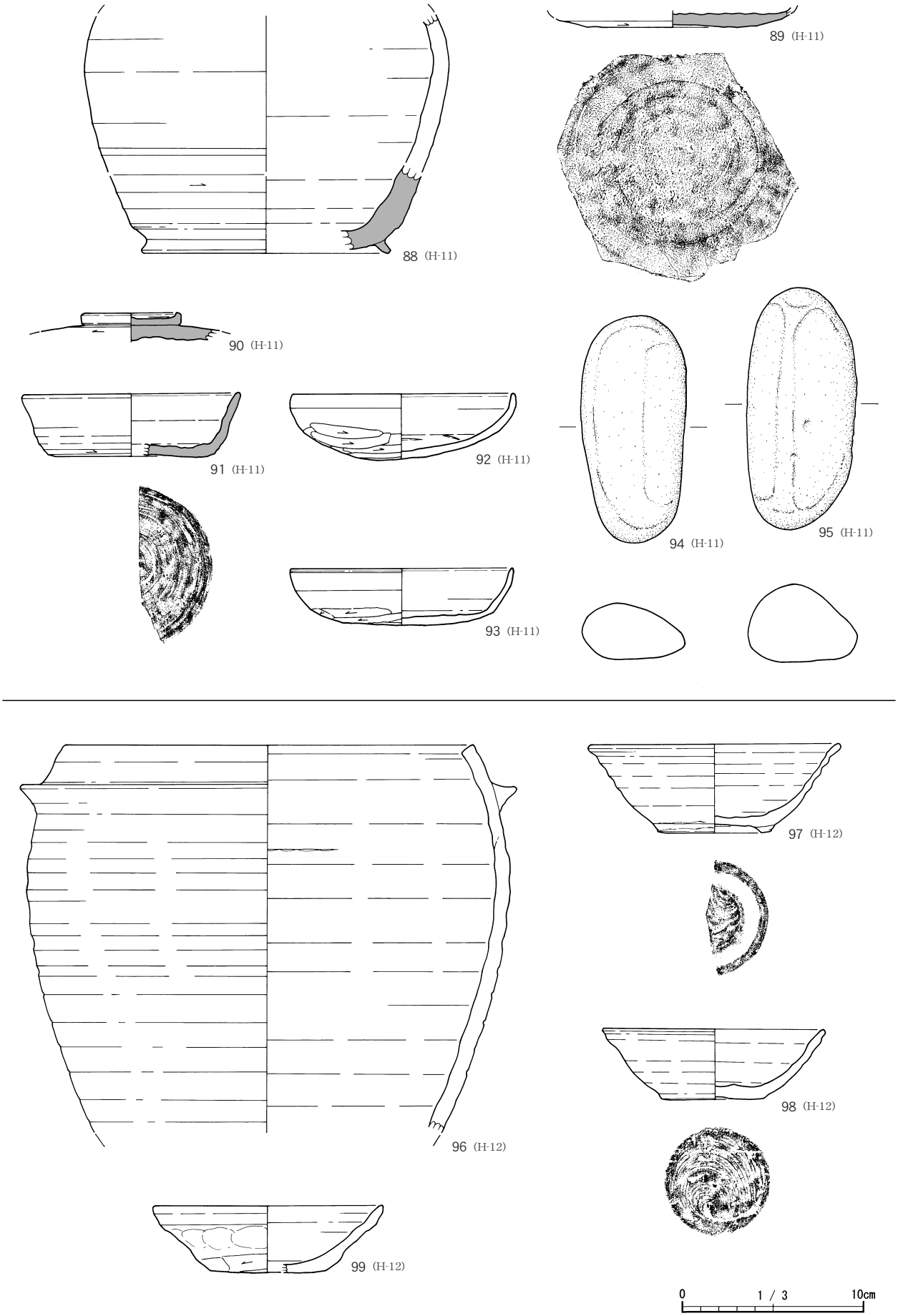


Fig.35　H―11・12号住居跡出土遺物

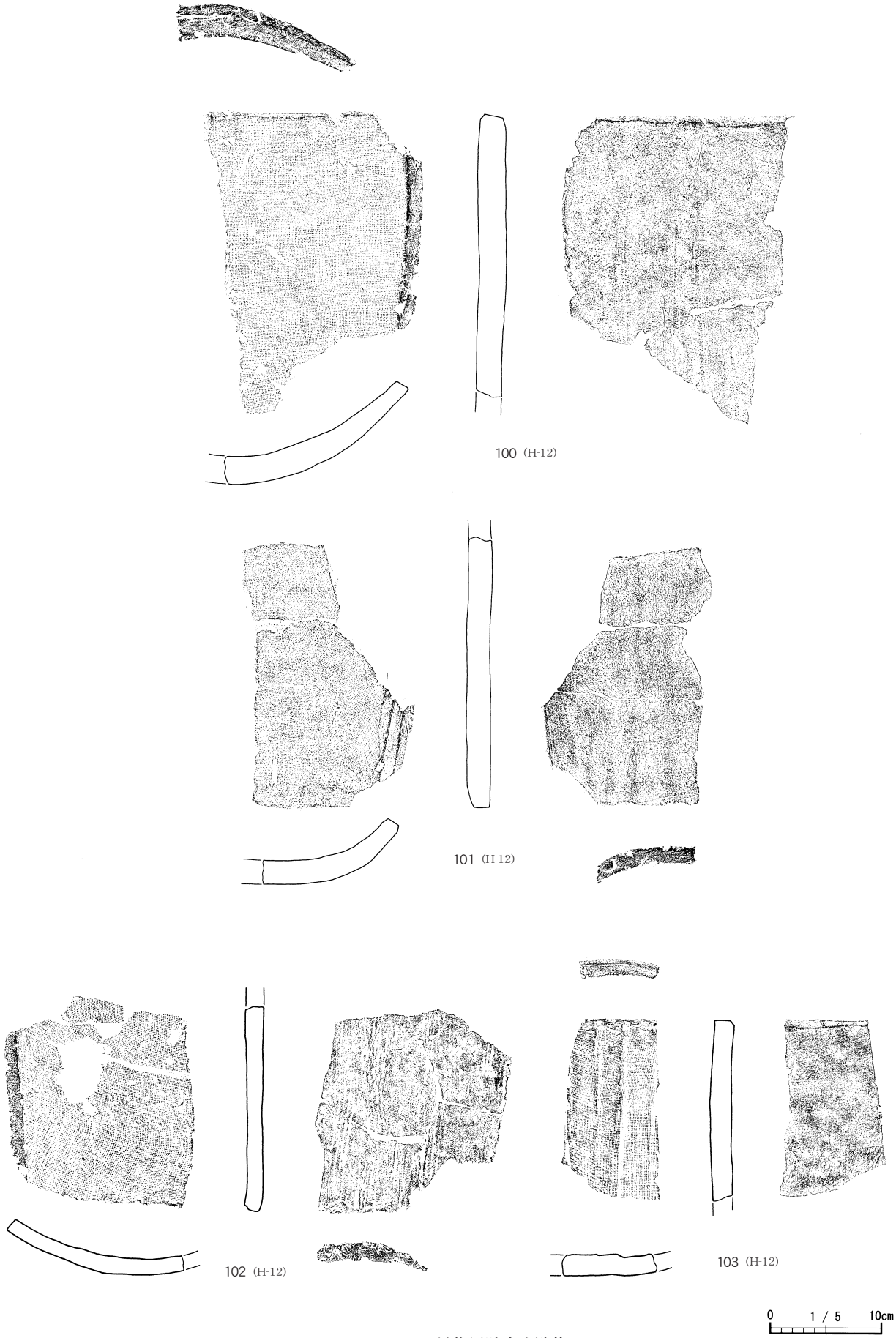


Fig.36　H—12号住居跡出土遺物

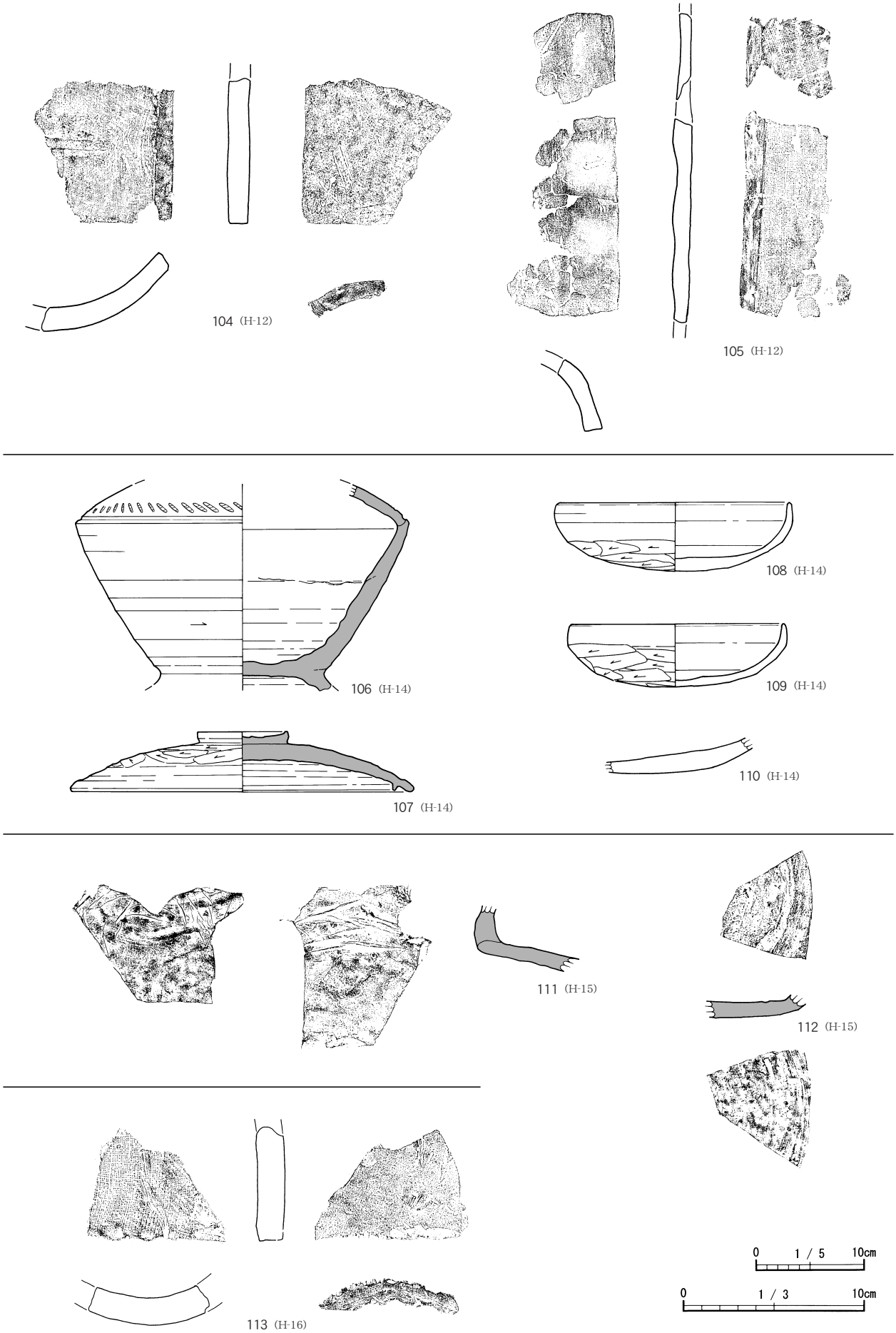


Fig.37　H―12・14・15・16号住居跡出土遺物

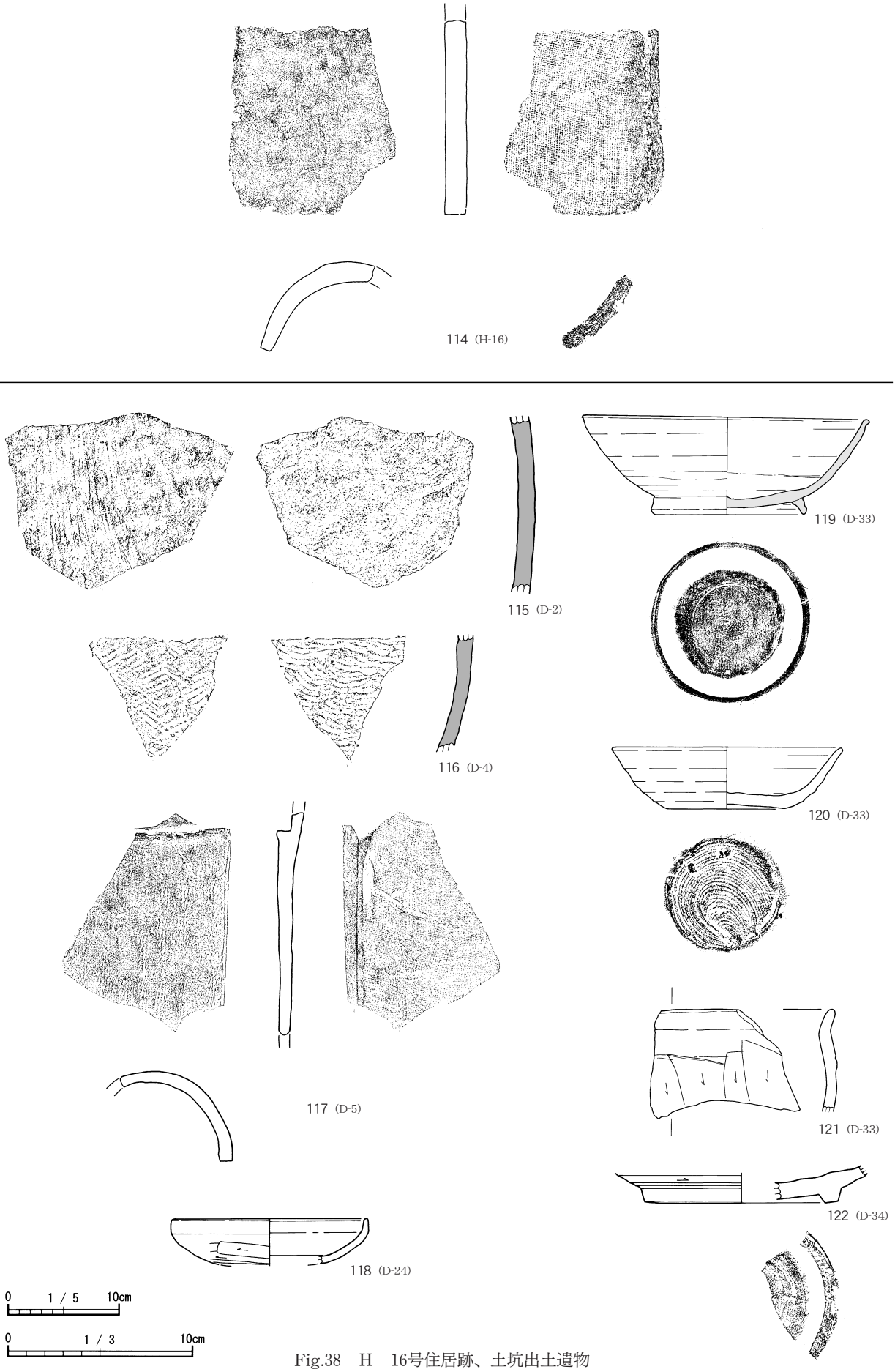


Fig.38　H―16号住居跡、土坑出土遺物

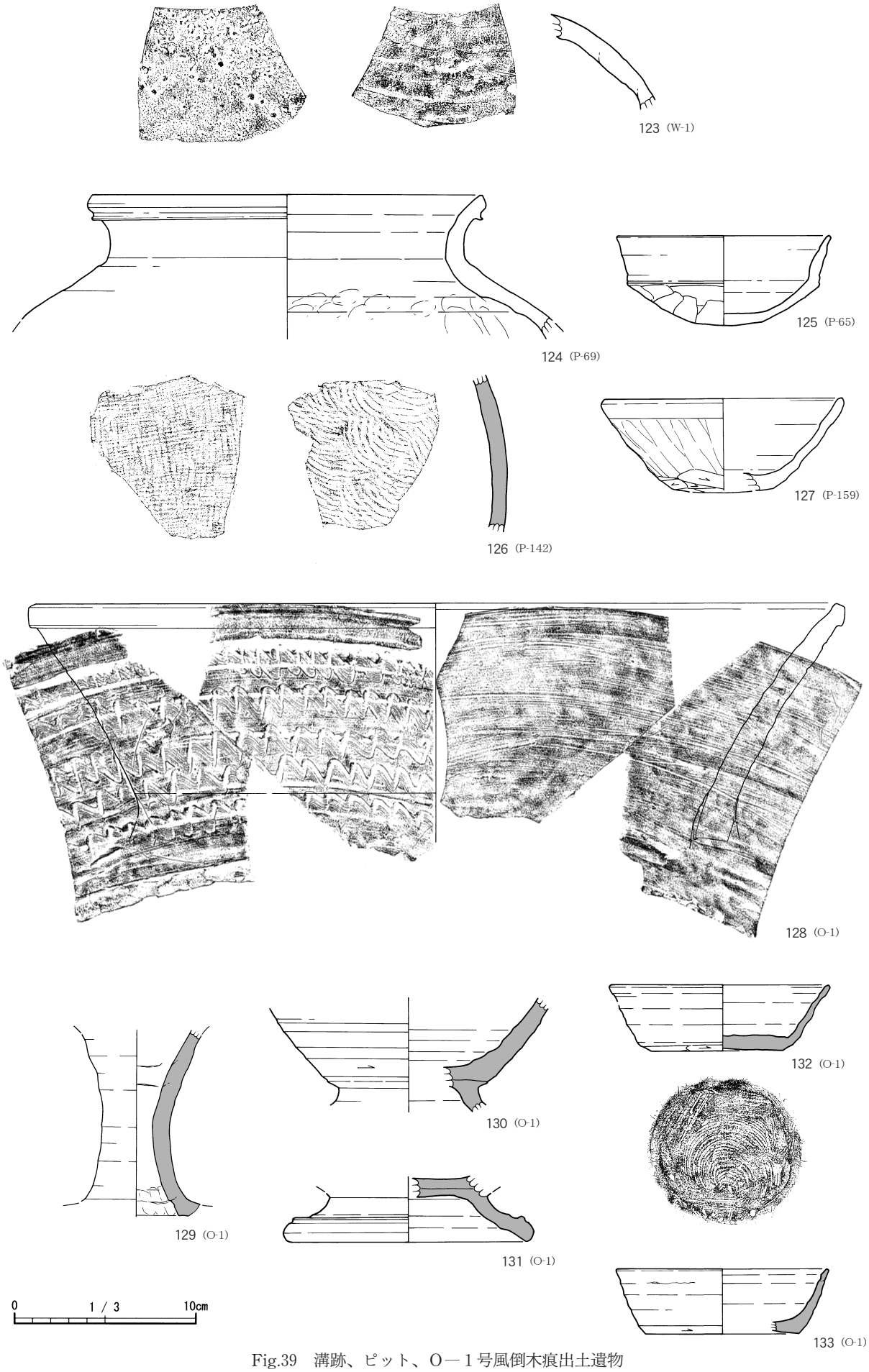


Fig.39　溝跡、ピット、O－1号風倒木痕出土遺物

図　　版

元総社蒼海遺跡群（16）調査区全景（北東から）

Ｈ－１号住居跡全景（西から）

Ｈ－２号住居跡全景（西から）

Ｈ－２号住居跡竈全景（西から）

Ｈ－３号住居跡全景（西から）

Ｈ－３号住居跡竈全景（西から）

Ｈ－４号住居跡全景（北西から）

Ｈ－８号住居跡全景（西から）

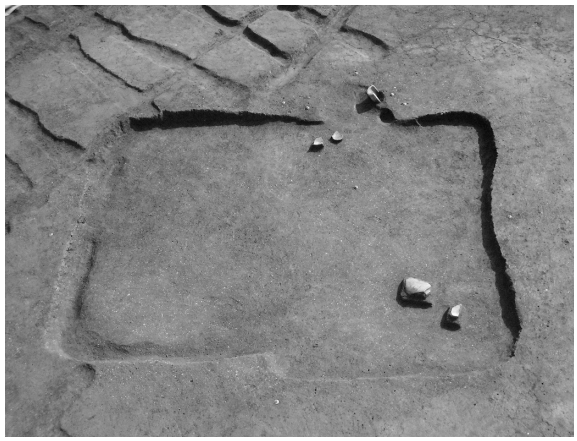
Ｈ－５号住居跡全景（西から）

Ｈ－５号住居跡遺物出土状態（西から）

Ｈ－５号住居跡竈全景（西から）

Ｈ－６号住居跡全景（西から）

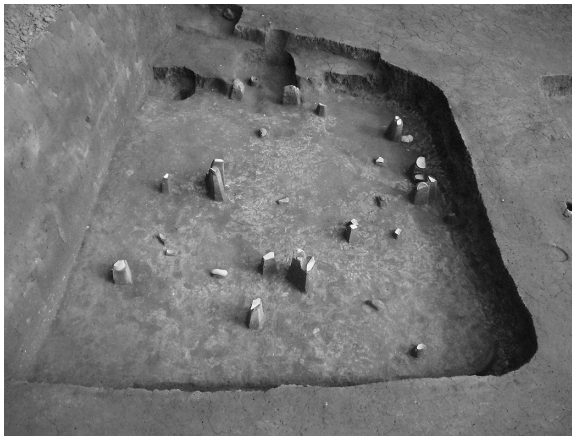
Ｈ－６号住居跡竈全景（西から）



Ｈ－７号住居跡全景（西から）

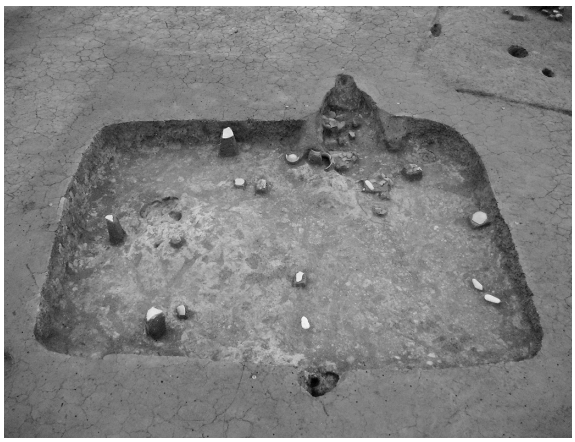
Ｈ－７号住居跡竈全景（西から）

Ｈ－９号住居跡全景（西から）



Ｈ－10号住居跡全景（西から）

Ｈ－10号住居跡竈全景（西から）



Ｈ－11号住居跡全景（西から）

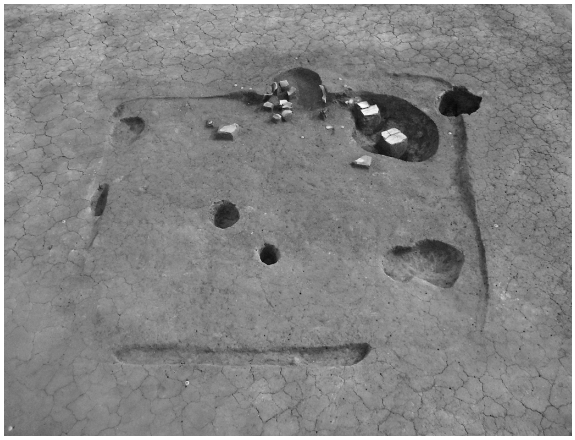
Ｈ－11号住居跡竈全景（西から）

Ｈ－13号住居跡全景（西から）

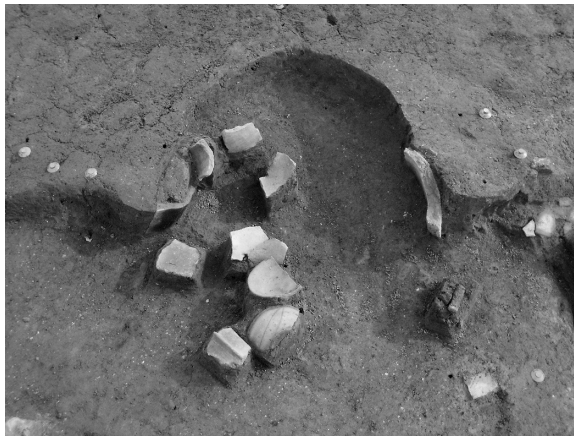
Ｈ－14号住居跡全景（西から）

Ｈ－10号住居跡竈全景（西から）

Ｈ－14号住居跡遺物出土状況（南から）



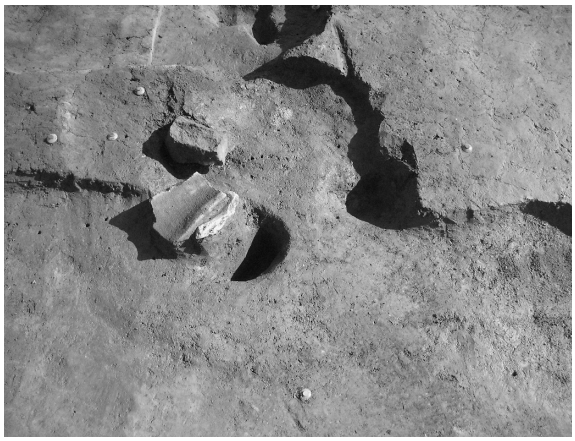
Ｈ－12号住居跡全景（西から）



Ｈ－12号住居跡竈全景（西から）

Ｈ－15号住居跡全景（西から）

Ｈ－16号住居跡全景（西から）

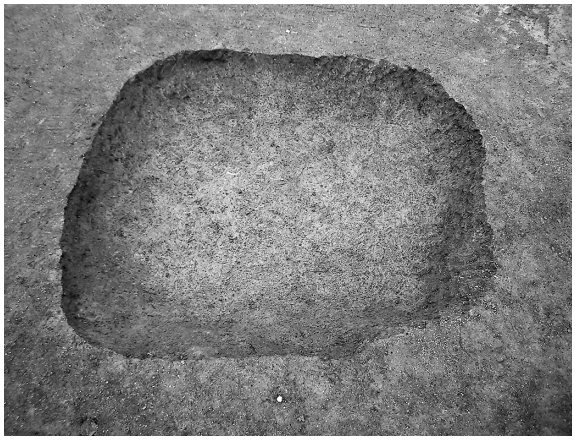


Ｈ－16号住居跡竈全景（西から）

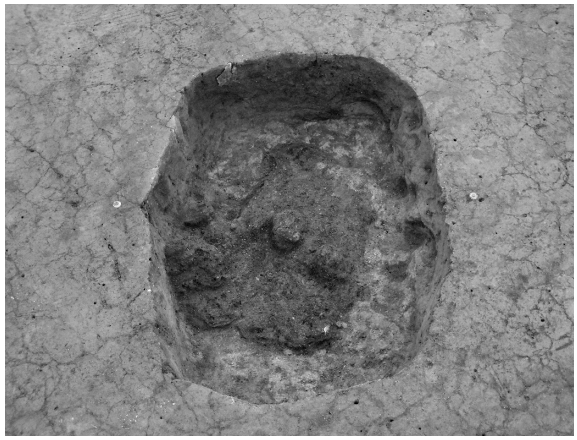
Ｗ－１号溝跡全景（北から）

Ｗ－２号溝跡全景（北西から）

Ｗ－３号溝跡全景（南から）



Ｄ－４号土坑全景（南西から）



Ｄ－24号土坑全景（北から）

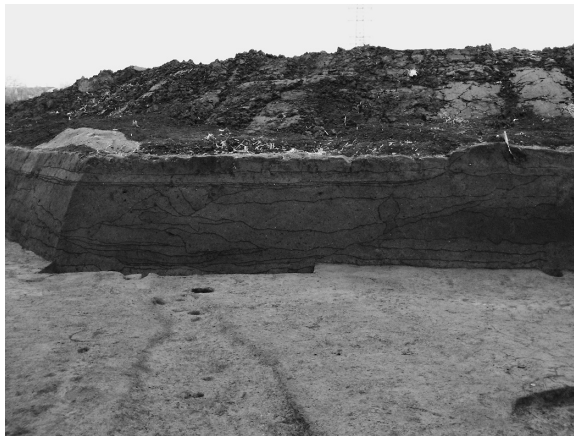
Ｉ－１号井戸跡全景（北から）

Ｏ－１号風倒木痕全景（東から）

１号畠跡作業風景（南東から）

１号畠跡土層断面ＡＡ’(北から)

Ａ－１号道路状遺構全景（北から）



Ａ－１号道路状遺構土層断面ＢＢ’(北から)

1（H－1）
2（H－1）
10（H－2）
6（H－2）
11（H－2）
5（H－2）
7（H－2）
12（H－2）
9（H－2）
16（H－2）
20（H－3）
21（H－3）
22（H－3）
25（H－3）
33－凹
29（H－3）
32（H－4）
33（H－4）－瓦当
40（H－5）
42（H－5）
41（H－5）
43（H－5）
33－凸

34（H－4）－凹

34（H－4）－瓦当

34（H－4）－凸

58（H－6）

60（H－7）

83（H－10）

45（H－5）

48（H－5）

51（H－5）

54（H－6）

55（H－6）

57（H－6）

63（H－7）

71（H－10）

73（H－10）

81（H－10）

84（H－10）

46（H－5）

49（H－5）

53（H－5）

68（H－10）

69（H－10）

72（H－10）

80（H－10）

86（H－11）

85（H－11）
90（H－11）
92（H－11）
91（H－11）
93（H－11）
98（H－12）
104（H－12）
99（H－12）
96（H－12）
119（D－33）
107（H－14）
120（D－33）
109（H－14）
106（H－14）
122（D－34）
108（H－14）
123（W－1）
128（O－1）
129（O－1）
124（P－69）
132（O－1）
131（O－1）

報告書抄録

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン16
書名	元総社蒼海遺跡群（16）
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
編著者名	梅沢克典・櫻井和哉・パリノサーヴェイ株式会社
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団・技研測量設計株式会社
発行機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
発行機関所在地	〒371-0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2008年２月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
もとそうじゃ 元総社 おうみいせきぐん 蒼海遺跡群(16)	ぐんまけん 群馬県 まえばしし 前橋市 もとそうじゃまち 元総社町 1718、1719ばん番	10201	19Ａ130 -16	36°23′22″	139′01′51″	20070921 ～ 20080118	1,794㎡	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群（16）	集落跡 その他	奈良・平安 中世 近世	竪穴住居跡　16軒 溝　５条 井戸　１基 土坑　36基 ピット　260基 風倒木痕　１基 畠跡　１箇所 道路状遺構　１条	縄文土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦、石製品、鉄製品、中世・近世陶磁器　他	なし

元総社蒼海遺跡群（16）

2008年２月21日　印　刷
2008年２月28日　発　行

編集発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10―２
TEL　027―231―9531
印刷所　朝日印刷工業株式会社